
ご注意

本書およびその内容は現状のまま提供されるもので、将来予告なしに変更される可能性があります。本書に関して、Hewlett Packard 社は特定用途に対する商品性および適合性についての黙示的保証は一切いたしません。また、本書の記載の誤り、あるいは本書の配布、利用に伴って生じる偶発的、結果的損害に関して責任を負いません。

オーストラリアとイギリスのお客様へ:上記の「ご注意」はオーストラリアとイギリスのお客様には適用されず、消費者の法定権利に影響はありません。

© Copyright Hewlett-Packard Company 2000. All rights reserved. 著作権法によって許可されている場合を除いて、本書の一部または全部を、Hewlett Packard 社の書面による事前の許可なくして複写、転載、翻訳することは禁止されています。

この製品を制御するプログラムには、著作権があり全権が保護されています。これらのプログラムの複製、改変、翻訳は、Hewlett Packard 社の書面による事前の許可がない限り、禁止されています。

この製品を制御するプログラムの中には、Microsoft Corporation、SystemSoft Corp.、Phoenix Technologies, Ltd.、ATI Technologies Inc. および Adobe Systems の各社が著作権を有する部分があります。著作権情報について詳しくは、それぞれのプログラムを参照してください。

Microsoft®、MS-DOS®、および Windows® は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。Pentium および Intel Inside ロゴは Intel Corporation の米国における登録商標であり、Celeron™ および SpeedStep™ は同社の米国における商標です。TrackPoint™ は International Business Machines 社の米国における登録商標です。Adobe® および Acrobat® は Adobe Systems Incorporated の商標です。

Hewlett-Packard Company
Mobile Computing Division
19310 Pruneridge Ave.
Cupertino, CA 95014

HP ソフトウェア製品ライセンス契約

この HP ノートブック PC には、出荷前にソフトウェアがインストールされています。使用開始前に、このソフトウェア製品ライセンス契約書をお読みください。

この機器を使用する前にこのライセンス契約書を注意深く読んでください。ソフトウェアを使用する権利は、お客様がライセンス契約のすべての条項に承諾することを前提としてのみ許諾されます。この機器を使用することによって、本契約書の条項に同意するものとみなされます。本契約の条項に同意しない場合は、直ちにハードディスクドライブからソフトウェアを削除して Recovery CD-ROM を破棄するか、あるいは全製品を返品して全額払い戻しを受けてください。

セットアップを開始することによって、本契約書の条項に同意するものとします。

以下に記載されていないかぎり、この HP ソフトウェア製品ライセンス契約書は、HP コンピュータ製品の一部としてお客様に提供されるすべてのソフトウェアの使用に適用されます。本契約書は、オンライン文書、その他の文書、あるいはこのコンピュータ製品のパッケージ内に含まれているいかなる文書に記載されている HP 以外のソフトウェア製品ライセンス契約書にも取って代わるものとします。

注意:Microsoft によるオペレーティングシステムソフトウェアは、Microsoft のドキュメントに含まれている Microsoft End User License Agreement (EULA) によってお客様にライセンスが許諾されています。

本ライセンス契約書はソフトウェアの使用を以下のように制限します。

使用:本ソフトウェア製品は、1 台のコンピュータ上でのみご使用ください。ネットワーク上で使用したり、複数のコンピュータで使用することはできません。本ソフトウェア製品の逆アセンブル、逆コンパイルは、法律で認可されていない限り、行わないでください。

複製および改変:本ソフトウェアは、保存目的、または正規使用においてバックアップ目的に複製または改変することが不可欠な場合のみ、複製または改変を行うことができます。ただし、複製および改変されたものを他の目的で使用しない場合に限りです。

財産権:物理媒体の財産権を除き、本ソフトウェア製品におけるいかなる権利または財産権も、お客様には譲渡されません。本ソフトウェア製品は、著作権法によって保護されています。このソフトウェア製品は、添付の著作権の通知に明記されている第三者のソフトウェア供給業者によって開発されている場合があります。お客様が本契約の著作権を侵害した場合、該当供給業者に対して責任を負うものとします。

Recovery CD-ROM:購入されたコンピュータに Recovery CD-ROM が付属している場合、(i)製品 RecoveryCD-ROM またはサポートユーティリティソフトウェアは、もともと製品 Recovery CD-ROM が付属していた HP コンピュータのハードディスクを復元する際にのみ使用できます。(ii) 上記製品 Recovery CD-ROM に含まれるマイクロソフト社のオペレーティングシステムソフトウェアを使用する際には、Microsoft End User License Agreement (EULA)が適用されます。

ソフトウェア製品の使用权の譲渡:お客様は、本ライセンス契約の条項に従うことを第三者が事前に合意した場合のみ、譲渡の一部として、第三者に本ソフトウェア製品の使用权を譲渡できます。このような譲渡を行った時点で、お客様の本ソフトウェア製品に対する

使用権はなくなり、お客様は、複製および改変したものを廃棄するか、あるいはこれらを第三者に引き渡すものとします。

サブライセンス付与および公表 :本ソフトウェア製品をリース契約したり、サブライセンス付与したりすることはできません。また、物理媒体で、あるいは遠隔通信によって、本ソフトウェア製品の複製または改変したものを公表してはいけません。ただし、当社が文書で事前に承諾した場合は、この限りではありません。

終了 :お客様が本ライセンス条項のいずれかに違反し、当社が訂正を要求したにもかかわらず、通知から 30 日たっても訂正されないとき、当社は本ソフトウェア製品のライセンスの使用を終了できます。

更新およびアップグレード :本ソフトウェア製品には、更新およびアップグレードは含まれません。別途サポート契約によって更新およびアップグレードが行われる場合があります。

輸出の条件 :合衆国輸出行政規制または他の該当規制に違反して、本ソフトウェア、その複製、または改変したものを輸出または再輸出することはできません。

合衆国政府の制限規定(お客様が米国政府機関に所属される場合、本規定が適用されます) :合衆国政府による使用、複写、または公表は、DFARS 252.227-7013 の技術データおよびコンピュータ・ソフトウェア条項の権利の副段落(c)(1)(ii)で明記されたように制限されます。 Hewlett-Packard Company, 3000 Hanover Street, Palo Alto, CA 94304 U.S.A.DOD 以外の合衆国政府の省および機関の権利については、FAR 52.227-19(c)(1,2)で明記されています。

改版

第 1 版.....2000 年 4 月



このマニュアルは再生紙を使用しています。

目次

ノートブック コンピュータについて	9
梱包内容の確認	10
梱包内容	10
同梱のソフトウェア	11
アクセサリのご案内	11
その他の情報	12
各部の名称	13
正面	13
底面	14
背面	15
ステータス ランプ	16
コンピュータのセットアップ	18
ステップ 1 – バッテリーの取り付け	18
ステップ 2 – AC 電源を接続する	20
ステップ 3 – 電源を入れる	21
ステップ 4 – Windows のセットアップ	22
 コンピュータの使用	23
コンピュータの操作方法	24
コンピュータの起動と終了方法	24
リセットする	25
ポインティングデバイスを使用する	26
ポインティングデバイスを設定する	27
ポインティング デバイスを無効にする	27
Fn ホットキーの使い方	28
Windows キーとアプリケーション キーの使い方	29
埋め込みテンキーの使い方	29
ディスプレイを調整する	30
音量を調整する	30
ノートブック PC で快適な作業を行うために	32
お取り扱いについて	34
ハードディスクドライブを保護する	34
コンピュータのお取り扱い	34
データを保護する	35
ディスプレイを長くご使用いただくために	35
バッテリーを長持ちさせる	36
清掃	36
コンピュータの保護	37
パスワードを設定する	37
セキュリティケーブルを接続する	39

VirusScan ユーティリティを使用する.....	40
PC 識別名の設定.....	40
ハードディスクドライブのロック.....	41

コンピュータを携帯する..... 43

節電機能	44
省電力モードの自動設定	44
電源の手動管理.....	47
ディスプレイを閉じてサスペンドする.....	48
内蔵バッテリーを使う	49
バッテリー状態をチェックする.....	49
バッテリー残量警告が出たときは.....	50
拡張バッテリーの取り付け.....	50
バッテリー持続時間を延ばすには.....	50

接続を行う 53

プラグイン モジュールの使用.....	54
ホットスワップ サポート ソフトウェアのインストール	54
プラグイン モジュールの交換	55
パラレルポートへのフロッピーディスクドライブの取り付け	57
CD または DVD の挿入と取り出し.....	57
DVD ムービーの再生	58
モデムの使用.....	59
モデムを接続する	60
インターネットに接続する	60
インターネットへの接続を切断する	61
ダイヤルアップでネットワークに接続する	61
モデムの設定を変更する	62
電子メールの送受信.....	63
LAN への接続.....	64
LAN に接続する	64
PC カードの接続.....	65
PC カードの装着と取り出し	65
外部デバイスの接続	67
外部デバイス コネクタの位置を確認する	67
外部モニターを使用する	68
プリンタまたは他のパラレル デバイスを接続する	69
外部キーボードまたは PS/2 マウスを接続する	70
USB デバイスを接続する.....	70
シリアル デバイスを接続する	70
オーディオデバイスを接続する	71
赤外線接続を行う.....	71
ドッキング製品を接続する	73

構成と拡張	77
BIOS Setup ユーティリティの実行	78
BIOS Setup ユーティリティを実行する	78
TopTools の使用	84
TopTools をセットアップする	84
RAM 拡張モジュールの取り付け	85
RAM 拡張モジュールを取り付ける	85
RAM 拡張モジュールを取り外す	86
ハードディスクドライブの交換.....	88
ハードディスクドライブを交換する	88
ハードディスクドライブ ホルダを交換する	89
新しいハードディスクドライブの設定	90
 トラブルシューティング	 91
トラブルの解決方法	92
オーディオの問題	92
CD-ROM と DVD の問題	93
ディスプレイの問題	95
ドッキングの問題	95
ハードディスクドライブの問題	96
温度の問題	97
赤外線通信の問題	98
キーボードとポインティングデバイスの問題	98
メモリの問題	100
モデムの問題	101
ネットワークの問題	104
PC カード(PCMCIA)の問題	105
パフォーマンスの問題	106
電源とバッテリーの問題	108
印刷の問題	110
シリアル、パラレル、USB の問題	110
起動時の問題	113
ハードウェアの診断	115
DiagTools 診断テストを実行する	115
ソフトウェアの復元と再インストール	117
ハードディスクを出荷時の状態に復元する	117
BIOS のアップデート	118
 サポートとサービスのご案内	 119
サポートを受けるには.....	120
Web から情報を入手するには	120
HP カスタマケア センター	120
修理を依頼される場合は	122
返送される場合の準備	122

HP 限定保証条件	123
-----------------	-----

仕様と規制情報	125
----------------------	------------

ハードウェア仕様.....	126
---------------	-----

モデム コード一覧	129
-----------------	-----

モデムコード一覧(3Com)	130
----------------------	-----

モデム コード一覧(Ambit)	137
------------------------	-----

安全のために	148
--------------	-----

電源コード	148
-------------	-----

快適な作業を行うために	149
-------------------	-----

バッテリー取り扱い上のご注意	149
----------------------	-----

レーザーの安全性について	150
--------------------	-----

LED の安全性について	150
--------------------	-----

規制に関する情報	151
----------------	-----

Japan	151
-------------	-----

International	152
---------------------	-----

索引	153
-----------------	------------

ノートブック コンピュータについて

梱包内容の確認

OmniBook をご購入頂きましてありがとうございます。OmniBook は、新しい世界標準ともいえるコンピュータです。コンパクトで携帯に便利であるだけでなく、このコンピュータは、ヒューレットパッカード社が自信を持ってお勧めする高品質と細部まで行き届いた使いやすさを持ち合わせています。

このコンピュータには、ご使用に便利な機能がいくつか追加されています。

- これまでの HP ノートブック コンピュータより明るく見やすいディスプレイ
- コンピュータの起動/停止が簡単に行える 2 つの操作ボタン
- ボリューム コントロールを本機右側面のすぐに手が届く位置に配置。必要なときに音声をすばやくシャットダウンできるオーディオオフ ボタンと表示ランプ
- ケーブル コネクタをすべて本機背面に配置。整理されたワークスペースでひろびろと作業できます。

この『リファレンスガイド』には、セットアップと操作方法、および問題が発生した場合の対処法が記載されています。

梱包内容

- HP OmniBook 6000 PC
- メイン バッテリ (インストール済み)
- CD-ROM または DVD ドライブモジュール(インストール済み)
- フロッピーディスク ドライブ ケーブル
- 外付けフロッピーディスク ドライブ ケーブル
- AC アダプタと電源コード
- クイック スタート ガイド
- スタートアップ ガイド
- Recovery CD : このコンピュータに同梱の Windows とその他のソフトウェアをすべて収録しています。
- Microsoft Windows マニュアル
- Mediamatics CD (DVD ドライブ搭載モデル用)

同梱のソフトウェア

このコンピュータには次のソフトウェアがプリインストールされています。

ソフトウェア	機能
HP TopTools	ネットワーク管理者用ツール。ハードウェアとソフトウェアを監視し、その動作状態を確認できます。
Agaté Tioman Hot-Swap	コンピュータをシャットダウンしたり、リブートしたりせずに、プラグイン ベイに設置したモジュールを交換できます (Windows 95 および 98 のみ)。
QuickLink	ファックス機やファックス ソフトウェアへの、ファックス転送やデータ転送が行えます (Windows 98 のみ)。
VirusScan	ウィルス感染の恐れのあるファイルからコンピュータを保護します。
Adobe Acrobat Reader	Web 上で標準的に用いられる Acrobat 形式のドキュメントが表示できます。
HP DiagTools	ハードウェア診断テストを行います。
Mediamatics DVD Express CD	DVD の動作を制御します (DVD ドライブ搭載モデル用)。

アクセサリのご案内

現在、次のようなドッキング用機器、プラグイン モジュールなどのアクセサリをご利用いただけます。

- AC アダプタ
- フロッピーディスク ドライブ モジュール
- 外付けフロッピーディスク ドライブ ケーブル
- CD-ROM ドライブ、DVD ドライブ、CD R/W ドライブ、Zip ドライブ、LS-120 ドライブ、増設用ハードディスク ドライブなどのプラグイン モジュール
- 増設用ハードディスク ドライブ モジュール
- メイン バッテリ
- 拡張バッテリ
- ウェイトセーバ(携帯時の軽量化モジュール)
- 外部バッテリ チャージャ
- ドッキング ベイ アダプタ

ノートブック コンピュータについて 梱包内容の確認

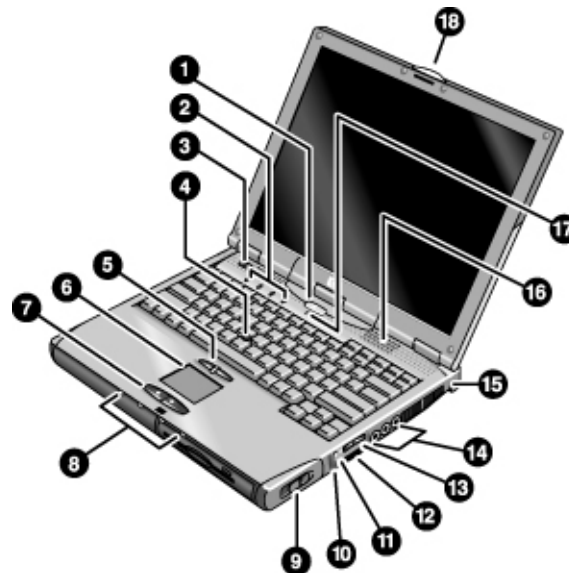
その他の情報

次の表に、本コンピュータと関連製品のマニュアル、Web サイトとその入手方法について記載します。

情報源	内容と入手先
スタートアップ ガイド	このコンピュータの導入方法について説明します(印刷物)。セットアップ方法、基本的な操作方法、トラブルシューティング情報ならびに保証情報についても説明します。
オンラインのリファレンス ガイド	コンピュータのハードディスクにプリインストールされています。コンピュータの操作および保守について詳しく説明します。HP Library グループ、または Recovery CD の ¥hp¥Library に収録されています。
オンライン HP Notes	マニュアルには間に合わなかった最新の情報については、オンラインの HP Library の『HP Notes』、または Recovery CD の ¥hp¥Library を参照してください。
Microsoft Windows 付属マニュアル	このコンピュータに同梱されている Microsoft Windows の使い方が記載されています。
HP Notebook Web サイト	www.jpn.hp.com/go/omnibook www.hp.com/notebooks
HP Customer Care Web サイト	www.jpn.hp.com/go/driver
Corporate Evaluator's Guide	これには、別のオペレーティングシステムをインストールするときの情報やネットワーク環境でこのノートブック PC を使うための情報が収められています。HP Notebook Web サイトから入手できます。

各部の名称

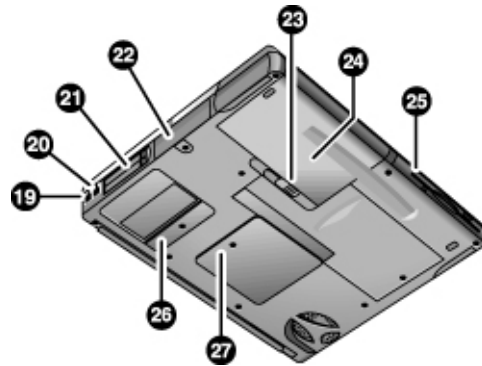
正面



- | | |
|--|---|
| 1. スリープ ボタン: コンピュータの動作をサスペンドまたは復帰します。 | 10. システム オフ スイッチ |
| 2. キーボード ステータス ランプ (左から右へ: Caps Lock, Num Lock, Keypad Lock, Scroll Lock) | 11. オーディオ オフ ボタンとオーディオ オフ ランプ |
| 3. 電源スライド ボタン: コンピュータをオン/オフにします。 | 12. 赤外線ポート (ボリューム コントロールの下) |
| 4. ポインティング スティック (ポインティング デバイス) | 13. ボリューム コントロール |
| 5. クリック ボタンとスクロール ボタン | 14. オーディオジャック (左から右へ): オーディオ出力 (ヘッドフォン)、外部マイク、オーディオ入力 |
| 6. タッチパッド (ポインティングデバイス) | 15. Kensington ロック用スロット (盗難防止用チェーンコネクタ) |
| 7. 左右クリック ボタン | 16. 内蔵スピーカ (両端に1つずつ) |
| 8. メインステータスランプ (左から右へ): 電源ステータス、ハードディスク アクティビティ、メイン バッテリ充電ステータス、拡張バッテリー充電ステータス ランプ | 17. 内蔵マイク |
| 9. モジュールの取り出し用ラッチ | 18. コンピュータ開閉ラッチ |

ノートブック コンピュータについて
各部の名称

底面



19. モデム ポート (一部のモデルのみ)

20. LAN ポート (一部のモデルのみ)

21. PC カードと CardBus スロット (上下 2 スロット)

22. ハードディスクドライブ

23. メイン バッテリー開閉ラッチ

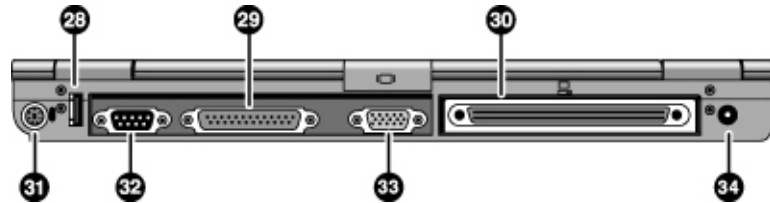
24. メイン バッテリー

25. プラグインモジュールベイ: CD-ROM または DVD ドライブ、フロッピーディスクドライブ、拡張バッテリー、またはその他のプラグイン モジュールを収納

26. Mini-PCI カバー(ユーザ交換可能パーツは含まれません)

27. RAM カバー

背面



28. USB (ユニバーサル シリアルバス)ポート

29. パラレル ポート (LPT1): パラレルプリンタ、その他の
パラレルデバイス、またはフロッピーディスクドライブ
を外付けするために使用します。

30. ドッキングポート

31. PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスポート (Y アダプ
タをサポート)

32. シリアル ポート (COM1): シリアル マウスやモデム、
シリアル プリンタ、その他のシリアル デバイスに使用
します。

33. 外部モニタポート

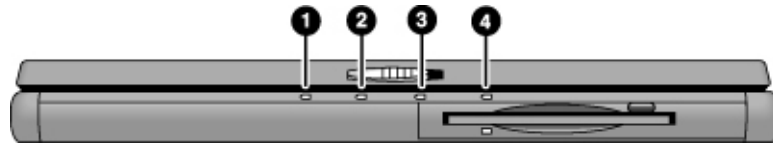
34. AC アダプタジャック

ノートブック コンピュータについて 各部の名称

ステータス ランプ

本機には様々なステータス ランプがあり、電源やバッテリー、ドライブの状態および Caps Lock や Num Lock などキーボードの状態を示します。

次の図はコンピュータ正面にあるステータス ランプを示します。



1. 電源ステータスランプ

- 緑色:電源オンまたディスプレイオフ モード (Windows 98 および 2000)
- オレンジ色:スタンバイ モードまたはディスプレイオフ モード(Windows 95)
- 消灯:電源オフまたはハイバネート(休止)モード
- 赤色:復帰に失敗したため、リセットの必要があります。

2. ハードディスク ドライブ アクティビティ ランプ

- 緑色:ハードディスク ドライブを使用中

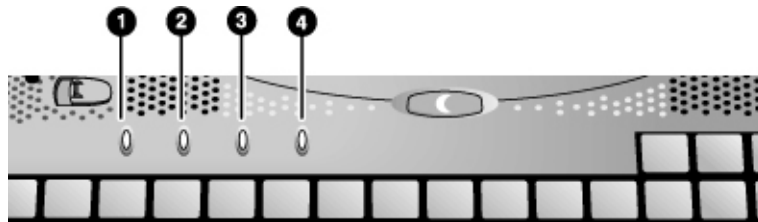
3. メイン バッテリ ステータス ランプ

- 緑色: AC アダプタに接続中で、バッテリーは充電済みです。
- オレンジ色: AC アダプタに接続し、バッテリーを充電中です。
- 赤色: AC アダプタに接続中ですが、バッテリーが装着されていないか、バッテリーに障害が発生しています。
- 消灯: AC アダプタが接続されていません。

4. 拡張バッテリー ステータス ランプ

- 緑色: AC アダプタに接続中で、バッテリーは充電済みです。
- オレンジ色: AC アダプタに接続し、バッテリーを充電中です。
- 赤色: バッテリーに障害が発生しています。
- 消灯: AC アダプタが接続されていないか、拡張バッテリーが装着されていないか、バッテリーの充電が行われていません。

キーボードステータス ランプは、キーボードの上部にあり、キーボードロックの状態を示します。



1. **Caps Lock** : Caps Lock がオンです。
2. **Num Lock** : Num Lock がオンです(埋め込みテンキーを使用するには、Keypad Lock もオンにしてください)。
3. **Keypad Lock** : 埋め込みテンキーがオンです (Fn+F8)。数字キーを使用するには、Num Lock もオンにしてください。それ以外の場合はカーソル移動キーが使用できます。
4. **Scroll Lock** : Scroll Lock がオンです。

コンピュータのセットアップ

警告

キーボードやその他の入力デバイスを適切でない方法で使用すると、身体の障害を引き起こす可能性があることが報告されています。このような事態を未然に防ぐためには、オンラインの HP Library にある『快適な操作環境』をお読みください。または人間工学専門ウェブサイト <http://www.hp.com/ergo> を参照してください。コンピュータをご利用になる際の注意事項については、32ページの「ノートブック PC で快適な作業を行うために」をご覧ください。

ノートブック PC を頻繁に使用したり、長時間にわたって使用するときは、できるだけフルサイズのキーボード、モニター、マウスを使用するようにしてください。これにより、身体に対する負担を軽減することができます。詳しくはオンラインの HP Library にある『快適な作業を行うために』をご覧ください。

初めてコンピュータのセットアップを行う前に、まずバッテリーの装着と充電を行って、AC アダプタを接続してからコンピュータの電源を入れてください。これらの一連の作業を行ってから、Windows のセットアッププログラムを実行します。

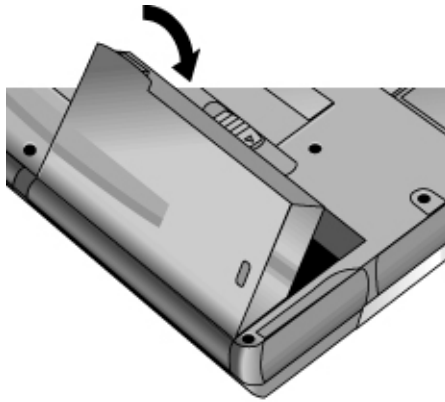
ステップ 1 – バッテリーの取り付け

警告

バッテリーを分解したり、穴を開けたりしないでください。また、バッテリーを火の中に投入しないでください。破裂したり、有害な化学物質が漏れ出したりするおそれがあります。充電可能なバッテリーは、リサイクルするか適切な方法で廃棄してください。

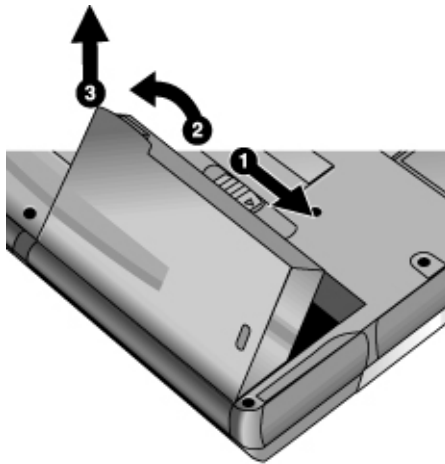
このコンピュータには、バッテリーがあらかじめ装着された状態で出荷されています。バッテリーが装着されていなかった場合は、次の手順で装着します。

1. コンピュータを裏返しに置きます。
2. バッテリーの前面(丸みのある方)をコンピュータ底部のバッテリー コンパートメントに差し込み、所定の位置にカチッと収まるまでバッテリーの後部を押します。



バッテリーの取り外し

- バッテリーのリリース ラッチをスライドさせ、バッテリーをコンパートメントから持ち上げて取り出します。



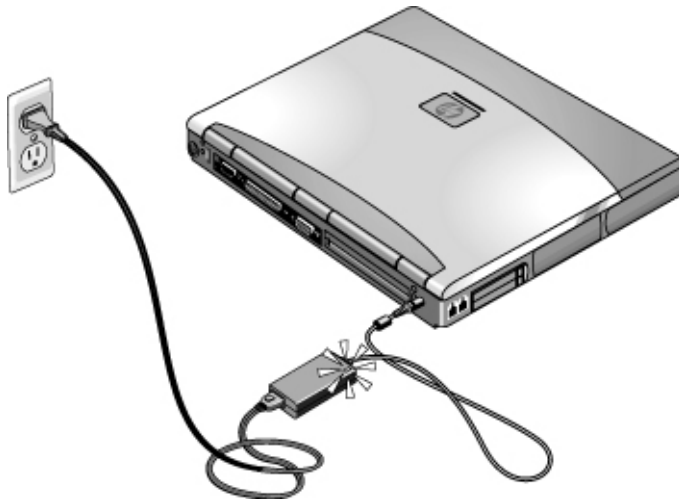
ノートブック コンピュータについて コンピュータのセットアップ

ステップ 2 – AC 電源を接続する

注意

この製品には 同梱の専用 HP AC アダプタのみ(またはその他の認定アダプタ)を使用してください。他の AC アダプタはコンピュータに損傷を与えることがあり、保証の対象外となります(このマニュアルの保証条件を参照してください)。

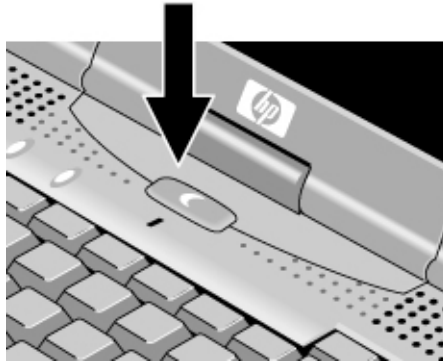
- AC アダプタ ケーブルをコンピュータ背面のアダプタ ジャックと AC 電源に差し込みます。バッテリーの充電が開始します。



バッテリーを充電しながら、ステップ 3 の作業を続けることができます。

ステップ 3 – 電源を入れる

- キーボード上部にある青色のスリープ ボタンを押します。コンピュータがブートし、Windows が自動的に起動します。



ヒント

バッテリーが消耗すると、本機の電源が入らないことがあります。このような場合は、本機を AC アダプタに接続してから、再度青色のスリープボタンを押してください。AC アダプタは最低 1 時間以上接続してください。

ノートブック コンピュータについて コンピュータのセットアップ

ステップ4- Windows のセットアップ

本機のハードディスク ドライブには、Microsoft Windows 95、98、または 2000 のいずれかがプリインストールされています。本機の電源を初めて入れると、Windows セットアップ プログラムが自動的に起動し、続いて本機のセットアップとカスタマイズが始まります。

- 画面に表示される手順どおりにセットアップを行います。プロダクト ID の入力を求めるメッセージが表示された場合、コンピュータ底面のコード番号をご覧ください。

西暦 2000 年問題

当社は、プリインストールされたオペレーティング システムまたはアプリケーション ソフトウェアを含む他社製品が、西暦 2000 年問題に対応していることを表明または保証いたしません。これらの製品で西暦 2000 年問題への追加措置が必要かどうかは、ソフトウェアの製造元まで直接お問い合わせください。

Microsoft 社のオペレーティング システム ソフトウェアおよびアプリケーションの一部には、西暦 2000 年問題に対応するためのソフトウェア パッチのインストールが必要であったり、今後、追加パッチのインストールが必要になるものがあります。本製品付属のオペレーティング システム ソフトウェアおよび Microsoft 社製アプリケーションに対しても、上記の対応パッチのインストールが必要となる可能性があります。詳細については、下記の Microsoft 社「西暦 2000 年問題情報」サイトをご覧ください。

<http://www.microsoft.com/y2k> (英語)

<http://www.microsoft.com/japan/year2k> (日本語)

コンピュータの使用

コンピュータの操作方法

本機は、青色のスリープ ボタンを使って簡単に起動および終了することができます。また、それ以外にも次のように起動、終了する方法があります。省電力への配慮、ネットワーク接続の種類、起動時間の長短で特徴がありますので、場合に応じて最適なものをお選びください。

コンピュータの起動と終了方法

省電力モード	省電力モードへの移行	復帰
ディスプレイオフ モード 電力をわずかに節約します。 ディスプレイとハードディスクの電源を切ります。 すばやく再開できます。 ネットワーク接続は保持されます。	タイムアウトするまで待ちます。	キーをどれか押すか、またはポインティングデバイスを動かすと、表示が元に戻ります(インスタントオン)。
スタンバイ モード 電力をかなり節約します。 ディスプレイとその他のコンポーネントの電源を切ります。 現在のセッションを RAM に保存します。 すばやく再開できます。 ネットワーク接続は復元されます。	青色のスリープ ボタンを押します。 —または— (Windows 95) [スタート]、[サスペンド]の順にクリックします。 (Windows 98 および 2000)[スタート]、[シャットダウン]、[スタンバイ]の順にクリックします。 —または— タイムアウトするまで待ちます。	青色のスリープ ボタンを押すと、現在のセッションを表示します(インスタントオン)。
ハイバネート (休止) モード 電力を最大限節約します。 現在のセッションをディスクに保存し、シャットダウンします。 ネットワーク接続は復元されます。	[Fn]+[F12]を押します。 —または— [スタート]、[シャットダウン]、[休止]の順にクリックします。(Windows 2000) —または— タイムアウトするまで待ちます。	青色のスリープ ボタンを押すと、再起動し、直前のセッションを復元します。
シャットダウン(オフ) 電力を最大限節約します。 現在のセッションを保存せずに電源を切ります。 起動時に、すべてをリセットし、新しくセッションを開始してネットワーク接続を復元します。	[スタート]、[シャットダウン]の順にクリックします(推奨)。 —または— 電源ボタンをスライドします。	青色のスリープ ボタンを押すと、新しいセッションを開始します。

これらの省電力モードの設定は変更できます。44ページの「省電力モードの自動設定」を参照してください。

ヒント

モジュール ベイの CD-ROM または DVD から起動するには、再起動中に HP ロゴとプロンプトが表示されたときに、[ESC]を押します。続いて表示される画面で、一時的に使用する起動デバイスとして CD-ROM/DVD ドライブを選択してください。

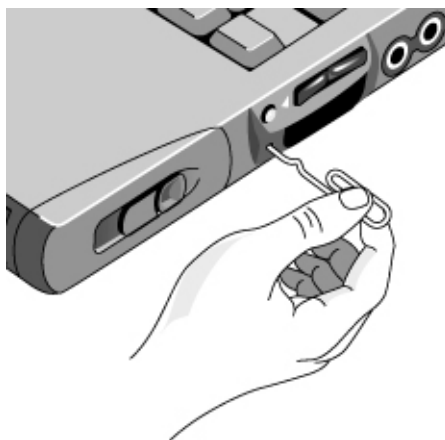
リセットする

使用中に、Windows またはコンピュータが突然応答しなくなり、電源を切ることができなくなったら、次に示す対処方法を最初から順番に試みてください。

1. 可能ならば、Windows をシャットダウンします。[CTRL]+[ALT]+[DEL]を一度に押して、続いて[シャットダウン]をクリックします。
2. 電源ボタンをスライドさせたまま、4 秒以上待ちます。画面が消えたら、続いて青色のスリープ ボタンを押して再起動します。

-これに失敗した場合-

本機右側面のシステムオフ スイッチを先の細いもので押して、続いて青色のスリープ ボタンを押して再起動します。



ポインティングデバイスを使用する

本機にはポインティング スティックとタッチパッドの 2 種類のポインティング デバイスが内蔵されています。



1. ポインティングスティック(圧力感度によるポインティングデバイス)
2. クリック ボタンとスクロール ボタン：クリックボタンは標準マウスの左右ボタンと同じように機能します。スクロールボタンはポインティング スティックと連携し、画面を上下にスクロールします。
3. タッチパッド (接触感度によるポインティングデバイス)
4. 左右クリック ボタン：クリックボタンは標準マウスの左右ボタンと同じように機能します。

移動方法と選択方法

1. タイプするときのように両手を置きます。
2. **ポインティング スティック**：ポインタを移動したい方向に人差し指でポインティングスティックを押します。

タッチパッド：ポインタを移動したい方向にタッチパッド上で指を移動します。

3. 選択するには、左右のクリックボタンを使用します。これらのボタンはマウスの左右ボタンと同じように機能します。
 - アプリケーションを開くには、ポインタをアイコン上に移動して、左ボタンを 2 回続けてすばやく押します。
 - メニューを選択するには、ポインタを目的のアイテム上に移動して、左ボタンを 1 回押します。
 - アイテムのショートカットメニューを開くには、ポインタを目的のアイテム上に移動して、右ボタンを一回押します。

- アイテムをドラッグするには、ポインタをアイテム上に移動します。左ボタンを押したままポインタを新しい位置に移動し、ボタンを離します。

スクロール ボタンを使ってスクロールするには

- スクロール ボタンを押したまま、ポインティング スティックを使ってポインタを動かします。ポインタを動かす方向の画面が表示されます。

ポインティングデバイスを設定する

ポインティングデバイス(ポインティングスティック、タッチパッドおよび 外部 PS/2 またはシリアルマウス) の動作はカスタマイズできます。左右ボタン、スクロール ボタンの動作、ダブルクリックの速度、ポインタの速度などの設定を変更できます。詳細は、[マウス]ウィンドウで[ヘルプ]をクリックしてください。

- タスク バーのタッチパッドアイコンをダブルクリックします。

–または–

[スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[マウス]をダブルクリックします。

ポインティング デバイスを無効にする

内蔵ポインティング デバイスの使用をどれか 1 つだけに限定したい場合は、他のデバイスを無効に設定できます。例えば、入力中に手のひらがタッチパッドに触れてカーソルが動いてしまう場合などは、タッチパッドを無効に設定してもよいでしょう。

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[マウス]をダブルクリックします。

–または–

タスク バーのタッチパッドアイコンをダブルクリックします。

2. [タッチ] タブをクリックし、プルダウン メニューから無効に設定したいデバイスを選択します。
3. ウィンドウ下部の[このデバイスを使用中止にする]を選択します。
4. [OK]をクリックします。

Fn ホットキーの使い方



[Fn]キーと別のキーと一緒に押すと、各種のシステムを制御するショートカットキーになります。ホットキーを使用するには、[Fn]を押したまま必要なキーを押して、続いて両方のキーから指を離します。

ホットキーの組み合わせ	機能
Fn+F1	ディスプレイの輝度を下げます。
Fn+F2	ディスプレイの輝度を上げます。
Fn+F5	内蔵ディスプレイ、外部ディスプレイ、同時ディスプレイの使用を切り替えます。
Fn+F7	音量をゼロにします。
Fn+F8	内蔵キーパッドのオン/オフを切り替えます。外部キーボードには影響しません。Num Lock がオンの場合は数字入力、それ以外の場合はカーソル制御が行えます。
Fn+F12	ハイバネート (休止) モードに移行します。
Fn+NumLock	Scroll Lock のオン・オフを切り替えます。
Fn+上矢印キー	音量を上げます。
Fn+下矢印キー	音量を上げます。

外部キーボードで使用できる組み合わせは、[Fn]+[F5]、[Fn]+[F7]、[Fn]+[F12]に限られます。これらのキーを使用するには、左側の[CTRL]と[ALT]を同時に押しながら、必要なキーを押して、続いて両方のキーから同時に指を離します。

Windows キーとアプリケーション キーの使い方



Windows キーを押すことによって、Windows のスタート メニューが表示されます。タスクバーの[スタート]ボタンをクリックしたときと同じ働きをします。



アプリケーション キーを押すことによって、作業中のアプリケーションのショートカットメニューが表示されます。これは、アプリケーション内で右マウスボタンをクリックしたときに表示されるメニューと同じです。

ホットキーの組み合わせ

Windows キー+E

Windows キー+F1

Windows キー+F

Windows キー+M

Shift+Windows キー+M

Windows キー+R

機能

エクスプローラを起動する

ヘルプを起動する

[検索]を起動する:[ファイルやフォルダ...] ダイアログ ボックス

すべてのウィンドウを最小化 (アイコン化) する

最小化したウィンドウを元の大きさに戻す

[ファイル名を指定して実行]を起動する

埋め込みテンキーの使い方

内蔵キーボードには、テンキーが埋め込まれており、これを利用して、数値の入力や演算が行えます。テンキーにはそれぞれ、薄い金色の文字が印字されています。

- [Fn] + [F8] を押して、埋め込みテンキーをオンにします。
- [Fn]を押したまま、任意のキーを打つと、テンキーが一時的にオンになります。

テンキーがオンになっているときに Num Lock のオン・オフを切り替えて、テンキーの動きを次のように変更できます。

- Num Lock がオンの場合：キーボードに薄い金色で印刷されている計算記号キーとして入力できます。
- Num Lock がオフの場合：カーソル制御キーとして動作します。

ディスプレイを調整する

輝度を変更するには

- [Fn]+[F1]を押して、画像を暗くします。
- [Fn]+[F2]を押して、画像を明るくします。

バッテリー持続時間を伸ばすためには、輝度をできるかぎり低く設定してください。

ディスプレイの設定を変更するには

色の深度やデスクトップ領域など、いくつかの項目でディスプレイをカスタマイズできます。

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[画面]をダブルクリックします。
2. [設定]タブをクリックし、必要な設定を行います。

外部モニタを使用するには

本機には外部モニタを接続できます。68ページの「外部モニタを使用」を参照してください。

音量を調整する

キーボードでの音量調整

- 音量を上げるには、本機の右側面にあるボリューム コントロールの音量ダウン ボタン(後ろ半分)を押します。
-または-
[Fn]+上矢印キーを押します。
- 音量を下げるには、ボリューム コントロールの音量アップ ボタン(前半分)を押します。
-または-
[Fn]+下矢印キーを押します。
- 通常のミュート機能を切り替えるには、[Fn]+[F7]を押します。

オーディオオフ ボタンでの音量調整

本機に内蔵のオーディオオフ ボタンを使って、スピーカとの接続を一時的に切断することができます。音量を変更したり、ミュートに設定したりする必要はありません。この機能は普通に作業を続けながら、音声をすべてシャットアウトしたいときに便利です。

- スピーカ接続のオン・オフを切り替えるには、本機右側面のオーディオオフ ボタンを押します。スピーカとの接続が切断されるとオーディオオフ ランプが点燈します。

Windows での調整

1. タスクバーにある[音量]アイコンをクリックします。
2. ボリュームコントロールのつまみを上下にドラッグして音量を調整します。
3. 音量設定を変更せずに、一時的に消音するには、[ミュート]をクリックします。

ノートブック PC で快適な作業を行うために

警告

キーボードやその他の入力デバイスを不適切な方法で使用すると、身体の障害を引き起こす可能性があることが報告されています。これを未然に防ぐためには、オンラインの『HP Library』に収録の『快適な操作環境』、または人間工学専門ウェブサイトの www.hp.com/ergo を参照してください。

注記

HP ノートブック コンピュータはお客様の用途に応じて、場所時間を選ばずご利用いただけますが、安全かつ快適にご利用いただくためには、次の注意事項をよくお読みください。

ノートブック PC を頻繁に使用したり、長時間にわたって使用したりする場合はできるだけフルサイズのキーボード、モニタ、マウスを使用してください。これにより、幅広く調節が利くようになり、デスクトップ PC 並みの快適性が得られます。さらに、HP ドッキング用アクセサリを使用すればこれらの機器の接続がより簡単になります。作業環境の準備および HP 機器の設置方法についての詳細は、『快適な作業環境』をご覧ください。このファイルはハードディスクの『HP Library』、Recovery CD の hp.com/ergo、および www.hp.com/ergo に収録されています。

モバイル作業環境を整える

- 背もたれがついた椅子をご使用ください。調節可能な椅子がなければ、枕やタオルを巻いたものを後ろにおき、背中と腰をしっかりと支えるようにしてください。
- 太腿と床を平行にし、足の裏を床につけて座ります。外出先では、電話帳やブリーフケースなどを足の下に置いて足を支えるようにしてください。
- 両腕が自然な位置にくるように、作業面または椅子の高さを調節します。両腕をリラックスさせてゆったりと体の横におき、肘から先が床と水平になるようにします。
- モニタの位置を調節し、モニタ画面の反射を最小限に抑えます。飛行機などの機内で使用するときには外の光が反射しないように窓のシェードをおろし、ホテルではカーテンを引いてください。目が疲れないようにモニタとの距離を調整します(約 40 から 60 cm 離します)。モニタの位置が目線よりやや下になるくらいまで、モニタの角度を調節してください。

モバイル コンピュータの使用

- 手首が自然な位置にくるようコンピュータの位置を調節します。手首は左右に曲げず、上下約 10 度以上曲がらぬように、できるだけまっすぐに伸ばしてください。本機にパームレストが付属していない場合、タオルなどを巻いたもので代用してください。
- キーボードはできるだけ軽くタイプしてください。ノートブック PC のキーボードは軽く押すだけで簡単に反応します。

コンピュータの使用 ノートブック PC で快適な作業を行うために

- 短い休憩を頻繁にとってください。モバイル環境では作業中に適度な休憩をとることが特に大切です。
- ポータブル コンピュータの重量は約 1.4 から 3.7 キロあります。携帯時は身体への負担を最小限まで抑えるため、正しい方法でお持ち運びください。右腕、左腕、肩と、持つ位置を変えながら持ち運ぶとよいでしょう。

お取り扱いについて

ここではコンピュータの取り扱い方法、日頃のお手入れ、また破損やデータの消失を未然に防ぐための注意事項について説明します。

ハードディスクドライブを保護する

ハードディスクや他の内部機器は非常に精密な電子部品からできているため、操作の誤りや不適切な取り扱いなどが原因で破損してしまう可能性があります。ご使用に際して次の注意事項を必ず守ってください。

- 振動や衝撃を与えないでください。
- 激しい揺れのある場所で使用しないでください。
- 携帯時は、前もってサスペンドまたはシャットダウンしてください。これによりハードディスクの電源がオフになります。ハードディスクが稼働している状態で、万一本機を落とした場合、たとえ低い場所から落としてもハードディスクが破損したり、データが消失したりする可能性があります。
- 携帯時は振動や衝撃から本機を守るため、ソフトケースに収納してください。
- 本機はゆっくりと慎重に置いてください。

コンピュータのお取り扱い

- 十分な換気が行えるよう本機の周辺に物を置かないでください。本機は必ず平らな面に置き、本体周辺と底部に空気が流れるだけの隙間ができるようにしてください。
- キャリングケースなどに入れる際は、前もってハイバネート(休止)モードにするか、電源をオフにしてください。
- ディスプレイ部分を持って持ち運ばないでください。
- 125ページの「ハードウェア仕様」に記載されている使用温度制限などの仕様内容をよくお読みください。本機は雨や雪が降る屋外では使用しないでください。

データを保護する

- システムの起動中や電源の切断中にタッチパッドに触れたり、他のデバイスを使用したりして処理を中断させないでください。
- 作業中のデータのバックアップは定期的に行ってください。ファイルはフロッピー、テープ、またはネットワーク ドライブにコピーしてください。
- 内蔵の VirusScan など、ウィルス スキャン プログラムを定期的に行って、ファイルやオペレーティングシステムの完全性をチェックしてください。新種のウィルスは頻繁に発見されているので、プログラムのウィルス定義のアップデートは定期的に行う必要があります。アップデート ファイルは、www.networkassociates.com から入手できます。
- スキャンディスク ユーティリティを使って、ディスクの状態を確認してください。

ディスプレイを長くご使用いただくために

- ディスプレイの輝度をできるだけ暗く設定します([Fn]+[F1])。
- 机上で作業する場合は、外部モニタに接続して内蔵ディスプレイをオフにします([Fn]+[F5])。
- 外部モニタを使用していないときは (AC アダプタまたはバッテリー駆動に関わらず)、モニタのタイムアウト時間を最も短い間隔に設定します。
- スクリーン セーバなど、画面表示をオフにできないソフトウェアの使用は避けてください。タイムアウト後にディスプレイオフ モードやスタンバイ モードに移行できません。Windows 95、98、または 2000 でスクリーンセーバを使用する場合は、指定した時間が経過した後にディスプレイをシャットオフできるオプションを選択してください。
- ディスプレイオフまたはスタンバイ モードでのタイムアウト設定を無効にしないでください。
- AC 電源を使用中でも外部モニタが接続されていなければ、使用時以外はディスプレイオフまたはスタンバイモードに設定してください。

バッテリーを長持ちさせる

- バッテリーは長期間使用しないまま放置しないでください。バッテリーを複数お持ちの場合は、取り替えながら使用します。
- 通常 AC 電源を使用する場合は、少なくとも一週間に一度、電源としてバッテリーを使用する習慣をつけてください。
- コンピュータを使用していないときは、AC アダプタを外してください。
- バッテリーを長持ちさせるために、定期的にバッテリーの充電を行ってください。
- バッテリーを長期間保管する場合は、放電によるバッテリー容量の低下や性能の劣化を抑えるため、約 20～50%ほど充電した状態に保ってください。フル充電の状態で保管すると、20～50% 充電で保管した状態に比べて、放電量が高くなり、再充電後も最大の性能を発揮できなくなります。

清掃

- 本体表面は水に軽く湿らせたやわらかい布、または水とごく少量の中性洗剤を含ませた布で拭いてください。極端に濡れた布で拭いたり、本体内部に水が流れ込んだりしないようにご注意ください。
- クレンザーなどで拭かないでください。特に、ディスプレイへの使用は避けてください。ディスプレイにクリーナを直接吹き付けしないでください。ディスプレイを掃くときは、クリーナをやわらかい布に含ませてから、そっと拭いてください。
- キーボードに溜まった埃やごみなどは掃除機を使って吸い取ってください。

コンピュータの保護

パスワードを設定する

パスワードを設定しておくことにより、本機への他のユーザのアクセスを制限できます。パスワードの設定は、Windows 98 および 2000、または BIOS Setup ユーティリティで行います。Windows 98 または 2000 をご使用の場合、セキュリティを確実なものにするために、パスワードは BIOS とオペレーティング システムの両方で設定してください。

パスワード保護を取り消すには、空のパスワードを設定します。

BIOS Setup ユーティリティ(Windows 95、98、または 2000)

1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
2. HP ロゴが表示されたら、[F2] を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。
3. Security メニューで、必要に応じて、管理者パスワードまたはユーザパスワードを入力(または変更)します。81 ページの「Security メニュー」を参照してください。
4. [F10] を押し、変更を保存して BIOS Setup を終了します。

Windows 98

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[パスワード]をダブルクリックします。
2. [パスワードの変更]タブ、[Windows パスワードの変更]の順にクリックし、パスワードを設定します。
3. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[電源の管理]をダブルクリックします。
4. [詳細] タブで、コンピュータがスタンバイ モードから回復するときにパスワード入力を求めるオプションを選択します。

Windows 2000

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[ユーザとパスワード]をダブルクリックします。
2. [ユーザ]タブをクリックし、必要に応じてユーザ名とパスワードを作成または変更します。詳細は、Windows のヘルプを参照してください。

コンピュータの使用

コンピュータの保護

3. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[Power]をダブルクリックします。
4. [詳細] タブで、コンピュータがスタンバイ モードから回復するときにパスワードの入力を求めるオプションを選択します。

セキュリティケーブルを接続する

本機には、Kensington MicroSaver ロックシステムなどの盗難防止用チェーンを差し込むコネクタが付属しています。盗難防止チェーンは一般のコンピュータ販売店で購入することができます。

1. 机の脚など、しっかりしたものにケーブルをからませます。
2. ループを作ってケーブルを通し、ケーブルが抜けないようにします。
3. ロックを本機右側面のセキュリティ コネクタに差し込み、キーを外します。キーを安全な場所に保管します。



VirusScan ユーティリティを使用する

アンチ ウィルス ソフトウェアは、大切なデータをコンピュータ ウィルスから保護するのに役立ちます。インターネットなどを使用しているときは、このソフトウェアが特に必要です。

本機には、VirusScan がプリインストールされています。VirusScan を使用する前に、ソフトウェアをインストールする必要があります。

1. [スタート]、[プログラム]、[VirusScan]、[Setup]の順にクリックします。
2. 画面に表示される指示に従ってください。

使用方法についての詳細は、VirusScan のオンライン ヘルプを参照してください。

PC 識別名の設定

PC の識別名を設定するためには、管理者パスワードが必要です。

1. HP TopTools をまだインストールしていない場合はインストールします。84ページの「TopTools の使用」を参照してください。
2. [スタート]、[プログラム]、[HP TopTools for Notebooks]、[HP TopTools]の順にクリックします。
3. [Security]をクリックし、管理者パスワードを入力して、[ENTER]を押します。
4. [Settings and Actions]をクリックします。
5. [Tattooing String] ボックスに、PC を識別するための一意の文字列を入力します。空白および特殊文字を含め最大で 80 文字まで入力できます。入力中に[ENTER]キーを押さないでください。文字列は自動的に折り返します。

ハードディスクドライブのロック

ハードディスク ドライブをロックして、ディスク内のデータを保護することができます。このハードディスク ドライブ ロック機能は、モジュール ベイにインストールされている 2 番目のハードディスク ドライブに対しては使用できません。

注意

ハードディスクドライブ ロックを有効にすると、現在の BIOS ユーザ パスワード (管理者パスワードだけを設定している場合は、管理者パスワード) がハードディスクドライブに記憶されます。

ハードディスクドライブを別のコンピュータに移した場合は、ユーザ パスワード (あるいは管理者パスワード) とドライブのパスワードが一致しなければ、このドライブにアクセスできません。ドライブのパスワードが一致すれば、本機(およびドライブ)のパスワードを変更できます。パスワードを忘れると、データを復元できなくなるのでご注意ください。

-
1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
 2. HP ロゴが表示されたら、[F2]を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。
 3. [Security]メニューで [Password Required To Boot] を有効にします。
 4. [Security]メニューで [Internal Hard Disk Drive Lock] を有効にします。
 5. [F10] を押し、変更を保存して BIOS Setup を終了します。

コンピュータを携帯する

節電機能

バッテリー電源でコンピュータを使っているときは、性能を落とさずにできる限り長時間使用したいものです。本機は電源を切らなくても電力消費をできるだけ抑え、バッテリーを長持ちさせるように設計されています。

- アイドル状態のまま、あらかじめ指定しておいたタイムアウト時間が経過すると、省電力モードに移行します。タイムアウト時間は作業習慣に合わせて調節できます。
- 指定キーを押すことにより、いつでも省電力モードに移行させることができます。詳細は、47ページの「電源の手動管理」を参照してください。

省電力モードの自動設定

本機は、[電源管理のプロパティ]ウィンドウ(Windows 98 および 2000)、または BIOS Setup ユーティリティ(Windows 95)の設定値に基づいて、自動的にハイバネート(休止)モード、スタンバイモード、ディスプレイオフモードに移行し、ハードディスクの電源を切ります。

自動設定モード	移行条件	復帰方法
ハードディスクの電源を切る ハードディスクドライブの電源を切ります。このモードには通常ディスプレイの電源が切れた少し後に移行するよう設定されています。	指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないとき	コンピュータの使用を開始すると、ハードディスクの電源が入ります。
ディスプレイオフモードに移行する バッテリーの消費を抑え、ディスプレイの寿命を延ばすため、ディスプレイとハードディスクの電源を切ります。	指定した時間、キーボード、ポインティングデバイスなどの動きがないとき	任意のキーを押すか、ポインティングデバイスを動かすと、元の作業状態に戻ります。
スタンバイモードに移行する 現在の作業状態をメモリに保存してから、バッテリーの消費を抑えるため、ディスプレイや他のコンポーネントの電源を切ります。	指定した時間、ポインティングデバイスの動き、ディスクへのアクセス、ポート(シリアル、パラレル、赤外線)の動作がないとき	青色のスリープボタンを押すと、元の作業状態に戻ります。
ハイバネート(休止)モードに移行する 現在の作業状態をハードディスクに保存してから、コンピュータの電源を切ります。	指定した時間、ポインティングデバイスの動き、ディスクへのアクセス、ポート(シリアル、パラレル、赤外線)の動作がないとき	青色のスリープボタンを押すと、元の作業状態を復元します。
CPU 速度を減速する(SpeedStep のみ) 電力をより効率的に使用するため、CPU を低速モードに切り替えます。下記を参照してください。	AC アダプタ プラグが取り外されたとき	AC アダプタを接続します。

Windows 98 および 2000 では、スタンバイ モードに移行する 15 秒前にメッセージ ボックスが表示されます。これにより、未保存のものがあれば、いったん作業を中止して作業内容を保存できます。

注意

スタンバイ モードに入る前は、常に作業内容を保存するように心がけてください。スタンバイ モードのときに電源が切れると、ディスクに保存されていない情報は失われます。

バッテリーの残量が非常に低下すると、本機はハイバネート (休止) モードに移行しますが(50 ページの「バッテリー残量警告が出たときは」を参照)、復帰時にすべてのデータは保存されていても、一部の機能が使用できなくなることがあります。このようなときは、AC 電源に接続するか、充電済みのバッテリーと交換して電源を補充した後、通常のシャットダウンを行ってからコンピュータを再起動してください。

タイムアウトの設定と電源スキームの作成

タイムアウト時間を設定して、指定時間内に使用されなかったときに自動的にコンピュータをシャットダウンしたり、省電力モードに移行させたりすることができます。これらの設定内容は電源スキームとして保存することもできます。

- **Windows 95**

1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
2. HP ロゴが表示されたら、[F2] を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。[Power]メニューで、必要なタイムアウト値を入力します。82ページの「Power メニュー」を参照してください。
3. [F10]を押し、変更を保存して BIOS Setup を終了します。

- **Windows 98 および 2000**

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[電源]をダブルクリックします。
2. [電源設定]タブをクリックし、必要な設定を行います。タイムアウト時間を特に設定したくない場合は、値を[なし]にします。詳細は、Windows のヘルプを参照してください。

設定内容を電源スキームとして保存したい場合は、[名前を付けて保存]をクリックし、スキームに名前を付けて保存します。

Windows 98 の場合は、BIOS Setup ユーティリティでハイバネート (休止) モードのタイムアウト値を変更します。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。

注意

Windows 2000 をご使用の場合は、[電源オプション]設定項目の[休止状態をサポートする]を無効にしないでください。無効に設定すると、バッテリーが消耗し切った場合、未保存のデータがすべて失われます。

コンピュータを携帯する 節電機能

CPU の電源管理 (SpeedStep)

本機のタスクバーに[Intel SpeedStep Technology]アイコンが表示されている場合、Intel SpeedStep Technology に基づくデュアルスピードプロセッサが搭載されています。この機能は、バッテリー使用中にコンピュータの CPU 速度を通常より遅くして、省電力モードに自動的に切り替えるものです。

- AC アダプタに接続した状態でコンピュータを再起動した場合、プロセッサは高速で作動し始めます。バッテリー駆動でコンピュータを再起動した場合、プロセッサは低速モードに移行します。
- スタンバイ モードで動作中に AC アダプタを取り外した場合、プロセッサは低速モードに移行します。
- スタンバイ モードで動作中に AC アダプタを接続した場合、プロセッサは高速モードに移行します。

SpeedStep は、作業環境に合わせて調節できます。

- 起動時のプロセッサ速度を設定するには、BIOS Setup ユーティリティの[Power]メニューにある[Intel SpeedStep Mode] 設定を変更します。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。
- Windows が動作中にプロセッサ速度を設定するには、タスクバーにある[Intel SpeedStep Technology]アイコンをダブルクリックします。

電源の手動管理

本機は、省電力モードに自動的に移行する以外にも、必要に応じて次の3種類のモードに手動で移行させることができます。

省電力モード	機能	使用する時	省電力モードへの移行方法
スタンバイ	現在の作業状態をメモリに保存し、ディスプレイや他のコンポーネントの電源を切ります。	コンピュータからしばらくの間離れるとき	青色のスリープ ボタンを押します。 –または– (Windows 95) [スタート]、[サスペンド]の順にクリックします。 (Windows 98 および 2000) [スタート]、[シャットダウン]、[スタンバイ]の順にクリックします。
ハイバネート	現在の作業状態をディスクに保存し、シャットダウンします。元の作業状態にすぐに復帰できる状態のまま、最大限バッテリーを節約します。	数時間コンピュータから離れるが、現在の作業を続けたいとき	[Fn]+[F12]を押します。 –または– [スタート]、[シャットダウン]、[休止]の順にクリックします。 (Windows 2000)
オフ	本機の電源を切ります。最大の節電効果が得られます。現在の作業状態は保存されないため、未保存のデータは消失します。	作業をすべて終了したとき	[スタート]、[シャットダウン]の順にクリックします(推奨)。 –または– 電源ボタンをスライドします。

コンピュータを携帯する 節電機能

ディスプレイを閉じてサスペンドする

初期設定では、本機のディスプレイの電源はふたを閉じると切れるように設定されています。また、ふたを閉じるとスタンバイ モードにサスペンドするように設定することもできます。

Windows 2000

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[電源]をダブルクリックします。
2. [詳細]タブをクリックし、ふたを閉じたときの動作を選択します。[なし]を選択すると、ふたを閉じたとき自動的にディスプレイ オフ モードに移行します。

Windows 95 または 98

1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
2. HP ロゴが表示されたら、[F2] を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。
3. [Power] メニューで [Lid Switch Mode] を選択します。
4. [Suspend]を選択します。これにより、ふたを閉じるとコンピュータはスタンバイ モードに移行します。
5. [F10] を押し、変更を保存して BIOS Setup を終了します。

内蔵バッテリーを使う

バッテリー状態をチェックする

バッテリーのステータスランプで確認する

本機にはメインバッテリーとモジュール ベイに装着した拡張バッテリー(オプション)の状態を表示するための2つのバッテリー ステータス ランプがあります。16ページの「ステータス ランプ」を参照してください。

Windows のタスクバーで確認する

Windows のタスクバーにある電源アイコンで、バッテリーの状態を詳しく知ることができます。AC アダプタが接続されていないと、アイコンはバッテリーの形になります。

- 電源アイコンの上にマウスカーソルを置くと、残り時間が%で表示されます。この値はバッテリー残量の割合、または残りの使用可能時間を示します。
- [電源]アイコンをダブルクリックすると[電源メーター]ウィンドウが開きます。

Windows のコントロール パネルで確認する

- [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[電源の管理]をダブルクリックします。このウィンドウからは電源に関する Windows のすべての設定オプションにアクセスできます。

バッテリーで確認する

1. バッテリーをコンピュータから取り出します。18ページの「ステップ1—バッテリーの取り付け」を参照してください。
2. バッテリー後部のパッドを押します。点灯しているランプの数で充電状態がわかります。1つのランプはフル充電状態の20%を表します。

コンピュータを携帯する 内蔵バッテリーを使う

バッテリー残量警告が出たときは

本機は、バッテリーの残量が非常に少なくなると、自動的に警告を発します。最初に高音の警告音が鳴ります。この後すぐに充電を始めなければ、コンピュータはハイバネート (休止) モードに移行します。

いったんハイバネート (休止) モードに入ると、電源が回復するまで本機の電源を入れることはできません。次のいずれかの方法で対処してください。

- バッテリーを充電済みのものと交換します。18ページの「ステップ 1 – バッテリーの取り付け」を参照してください。
- AC アダプタを接続します。20ページの「ステップ 2 – AC 電源を接続する」を参照してください。
- 充電済みの拡張バッテリーをプラグイン モジュールベイに取り付けます。50ページの「拡張バッテリーの取り付け」を参照してください。

注記

AC アダプタに接続していれば、バッテリーの充電中でも作業を続けることができます。

拡張バッテリーの取り付け

本機のプラグイン モジュールベイには拡張バッテリーを取り付けることができます。プラグインモジュールの取り付け方法については、54ページの「プラグイン モジュールの使用」を参照してください。

バッテリー持続時間を延ばすには

バッテリーの持続時間をできる限り延ばすためには、次の注意事項にしたがってください。

- できるだけ AC アダプタに接続してください。モジュールベイのドライブ、PC カードやモデムで外部に接続しているときは、特に AC アダプタに接続する必要があります。
- ディスプレイの輝度をできるだけ低く設定します([Fn]+[F1])。
- 短時間でも使用しないときは、スタンバイ モードに設定してください。サスペンドモードにするには、青色のスリープボタンを約 1 秒間押すか、または Windows 95 の場合、[スタート]、[サスペンド]、Windows 98 および 2000 の場合、[スタート]、[シャットダウン]、[スタンバイ]の順に選択します。

コンピュータを携帯する 内蔵バッテリーを使う

- 数時間以上使用する予定がなくても、現在の作業状態を保持したい場合は、[Fn]+[F12]キーを押して本機をハイバネート (休止) モードに設定してください。
- 電力をより確実に節約するために、自動タイムアウトを設定します。本機にデュアルスピードプロセッサが搭載されている場合、バッテリー駆動時は低速モードを使用します(バッテリー電源を節約するためのデフォルト設定です)。47ページの「電源の手動管理」を参照してください。
- PC カード(ネットワークカード等)などの外部接続を持つ I/O カードをお持ちの場合、使用時以外は取り出しておいてください。一部の I/O カードは動作時以外でも、大量の電力を消費します。
- シリアルポートまたは I/O PC カードを使うアプリケーションを使用している場合は、作業を終了したらアプリケーションをすぐに閉じてください。
- 拡張バッテリーを取り付けます。50ページの「拡張バッテリーの取り付け」を参照してください。
- メインバッテリーの定格が 11.1V の場合(ラベルを確認)、定格 14.8 V の交換用メインバッテリーをお買い求めください。

接続を行う

プラグイン モジュールの使用

本機のモジュールベイには、次のような互換プラグインモジュールを取り付けることができます。

- CD-ROM または DVD ドライブ
- LS-120 または Zip ドライブ
- CD R/W ドライブ
- 2 基めのハードディスク ドライブ
- フロッピーディスク ドライブ

フロッピーディスク ドライブは、外付けのフロッピードライブケーブルを使用して、パラレル ポートにも取り付けることができます。

- 拡張バッテリー

注意

Windows でソフトウェア上の取り外し(切断)作業なしにプラグインモジュールを取り外さないでください(55ページの「プラグイン モジュールの交換」を参照)。突然取り外すと、データが消失する可能性があります。

ホットスワップ サポート ソフトウェアのインストール

ご使用のオペレーティング システムが Windows 95 または 98 の場合、Agaté Tioman ホットスワップ ソフトウェアが付属しています。このソフトウェアを使用すると、コンピュータをわざわざシャットダウンし再起動しなくても、プラグインベイのモジュールとの接続を切断できます。

Agaté Tioman が既にインストールされていれば、タスクバーにプラグイン モジュール アイコンが表示されています。アイコンが表示されない場合は、次の手順でソフトウェアをインストールします。

- [スタート]、[プログラム]、[Agaté Tioman for HP]、[Setup] の順にクリックして、画面の指示に従います。

プラグイン モジュールの交換

Windows 95 と 98 では付属の Agaté Tioman ホットスワップ ソフトウェアにより、コンピュータをシャットダウンしなくても、たいていのプラグイン モジュールとの接続を切断できます。ただし、ハードドライブ モジュールを交換する際は、前もってコンピュータをシャットダウンしておく必要があります。

Windows 2000 では、ドライブ モジュールが取り付けられている場合はタスクバーの右端に[取り外し]または[ハードウェアの取り外し]アイコンが表示されます。

注意

CD-ROM ドライブ、DVD ドライブ、または他のタイプのドライブとの接続を切断する場合は、タスクバーのアイコンを使用するか、コンピュータをシャットダウンしなければなりません。これを行わなかった場合は、データを失う可能性があります。

例外:Windows 95 または 98 では、ハードディスクドライブを接続/切断する際は、前もってコンピュータをシャットダウンしておく必要があります。

コンピュータからモジュールを取り外す際は、取り扱いに十分に注意してください。ドライブを落としたり、強く押したりすると、モジュール内の部品が破損する可能性があります。コンピュータのコネクタ、各モジュールのコネクタ、ケーブルコネクタにある金属製ピンには触らないでください。静電気によって、内部コンポーネントが破損する可能性があります。

1. プラグインモジュールから開いているファイルをすべて閉じます。
2. **Windows 95 または 98 :** タスクバーにプラグインモジュールアイコンが表示されている場合は、アイコンを右クリックし、[デバイスの取り外し] をクリックします。モジュールを取り外してよいかどうかたずねるメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします(モジュールが空か、バッテリーが装着されている場合、この作業は不要です)。

Windows 2000: タスクバーの[取り外し]または[ハードウェアの取り外し]アイコンをクリックし、取り外したいモジュールを選択します。モジュールを取り外してよいかどうかたずねるメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします(モジュールが空か、バッテリーが装着されている場合、この作業は不要です)。



—または—

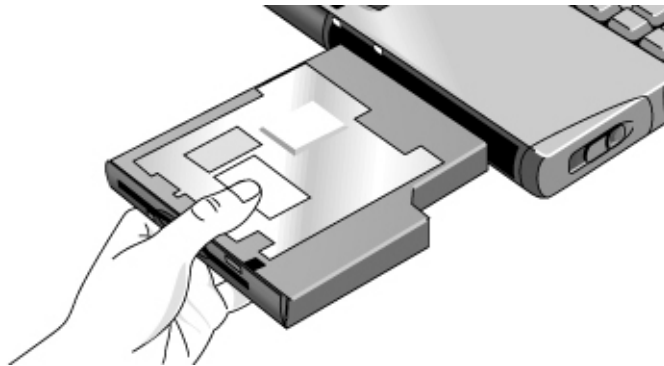
共通の手順: [スタート]、[シャットダウン]、[シャットダウン]の順にクリックします。Windows 95 または 98 の場合、モジュールベイのハードディスク ドライブを取り出す際、または取り付けの際にこの操作を行う必要があります。

接続を行う プラグイン モジュールの使用

3. モジュール取り出し用ラッチのボタンを押しながら、ラッチを手前にスライドさせます。



4. モジュールをつかんで取り出します。



5. 新しいプラグイン モジュールをカチッというまで所定の位置に差し込みます。

CD-ROM ドライブなどによってモジュール ベイが既に使用されている場合は、フロッピー ディスク ドライブをパラレルポートに接続して使用することができます。詳細は、次のセクションを参照してください。

パラレルポートへのフロッピーディスクドライブの取り付け

フロッピーディスク ドライブは、外付けのフロッピードライブ ケーブルを使用して、パラレル ポートにも取り付けることができます。

- フロッピードライブ ケーブルでフロッピードライブと本機のパラレル ポートを直接接続します。



フロッピーディスク ドライブとの接続を切断する前に、タスクバーのアイコンを使って、ドライブを停止するか、コンピュータをシャットダウンしてください。55ページの「プラグイン モジュールの交換」を参照してください。

CD または DVD の挿入と取り出し

注意

データを読み出している間は、CD-ROM を挿入したり取り出したりしないでください。コンピュータが応答しなくなり、データを失う可能性があります。

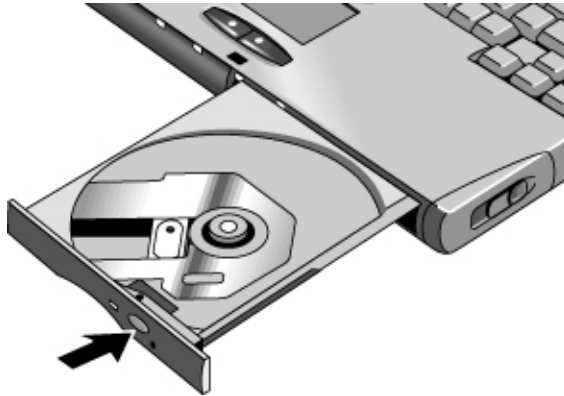
1. CD-ROM または DVD ドライブ正面のボタンを押します。このドライブを初めて使用する場合は、中に入っている厚紙の梱包を必ず取り除いてください。
2. ラベルが上向きになるように CD をドライブに置き、スピンドル (中央のでっぱり) にはまるように CD をゆっくりと押し下げます。

—または—

接続を行う プラグイン モジュールの使用

CD を取り出します。

3. トレイをモジュールベイに戻して、閉じます。



電源が途中で切れてしまったり、CD をセットしたまま CD-ROM または DVD モジュールを取り外したときは、手動でドライブを開き、CD を取り出すことができます。

- クリップなどの先の細いものを CD-ROM ドライブ正面の穴に差し込みます。

注記

Windows 95: 出荷時のコンピュータは、タイムアウト後サスペンドモードに移行できるように、CD の自動検出通知機能を無効に設定しているため、Windows 95 では CD を挿入しても自動的に検出することができません。

Windows 98 および 2000: 出荷時のコンピュータは、CD の自動検出通知機能を有効に設定しています。この機能を設定してもタイムアウトには影響を与えません。

DVD ムービーの再生

ご使用のモデルに DVD ドライブが設置されている場合、DVD プレーヤ ソフトウェアをインストールすれば、DVD ムービーを再生することができます。

- Mediamatics CD を CD-ROM に挿入し、セットアップ プログラムを実行します。

モデムの使用

モデム ポート搭載モデルの場合、モデムを電話回線に接続することにより、世界中のコンピュータと通信することができます。たとえば、インターネットを楽しんだり、電子メールを送受信したり、PC でファックスの送受信を行ったりすることが可能になります。本機には次のモデム対応ソフトウェア プログラムが付属しています。

- インターネット エクスプローラ :WWW サイトの閲覧に使用します。
- Outlook Express: 電子メールの送受信に使用します。
- Windows 95 または 2000 付属ファックス用ソフトウェア、または Windows 98 付属の QuickLink: ファックスの送受信に使用します

本機内蔵のモデムは高速 56Kbps モデムです。このモデムを経由して V.90 対応モデムを持つ ISP(インターネット サービス プロバイダ)に接続できます。V.90 をサポートしている電話番号リストについては、ISP までお問い合わせください。

ファックスの最大通信速度は 14.4Kbps です。56Kbps の通信速度でダウンロードすることも可能ですが、ISP やモデム回線によっては、この速度で運用していなかったり、この方式自体をサポートしていない場合があります。詳細については、ISP までお問い合わせください。また、ダウンロード時の通信速度は、電話回線の使用状況によって異なります。

接続を行う モデムの使用

モデムを接続する

1. 電話回線がアナログ回線(データ回線)かどうか調べます。通常回線は2、3または4線式です。(PBX またはデジタル回線は使用できません)。
2. RJ-11 プラグが付いた電話ケーブルを内蔵モデムに接続します。電話ケーブルのプラグがモデム用コネクタのサイズに合わない場合、アダプタを購入する必要があります。



使用制限(一部の国のみ)

- フランス：MiniTel システムにアクセスする場合、MiniTel エミュレータ ソフトウェアが必要です。本機をフランス国内で購入した場合、TimTel Light ソフトウェアが付属しています。TimTel Light が付属していない場合、エミュレータ ソフトウェアを別に購入する必要があります。
- Loop Disconnect が認められていない国では、パルス ダイアル機能は使用できません。パルス ダイアルが使用できない場合は、トーン ダイアル接続をご使用ください。

インターネットに接続する

インターネットへの接続を行うには、インターネット サービス プロバイダ(ISP)と契約を結び、アカウントを取得する必要があります。詳細は、最寄りのプロバイダにお問い合わせください。ISP への登録が済んだら、以下の手順を実行します。

1. デスクトップの[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。最初に接続を行うときに、接続に関する情報を入力するよう求められます。

2. [ダイヤルアップ接続]ウィンドウの[接続]ボタンをクリックします。

インターネットに正常に接続すると、タスクバーに接続アイコン(コンピュータ 2 台が接続されているアイコン)が表示されます。これでインターネットを体験する準備が整いました。Web サイトにアクセスする場合は、ブラウザのアドレス フィールドに目的のサイトのアドレス(例 <http://www.hp.com>)を入力します。Web 上で情報を検索したい場合は、ブラウザの検索ボックスに探したい語句を入力し、検索することができます。

インターネットへの接続を切断する

インターネットとの接続は、コンピュータをシャットダウンするか、コンピュータから電話線を抜いたり、接続を切断するコマンドを入力しない限り維持されます。

- タスク バーの接続アイコンをダブルクリックし、[切断]をクリックします。

ダイヤルアップでネットワークに接続する

モデムを使って、ダイヤルアップ接続をサポートする LAN(ローカル エリア ネットワーク)に接続することができます。LAN 接続により、遠隔地から社内ネットワーク リソースへのアクセスが可能になります。

- ダイヤルアップ接続の設定と使用方法については、Windows のヘルプを参照してください([スタート]、[ヘルプ]をクリックします)。

モデムの設定を変更する

本機のモデムはたいいていの地域の電話システムとモデムと互換性があるように、あらかじめ設定されています。ただし、場合によっては、地域の状況などに応じて設定の変更が必要になる場合があります。国、または地域の条件、規制などについては、最寄りの電話会社までお問い合わせください。

- **コントロールパネル**：コントロールパネルの[モデム] (Windows 95 または 98 の場合)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000 の場合)を開いて、モデム設定を変更します。

Windows 95 または 98 の場合、[全般]タブの[プロパティ]で、接続速度や接続形式を設定できます。

Windows 2000 の場合、[モデム]タブの[プロパティ]で接続速度を設定したり、[ダイヤル情報]タブの[編集]で、接続形式を設定したりできます。

- **通信用ソフトウェア**：通信用ソフトウェアにもモデム設定を制御するオプションが用意されています。詳細は、ソフトウェア付属のヘルプを参照してください。
- **AT コマンド**：モデム AT コマンドを使用すると、様々なモデム機能を設定できます。AT コマンドはモデムに特殊な文字列を送信し、用途ごとの状況をセットアップします。通常、コマンドの先頭に“AT”の文字を付けて入力します。内蔵モデム用 AT コマンド一覧については、129ページの「モデム コード一覧」を参照してください。

Windows 95 または 98 の場合、コントロールパネルの[モデム]を開きます。[全般]タブの[プロパティ]をクリックし、続いて[接続]タブの[詳細]をクリックします。追加設定のボックスに AT コマンドを入力します。

Windows 2000 の場合、コントロールパネルの[電話とモデムのオプション]を開き、[モデム]タブの[プロパティ]をクリックします。[詳細]タブの追加設定ボックスに AT コマンドを入力します。

例えば、内蔵の Ambit モデムを V.34 変調方式で接続したい場合は、AT コマンド表に示すように +MS コマンドを使用します(追加文字列用のスペースに AT+MS=11 と入力します)。

電子メールの送受信

電子メールの送受信を行うには、インターネット サービス プロバイダまたは会社の通信システムからメール アカウントを取得する必要があります。Outlook Express (本機に付属) またはお好みの電子メール システムをご利用ください。ここでは、Outlook Express による送受信の方法について説明します。

Outlook Express を起動するには

1. [スタート]、[プログラム]、[Outlook Express]の順にクリックするか、デスクトップの [Outlook Express]をダブルクリックします。
2. インターネットに接続していない場合、[ダイヤルアップ接続]ウィンドウが表示されます。[接続]を選択してインターネットに接続します。

電子メールを送信するには

1. Outlook Express を開いてツールバーの[新規作成]をクリックします。
2. [メッセージ]ウィンドウにメッセージを書き込みます。
3. 完了したら、[送信]ボタンをクリックします。

電子メールを受信するには

1. Outlook Express でツールバーの[送受信]をクリックし、新しいメッセージをダウンロードします。
2. [受信トレイ]をクリックすると、メッセージが一覧表示されます。未読メッセージが画面に太字で表示されます。
3. 表示したいメッセージをクリックします(別のウィンドウでメッセージを表示するには

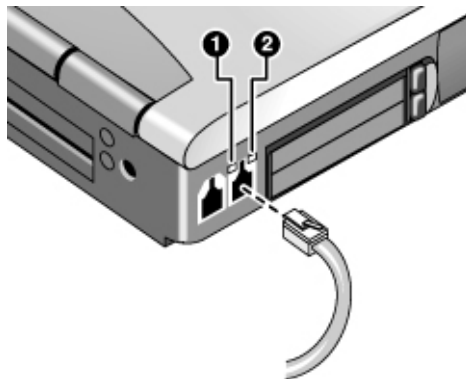
接続を行う LAN への接続

LAN への接続

本機に LAN ポートが装備されている場合、このポートを使用して LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。LAN に接続すると、社内ネットワーク上のプリンタやファイルサーバなどのネットワークリソースからインターネットまで幅広くアクセスできるようになります。

LAN に接続する

1. 既存の LAN が Ethernet 10Base-T(10 Mbps)または 100Base-TX (100 Mbps) に対応していることを確認します。
2. LAN ケーブル(付属品外)を内蔵の LAN ポートに差し込みます。ケーブルは RJ-45 コネクタ付きのものを使用します。



3. Windows 2000 では LAN 接続の検出とセットアップが自動的に行われます。

Windows 95 と 98 の場合、コントロールパネルの[ネットワーク]を開いて、ネットワーク上で LAN 接続に対応するように設定します。例えば、Microsoft TCP/IP プロトコルを追加します。

LAN 接続の設定と使用方法については、Windows のヘルプを参照してください([スタート]、[ヘルプ]をクリックします)。ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者までお問い合わせください。

LAN ポート横のランプはそれぞれ接続状況を示します(下図を参照)。

1. 黄色のランプ：ネットワーク アクティビティを表示します。
2. 緑色のランプ：ネットワーク接続が確立していることを示します。

PC カードの接続

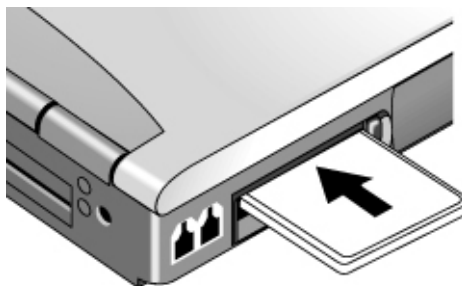
PC カードスロットを使用して、データを保存したり、通信機能を拡張したりすることができます。本機では標準 Type I、II および III の PC カード (PCMCIA と CardBus) をサポートしており、Type I または II のカードを 2 枚、あるいは Type III のカードを 1 枚使用できます。

PC カードスロットの下段は、Zoomed Video 対応の PC カードをサポートしており、高品質のマルチメディアプレゼンテーションを行うことができます。

PC カードの装着と取り出し

PC カードを装着するには

1. おもてを上にして、コネクタ側をカードソケットに向けてカードを持ちます。
2. PC カードの前縁がコンピュータ本体と同じ高さになるまで、PC カードをスロットの奥に差し込みます。



接続を行う PC カードの接続

注意

PC カードを取り外すには

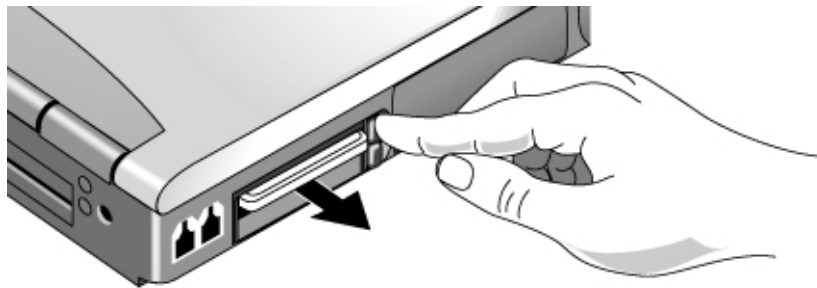
PC カードを取り外す際はタスクバーの[PC カード]アイコンまたは[ハードウェア取り外し]アイコンを使用するか、コンピュータをシャットダウンしてください。突然取り出すと、データを失う可能性があります。

1. カードを取り出す前に、タスクバーの[PC カード]アイコン、または[ハードウェア取り外し]アイコンをクリックし、続いて[停止]をクリックします。これにより、データを保護でき、予期せぬ障害を避けることができます。



カードを再起動する場合は、カードを取り出した後、挿入し直します。

2. 取り出しボタンを押すとボタンが飛び出します。ボタンを押し込み、PC カードを取り出します。



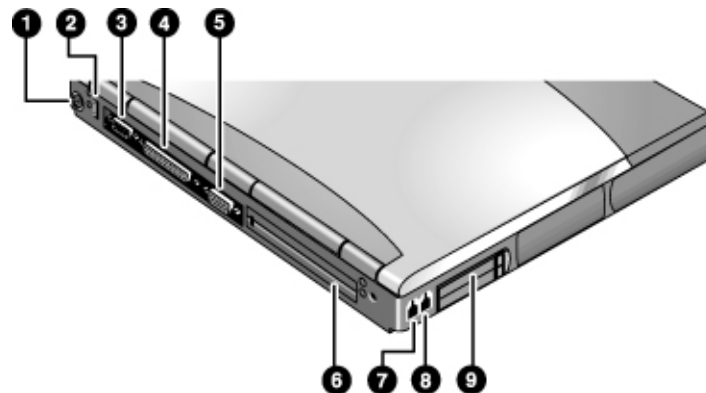
動作確認済み PC カードリスト

本機で動作確認されている PC カードの最新リストについては、HP Notebook Web サイト (www.hp.com/notebooks)をご覧ください。

外部デバイスの接続

外部デバイス コネクタの位置を確認する

次の図は、外部デバイス用コネクタの位置を示します。



1. PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスポート (Y アダプタをサポート)
2. USB (ユニバーサル シリアルバス)ポート
3. シリアル ポート (COM1)
4. パラレル ポート (LPT1) : パラレルプリンタ、その他のパラレルデバイス、またはフロッピーディスク ドライブを外付けするために使用します。
5. 外部 モニタポート
6. ドッキングポート
7. モデム ポート(一部のモデルのみ)
8. LAN ポート (一部のモデルのみ)
9. PC カードと CardBus スロット (上下 2 スロット)
65ページの「PC カードの接続」を参照してください。

本機の右側面には赤外線ポートとオーディオ ポートもあります。

接続を行う 外部デバイスの接続

注記

デバイスを接続する前にデバイスに付属のマニュアルを調べて、使用前にデバイスの設定や調整を行う必要があるかどうかを確認してください。この設定には、デバイスが本機と使用するソフトウェアで正しく機能するためのスイッチ設定などがあります。

外部モニタを使用する

外部モニタに接続するには

1. [スタート]、[シャットダウン]、[シャットダウン]の順にクリックします。
2. 外部モニタに接続されたモニタ ケーブルを本機背面の VGA ポートに接続します。
3. 外部モニタを電源に接続して、モニタの電源を入れます。
4. 青色のスリープ ボタンを押して、本機の電源を入れます。

外部モニタに切り替えるには

- [Fn]+[F5] (外部キーボードの場合は、[CTRL]+[ALT]+[F5])を押して、内蔵ディスプレイ、外部ディスプレイ装置、両方の 3 通りの表示オプションを切り替えます。
- 両方のディスプレイを同時に使用する場合は、両方のディスプレイに画像が表示されるまで、[Fn]+[F5]を繰り返し押します。ただし、デフォルトでは、内蔵ディスプレイの画像解像度は 1024 x 768 のみに制限されています。これより高い解像度に設定すると、内蔵、外部ディスプレイのどちらにもデスクトップの一部しか表示されません。この現象は外部モニタだけを使用している場合は発生しません。したがって、外部モニタのリフレッシュ レートを高くしたい場合は、外部モニタだけに切り替えるか、内蔵または外部ディスプレイのどちらかを 2 次ディスプレイとして指定します。この設定は、[ディスプレイ]タブで行います(Windows 98 または 2000 の場合、[設定]タブの [詳細]をクリックします)。

モニタ解像度とその他の設定を変更するには

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[画面]をダブルクリックします。
2. [ディスプレイの設定]タブで、画面の領域を調節します。その他の設定も行います。

内部ディスプレイは最大解像度 1024x768、1600 万色までサポートします(24 または 32 ビット)。

本機に高解像度モニタを外付けした場合、リフレッシュ レート最大 85 Hz で、解像度 1280 x 1024、1600 万色(Celeron 搭載モデルは 24 ビット、Pentium 搭載モデルは 32 ビット)までサポートします。リフレッシュ レートを最大 60 Hz に設定した場合は、Celeron 搭載

モデルで解像度 1600 x 1200、64,000 色、Pentium 搭載モデルで 16,000 万色(24 ビット)をサポートします。

デュアル ディスプレイ モードを使用するには(Windows 98 および 2000)

外部モニタをコンピュータに接続することにより、作業に使用するデスクトップ領域を広げることができます。

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックします。
2. [画面]をダブルクリックし、[設定]タブをクリックします。
3. **Windows 98:** 2 つめのディスプレイを右クリックし、[有効]を選択します。

Windows 2000: 2 つめのディスプレイを右クリックし、[サイズの拡張]チェックボックスをオンにします。

解像度と色数はディスプレイごとに設定することができますが、[サイズの拡張]を使用すると両方のディスプレイがビデオ メモリを共有することになります。このため、解像度と色数を高く設定すると両方のディスプレイに同時に影響を与え、予期せぬ動作が発生する場合があります。したがって、最初は外部ディスプレイ側の解像度は 1024 x 768 とし、両方のディスプレイを 64000 色(16 ビット)に設定しておくことを推奨します。解像度を徐々に高く設定していき、使用中のアプリケーションでどのように表示されるかを確認してもよいでしょう。なお、DVD を再生したり、3D グラフィックスを実行したりする場合は、より多くのビデオメモリを必要とするため、低い設定値を使用する必要があります。

ディスプレイの動作を変更するには

BIOS Setup ユーティリティを使って、画像を低解像度で画面いっぱいに引き伸ばして表示させるなど、特定の画面の動きを設定できます。78 ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。

ディスプレイをドッキングシステムのビデオ アダプタに接続した場合は、検出と同時に自動的にそのディスプレイが選択されます。この動作を変更するには、BIOS Setup ユーティリティの[Primary Video Adapter]の設定を変更します。

プリンタまたは他のパラレル デバイスを接続する

本機のパラレル ポートは、プリンタの接続に広く使われている標準 25 ピンコネクタを使用しており、主にドットマトリックス、インクジェット、レーザープリンタなどを接続できます。このポートには、パラレルの Zip ドライブも接続できます。

- パラレル プリンタまたはその他のパラレル デバイスのケーブルを本機のパラレル ポートに接続します。

接続を行う 外部デバイスの接続

外部キーボードまたは PS/2 マウスを接続する

6 ピンの PS/2 ポートを使用して、外部キーボードや PS/2 互換マウスを接続することができます。外部 PS/2 マウスを接続すると、通常ポインティング スティックやタッチパッドは使用できなくなります。

- マウスまたはキーボードの PS/2 ケーブルを本機の PS/2 ポートに差し込みます。
- マウスとキーボードの両方を同時に接続するには、HP F1469A Y アダプタを使用します。
- PC タイプのジャックを持つデバイスを接続するには、まずそのケーブルを PS/2 ジャックが付いているアダプタ ケーブルに接続します。

注記

外部キーボードからホットキーを使用する場合は、本機の[Fn]キーを、外部キーボードの左[CTRL]+左[ALT]キーで代用します。たとえば、[Fn]+[F12]の場合、左[CTRL] + 左[ALT]+[F12]を押すことになります。外部キーボードでは、[Fn]+[F5]、[Fn]+[F7]、[Fn]+[F12]キーのみがサポートされています。

USB デバイスを接続する

USB (ユニバーサル シリアル バス) は、ゲーム コントローラ、シリアルおよびパラレルポート、スキャナなどの周辺機器をシングルバス上に追加するための双方向シリアルインタフェースです。

- デバイスの USB ケーブルを本機の USB ポートに接続します。Windows では、USB デバイスは自動的に認識されます。一部の USB デバイスはコンピュータに直列で接続できます。このような接続方法は、「デジチェーン」と呼ばれます。

注記

USB の接続に問題がある場合は、デバイス用ドライバの最新バージョンをデバイスの製造元、または HP Customer Care Web サイト (www.jpn.hp.com/go/driver)から入手してください。

シリアル デバイスを接続する

本機の標準 9 ピン シリアル ポートを使って、外部モデムやファックス モデムなどのデバイスを接続できます。必要であれば、BIOS Setup ユーティリティでシリアル ポートのアドレスを設定できます。

- デバイスのシリアル ケーブルを 本機のシリアル ポートに接続します。

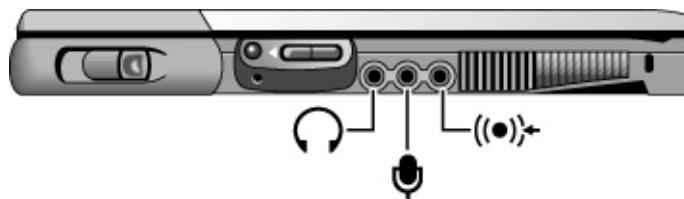
オーディオデバイスを接続する

本機には音声や音楽などを録音するためのマイクが内蔵されています(青色のスリーブ ボタンの前)。CD プレーヤなどのステレオ機器、外部マイク、外部スピーカあるいはヘッドホンなどを接続することもできます。

注意

オーディオ ジャックは 3 端子ステレオ ジャックで、2 端子モノラルプラグとは互換性がありません。モノラル プラグをスピーカ出力ジャックに接続すると故障の原因となることがあります。

- オーディオ ケーブルを対応するオーディオ ポートに接続します。



注記

デバイスをマイク入力ポートに差し込むと、内蔵マイクは自動的にオフになります。デバイスをオーディオ出力ポートに差し込むと、内蔵スピーカは自動的にオフになります。

赤外線接続を行う

赤外線ポートは本機右側面のボリューム コントロールの下にあります。赤外線ポートにより、プリンタや他のコンピュータなど、赤外線対応デバイスとの間でワイヤレスのシリアル通信を行うことができます。

赤外線ポートはデフォルトで無効に設定されているため、使用する前に有効に設定する必要があります。

- **Windows 95:** 赤外線ポートを BIOS Setup ユーティリティで有効に設定し、適切な赤外線ドライバをインストールします。詳細は、C:\hp\Drivers にある README ファイルを参照してください。
- **Windows 98 および 2000:** 赤外線ポートを BIOS Setup ユーティリティで有効に設定します(保存して終了するとコンピュータは自動的にリブートします)。Windows 98 と 2000 では、赤外線ドライバは再起動時に自動的にインストールされます。詳細は、C:\hp\Drivers にある README ファイルを参照してください。

接続を行う 外部デバイスの接続

赤外線通信ポートを使用可能にするには

- 本機の赤外線ポートと他のデバイスの赤外線ポートを向かい合わせに並べます。2つのポート間は1メートル以上離さないように、また間には何も障害物がないようにしてください。近くの電子機器から発生するノイズにより送信エラーが起こる場合があります。
- 通信状態を調べるには、[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順にクリックし、[赤外線通信](Windows 95 および 98)、または[ワイヤレス リンク](Windows 2000)を開きます。
- 赤外線ポートを使用しないときは、赤外線通信を使用不可にしておいてください。特にサスペンドするときや、ドッキングシステムを使用するときはご注意ください。
 1. 赤外線通信を行っているアプリケーションを終了し、赤外線リンク上のフォルダを閉じます。
 2. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックします。
 3. **Windows 95 または 98:** [赤外線モニタ]をダブルクリックし、赤外線通信を無効に設定します。
Windows 2000: [ワイヤレス リンク]をダブルクリックし、ハードウェアを無効に設定します。

赤外線対応プリンタで印刷するには

- プリンタをインストールして、それを本機の赤外線ポートに割り当てます。これで、通常行うようにアプリケーションから印刷することができます。

赤外線接続でファイルを送信するには

本機の赤外線ポートを使用してファイルを送信することができます。Windows 2000 の場合、[ワイヤレス リンク]を使用します。Windows 95 または Windows 98 の場合、内蔵のケーブル接続ソフトウェアを使用して行います。Windows 98 の場合、次の手順にしたがってこのソフトウェアを先にインストールする必要があります。

1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。
2. [Windows セットアップ]で[通信]、[ケーブル接続]を選択します。

ケーブル接続またはワイヤレス リンクの使用方法については、Windows のオンラインヘルプを参照してください。

ドッキング製品を接続する

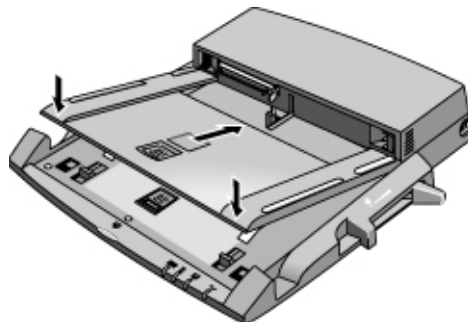
ドッキング製品を使うと、コンピュータを持ち運びするとき、接続している外部機器をそのまま残していくことができます。つまり、出かけるたびに周辺機器を接続したり、取り外したりすることがなく、必要なときにドッキングまたはドッキング解除するだけで済みます。

ドッキング製品について詳しくは、ドッキング製品付属のユーザーズ ガイドを参照してください。

ドッキングトレイを取り付けるには

ドックには、お使いのモデル専用の収納トレイが必要です。このトレイは、本機をドックに接続する前に取り付けてください。OmniBook 6000 と印刷されたトレイがない場合は、HP アクセサリ F2012A をご購入ください。

1. ドックのラベルに示されているように、トレイの後部をドック内に挿入します。
2. トレイの両側をカチッと収まるまでしっかりと押し下げます。



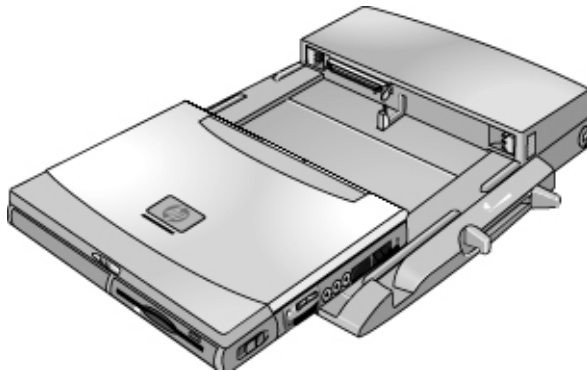
トレイをドックから取り出すには、トレイが外れるまでラッチ (ドックの前方中央にあります) を手前に引きます。

接続を行う 外部デバイスの接続

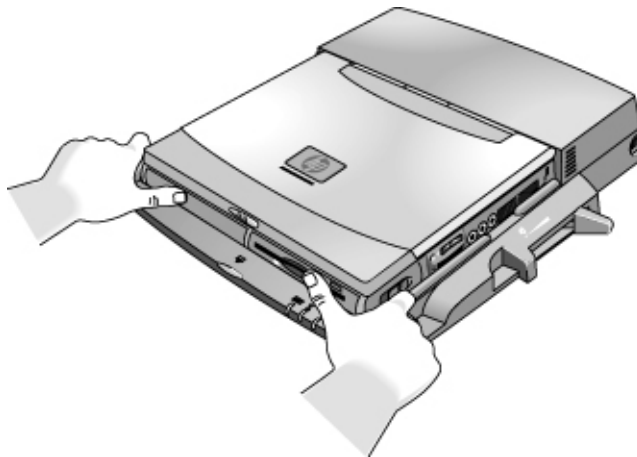
ドッキングするには

コンピュータをドックに取り付けるときは、電源オン、サスペンド、またはオフ状態にしてください。

1. ドックを電源に接続します。接続タイプはドックにより異なります。詳細は、ドックに付属のマニュアルを参照してください。
2. コンピュータ背面とドックのドッキング コネクタが向かい合うようにして、ドック上に置きます。PC カード取り出しボタンが本体の中に入っていることを確認してください。

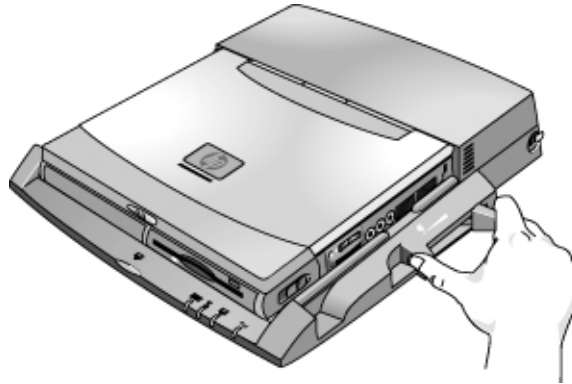


3. 下図のように、指をプラットフォームのグリップの上に置きます。しっかりと収まるまで、親指でコンピュータを押します。



ドッキングを解除するには

1. ドック正面のドッキング解除ボタンを押し、ドッキング解除ランプが緑色になるまで待ちます。下図のように、親指でリリース用レバーを手前に引きます。



2. ドックから本機を取り出します。

構成と拡張

BIOS Setup ユーティリティの実行

BIOS (Basic Input and Output System) Setup ユーティリティを使ってシステム構成を変更したり、コンピュータの動作を個々の作業ニーズに合うようにカスタマイズできます。

BIOS Setup ユーティリティで行う設定は、一般にハードウェアの制御方法に関するもので、本機の動作に大きく影響を与えます。

BIOS Setup ユーティリティを実行する

1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
2. HP ロゴが表示されたら、[F2] を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。
3. BIOS Setup ユーティリティでポインティングデバイスは使用できません。キーボードのキーを使用してメニュー間を移動します。
 - メニュー間を移動するには右矢印キーまたは左矢印キーを押します。
 - メニュー内のパラメータを移動するには下矢印キーと上矢印キーを押します。
 - 現在のパラメータの値を順に表示するには[F5]または[F6]を押します。または、[ENTER]キーを押して設定を変更します。
4. 必要なオプションを選択したら、[F10]を押すか、[Exit]メニューを使用して BIOS Setup ユーティリティを終了します。
5. 設定を変更したことにより、リブート中にデバイスの競合が発生した場合、BIOS Setup を起動するよう求めるメッセージが表示されます。競合している設定にはマークが付きます。

BIOS バージョン 1.00 における BIOS の設定値を次の表に示します。別の BIOS では、表中の設定とは異なる場合があります。

Main メニュー

設定	内容	出荷時の設定
BIOS Revision	現在の BIOS バージョンを表示します。	自動検出
System Time	時刻を 24 時間表示で設定します。値を設定すると直ちに有効になります。	
System Date	月/日/年 (西暦)で現在の日付を設定します (ただし、英語の場合は mm/dd/yy 形式)。	
Floppy Drive	フロッピー ドライブのタイプを設定します。	フロッピーディスクドライブのタイプを自動的に検出し、設定します。
Internal Hard Disk	ハードディスクドライブ のタイプと様々なパラメータを設定します。	ハードディスクドライブのタイプを自動的に検出し、設定します。
Quiet Boot	Enabled にすると、ブート中にパワーオン セルフテストのサマリとメッセージが表示されなくなります。	Enabled (有効)
Video Display Device	外部ディスプレイが検出された場合、内蔵ディスプレイを自動的に外部ディスプレイに切り替えるかどうかを設定します。	Auto (自動)
Video Expansion	Enabled に設定されている場合、低解像度モードでビデオ画像がディスプレイ全体に表示されます。Disabled に設定されている場合、ビデオ画像は、ディスプレイの中央に配置されます。	Disabled (無効)
Primary Video Adapter	外部ビデオアダプタが検出された場合、内蔵ビデオアダプタから外部ビデオアダプタに自動的に切り替えるかどうかを設定します。	Auto (自動)
System Memory	システム メモリのサイズを表示します。	640 KB
Extended Memory	拡張メモリのサイズを表示します。	Detected automatically (自動検出)
CPU Serial Number	シリアル番号を持つプロセッサの場合、ソフトウェアでシリアル番号が使用できるように設定します。	Disabled (無効)

構成と拡張
BIOS Setup ユーティリティの実行

System Devices メニュー

設定	内容	出荷時の設定
PS/2 Pointing Devices	外部 PS/2 マウスが接続されている場合、内部ポインティングデバイスを使用不可にします。	Auto (自動)
External Fn Key	外部キーボードの左側にある[CTRL]+[ALT]キーを[Fn]キーとみなすかどうかを設定します。	Enabled (有効)
IDE Controller	プライマリ(ハードディスクドライブ)とセカンダリ(モジュール ベイ デバイス)コントローラを使用可能にします。	Both (両方)
FDD Controller	フロッピーディスクドライブを使用可能にします。	Enabled (有効)
Serial port	シリアル ポートを設定します。自動設定または指定値設定ができます。	Enabled (有効)
Base I/O address	I/O アドレスと割り込みレベルを設定します。	3F8h, IRQ4
IrDA port	赤外線ポートを設定します。自動設定または指定値設定ができません。	Disabled (無効)
Mode	赤外線通信モードを FIR (Fast IR) または SIR(Standard IR)モードに設定します(Windows 95 の場合、ドライバのインストールが必要です)。	FIR
Base I/O address	I/O アドレスと割り込みレベルを設定します。	2F8h, IRQ3
DMA channel	DMA チャンネルを Fast IR (FIR)モードに設定します。	DMA0
Parallel Port	パラレル ポートを設定します。指定値設定、BIOS 設定、OS(自動)設定、または設定なしが指定できます。	Enabled (有効)
Mode	ポートのモードを[Output only] (出力のみ) 、[Bi-directional] (双方向) 、[ECP]、[EPP]に設定します。	ECP
Base I/O address	I/O アドレスを設定します。	378h
Interrupt	割り込みレベルを設定します。	IRQ7
DMA channel	DMA チャンネルを ECP モードに設定します。	DMA3

Security メニュー

設定	内容	出荷時の設定
User Password is	設定したユーザパスワードを表示します。	Clear
Administrator Password is	設定した管理者パスワードを表示します。	Clear
Set User Password	[ENTER]を押してユーザパスワードを設定、変更、消去します。 パスワードには、0-9、A-Z までの最大 8 文字の英数字を使用できますが、特殊文字やアクセント付きの文字は使用できません。	Enter
Set Administrator Password	[ENTER]を押して管理者パスワードを設定、変更、消去します。 パスワードには、0-9、A-Z までの最大 8 文字の英数字を使用できますが、特殊文字やアクセント付きの文字は使用できません。	Enter
Boot	起動時にユーザ パスワードを要求するかどうかを設定します。 変更する場合は管理者パスワードが必要です。	Enabled (有効)
Resume*	スタンバイまたはハイバネート (休止) モードから復帰するときにユーザ パスワードを要求するかどうかを設定します。変更する場合は管理者パスワードが必要です (Windows 95 および 98 のみ)。	Enabled (有効)
Undock*	ドッキングを解除するときにユーザ パスワードを要求するかどうかを設定します。変更する場合は管理者パスワードが必要です (Windows 95 および 98 のみ)。	Disabled (無効)
Internal hard disk drive lock*	ハードディスクドライブ上に現在のユーザパスワードを記憶します (ユーザ パスワードが設定されていない場合は、管理者パスワード)。	Disabled (無効)
Removable Device Boot	フロッピードライブまたは他のリムーバブル デバイスからブートするかどうかを設定します。	Enabled (有効)
* Resume、Undock、Internal Hard Disk Drive Lock の各オプションは、Boot オプションが使用可能になっている場合のみ利用できます。		

構成と拡張
BIOS Setup ユーティリティの実行

Power メニュー

Windows 2000 では * が付いた設定のみ利用できます。Windows 98 では * または ** が付いた設定のみ利用できます。Power メニュー内のその他の設定項目は利用できません。

設定	内容	出荷時の設定
Intel SpeedStep Mode*	使用可能な電源に基づき、起動時のデュアルスピード プロセッサの速度を設定します。コントロール パネルの[電源]設定でブート後の速度を制御します。	Automatic
Power Management Mode	タイムアウトを無効にしたり、タイムアウトを組み合わせて選択したり、カスタマイズしたりできます。	Max Power Savings (省電力優先)
Smart CPU Mode	バッテリー駆動時の CPU 自動省電力機能を使用可能にします。キーボード、マウスおよびハードディスクドライブの動きがしばらくないと、CPU の応答を遅くできます。	On
Display-off Time-out	設定した時間、処理がないと、ディスプレイオフ モードに移行します。	2 minutes(2 分間)
Suspend Time-out	設定した時間、処理がないと、ディスプレイオフからスタンバイモードに移行します (タイムアウトが無効の場合、直接スタンバイモードに入ります)。	4 minutes(4 分間)
Hibernate Time-out**	設定した時間、処理がないと、スタンバイからハイバネート (休止) モードに移行します (タイムアウトが無効の場合、直接ハイバネート (休止) モードに入ります)。	4 hours(4 時間)
Hard Disk Time-out	設定した時間、内蔵ハードディスク(およびプラグイン モジュールのハードディスクドライブ)を使用しないと、ハードディスク モーターの回転を止めます。	2 minutes(2 分間)
Time-out on AC	AC アダプタが接続されている間でもパワーマネジメントのタイムアウトを実行するかどうかを設定します。	Disabled (無効)
Lid Switch Mode	コンピュータのふたを閉じたときのアクションを設定します。	Turn off LCD(LCD の電源を切ります)
Resume On Serial Ring	モデムのリング信号で復帰するかどうかを設定します。	Enabled (有効)
Resume On Time of Day	特定の時刻にサスペンドモードから復帰するかどうかを設定します。	Disabled (無効)
Resume Time	[Resume On Time of Day]が有効の場合に復帰する時刻を設定します。	

Auto Suspend on Undock*	ドッキング解除後にスタンバイ モードに移行するかどうかを設定します。	When Lid Closed (ふたを閉じたとき)
Auto Turn-On on Dock*	ドッキング後、本機の電源を入れるかどうかを設定します。	Enabled (有効)
* Windows 98 と 2000 で使用する可能 ** Windows 98 で使用する追加設定可能		

Boot メニュー

設定	内容	出荷時の設定
+Removable Device +Hard Disk CD-ROM/DVD Drive MBA UNDI	ブート デバイスの順番を示します。“+”はデバイスのカテゴリを表します。順番を変更するには、そのドライブ名を希望の順番に移動します。カテゴリ内に複数のデバイスがある場合は、検出されたデバイスの中から選択できます。LAN カードが内蔵されている場合のみ、MBA UNDI (Managed Boot Agent) がデバイス一覧に表示されます。これを使用すると、ディスクを使用せずに、ネットワーク サーバからブートできます。	1. Removable Device 2. Hard Disk 3. CD-ROM/DVD drive 4. MBA UNDI

Exit メニュー

設定	内容	出荷時の設定
Save Changes and Exit	設定の変更を保存し終了して、本機を再起動します。	
Discard Changes and Exit	設定の変更を保存しないで、リポートします。パスワード、日付、時刻の変更には影響しません。	
Get Default Values	工場出荷時の設定に戻し、そのまま Setup ユーティリティを続けます。パスワード、日付、時刻の変更には影響しません。	
Load Previous Values	前回の保存以降に行った設定変更を保存しないで、そのまま Setup ユーティリティを続けます。パスワード、日付、時刻の変更には影響しません。	
Save Changes	設定を保存し、そのまま Setup ユーティリティを続けます。変更内容は変更した時点で保存されます。	

TopTools の使用

HP TopTools は、コンピュータのシステム管理を担当するネットワーク管理者やシステム管理者向けのソフトウェアです。このソフトウェアには、様々な設定およびセキュリティオプションが用意されており、コンピュータにどのハードウェアやソフトウェア コンポーネントがインストールされているか、またそれらがどのように作動しているかを調べることができます。

TopTools をセットアップする

TopTools ソフトウェアパッケージは本機に同梱されていますが、使用する前にインストールする必要があります。

Windows 2000

TopTools が本機に同梱されていない場合は、HP Customer Care Web サイト (www.jpn.hp.com/go/driver) からダウンロードできます。

1. [スタート]、[プログラム]、[HP TopTools for Notebooks]、[Setup] の順にクリックします。
2. 画面に表示される指示に従います。

TopTools は、各 PC でローカルに実行することも、あるいはネットワーク管理者がリモートで実行することもできます。

- TopTools をローカルで実行するには、[スタート]、[プログラム]、[HP TopTools for Notebooks]、[HP TopTools] の順にクリックします。

管理機能が付属する HP コンピュータや HP TopTools に関する詳細、および PC の運用コストを削減する方法については、HP Web サイト www.hp.com/toptools をご覧ください。

RAM 拡張モジュールの取り付け

本機はメモリ(RAM)をマザーボード上に実装するのではなく、2つのRAMモジュール用スロットで装着しています。このうち1つのスロットには、出荷時にメモリが装着されています。両スロットを使用して、メモリを増設することができます。

RAM 拡張モジュールを取り付ける

この作業には、小型のプラスドライバが必要です。

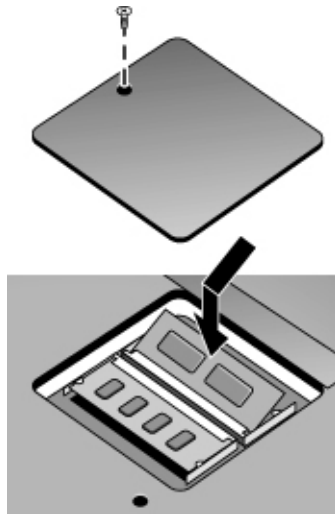
注意

本機のコンピュータチップは静電気に非常に敏感です。静電気はコンピュータが破損する原因となります。RAMモジュールの縁以外は触れないようにしてください。メモリモジュールを取り付ける前に、本機後部にあるコネクタ周辺の金属シールドに触れて、身体から静電気を放出してください。

1. [スタート]、[シャットダウン]、[シャットダウン]の順にクリックします。
2. **重要:** ACアダプタが接続されている場合は取り外し、バッテリーを取り出します。拡張バッテリーが取り付けられている場合は取り外します。
3. ユニットの裏返し、RAMカバーのネジを外して、カバーを取り除きます。

構成と拡張 RAM 拡張モジュールの取り付け

4. RAM ボードをコネクタに対して約 30 度の角度でしっかりと差し込みます。次に、両側のラッチがカチッと閉まるまでボードの両側を押します。



5. カバーを取り付けます。
6. バッテリーを装着します。

RAM 拡張モジュールを取り外す

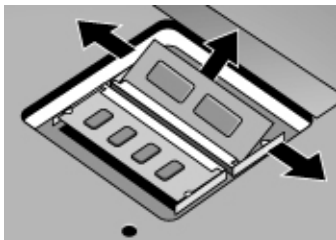
RAM モジュールを交換して、メモリを増設することができます。この作業には、小型のプラスドライバが必要です。

注意

本機のコンピュータチップは静電気に非常に敏感です。静電気はコンピュータが破損する原因となります。RAM モジュールの縁以外は触れないようにしてください。メモリモジュールを取り付ける前に、本機後部にあるコネクタ周辺の金属シールドに触れて、身体から静電気を放出してください。

1. [スタート]、[シャットダウン]、[シャットダウン]の順にクリックします。
2. **重要:** AC アダプタが接続されている場合は取り外し、バッテリーを取り出します。拡張バッテリーが取り付けられている場合は取り外します。
3. ユニットの裏返し、RAM カバーのネジを外して、カバーを取り除きます。

4. RAM ボード側面のラッチを外側に開きます。ボードの開口部が少し飛び出します。



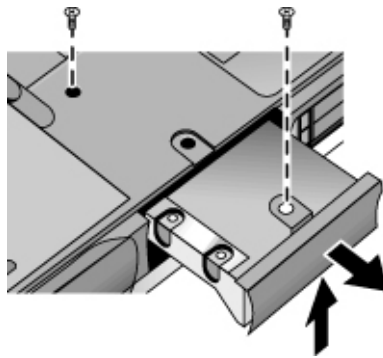
5. ボードをコネクタから引き出します。
6. カバーを取り付けます。
7. バッテリーを装着します。

ハードディスクドライブの交換

ハードディスクドライブを交換する

この手順には、小型のマイナスドライバが必要です。

1. AC アダプタが接続されている場合は取り外し、バッテリーを取り出します。
2. ユニットの裏返しにして、ハードディスクを固定しているネジを外します。
3. ドライブの先端部分を持ってカバーを持ち上げ、固定用タブをコンピュータ 本体から外します。続いてハードドライブをコンピュータからゆっくりと取り出します。



4. 新しいドライブをハードドライブ コンパートメントにゆっくりとスライドさせます。コネクタが正しく合わさるまでしっかりと押します。
5. 固定用タブが本体にしっかり噛むまで、カバーを所定の位置までスライドさせて、ハードドライブのネジを2つとも締めます。

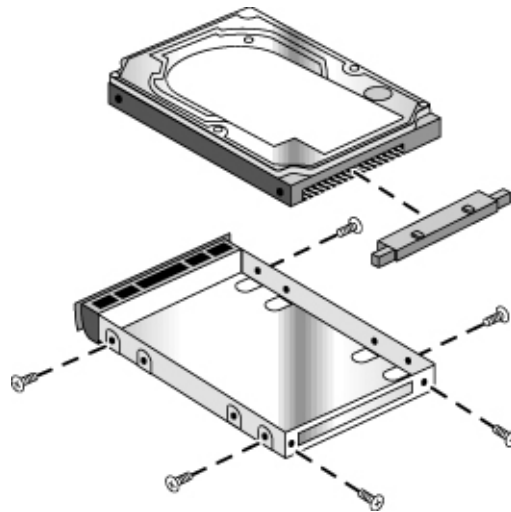
重要

新しいハードディスクドライブを取り付けた場合は、ソフトウェアをインストールする前にハイバネート用のパーティションを作成する必要があります。117ページの「ハードディスクを出荷時の状態に復元する」を参照してください。

ハードディスクドライブ ホルダを交換する

新しいハードディスク ドライブにカバーが付いていない場合は、古いハードディスク ドライブからカバーを外して取り付けることができます。この作業には、小型のマイナスドライバーが必要です。

1. ホルダとドライブ ケースから合計 6 本のネジを外し、ドライブをホルダから持ち上げて取り出します。
2. ハードドライブの片側にはピン コネクタが付いています。このコネクタをドライブの先端部分からゆっくりと取り外します。ピンを曲げずにコネクタが均等にスライドするように、片方ずつ交互にゆっくり引き抜きます。



3. ピン コネクタを新しいハードドライブの先端にあるピンにゆっくりと取り付けます。ピンを曲げずにコネクタが均等にスライドするように、片方ずつ交互にゆっくりと押しします。
4. ホルダの先端部分にコネクタを通して、ドライブをホルダに押し込みます。
5. 6 本のネジをホルダとドライブ ケースに取り付けます。厚みのない方のネジをコネクタ側に取り付けてください。

新しいハードディスクドライブの設定

新しいハードディスク ドライブを取り付けたら、コンピュータで使用できるように設定する必要があります。

- 出荷時にプリインストールされていた Windows ソフトウェアとオペレーティング システムを復元する場合は、本機に付属している Recovery CD を使って復元できます。117ページの「ハードディスクを出荷時の状態に復元する」を参照してください。
- それ以外のソフトウェアやオペレーティング システムに変更する場合は、『Corporate Evaluator's Guide』に記載された手順に従って、ハードディスクを設定してください。本ガイドは HP Customer Care Web サイト(www.jpn.hp.com/go/driver)で入手できます。

トラブルシューティング

トラブルの解決方法

ここでは、本機を使用する際に発生する様々なタイプの問題への対処方法について説明します。問題が発生したときは、次に記載する対処方法を1つずつ順番に試してみてください。

この他にも、トラブルシューティングに関する次のような情報が用意されています。

- [スタート]、[ヘルプ]、[目次]の順にクリックして、[トラブルシューティング]を参照します。
- 本機に同梱の Microsoft Windows マニュアルを参照します。
- 最新情報については、オンラインの『HP Library』にある HP Notes を参照します。
- 本機に関する技術情報とソフトウェア アップデートについては、HP Customer Care Web サイト(www.jpn.hp.com/go/driver)をご覧ください。
- DiagTools テストプログラムを実行して本機の動作を診断します。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。
- 販売代理店または HP までご連絡ください。120ページの「HP カスタマケア センター」を参照してください。サポートに電話する際は、問題が発生したコンピュータをお手元にご用意ください。

オーディオの問題

サウンドが聞こえない場合

- ボリューム コントロールの後ろ半分を数回押します。または[Fn]+上矢印キーを数回押します。
- タスクバーのスピーカ アイコンをクリックし、ミュートが選択されておらず、ボリューム コントロールのつまみが一番低い位置に設定されていないことを確認します。
- インジケータ ランプが消えるまで、本機右側面のオーディオオフ ボタンを数回押します。
- MS-DOS ゲームなど MS-DOS モードで動作するものは、サウンドが正しく機能しない場合があります。サウンド機能を十分に活用するには Windows アプリケーションをご使用ください。

サウンドを録音できない場合

- サウンドの録音機能がソフトウェアでどのように設定されているか調べます。[スタート]、[プログラム]、[アクセサリ]、[マルチメディア](または[エンターテインメント])、[サウンド レコーダー]の順にクリックします。
- DiagTools 診断テストでオーディオをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。

スピーカから高音が聞こえる場合

- ボリューム コントロールの[音量]を下げます。タスク バーの[スピーカー]アイコンをダブルクリックします。
- [ボリューム コントロール]の[オプション]、[プロパティ]の順にクリックし、[表示するコントロール]で[マイク]を選択します。[ボリューム コントロール]に戻って、マイクがミュートに設定されていることを確認します。
- 内蔵マイクと内蔵スピーカの両方を同時に使用しないでください。

CD-ROM と DVD の問題

CD/DVD ドライブの CD または DVD から起動できない場合

- Recovery CD のように、起動可能な CD または DVD であることを確認します。
- CD または DVD から常に起動したい場合は、次の手順にしたがって BIOS Setup ユーティリティでブート順をチェックします。
 1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
 2. HP ロゴが表示されたら、[F2] を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。
 3. [Boot] メニューを開きます。デフォルトのブート順は(1) リムーバブル デバイス、(2) ハードディスク、(3) CD-ROM/DVD ドライブになっています。
 4. 最初のブート デバイスとして[CD-ROM/DVD Drive]を選択します。
 5. [F10] を押し、Setup を終了します。
- コンピュータを再起動します。[スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
- DiagTools 診断テストで DVD ドライブをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。

トラブルシューティング

トラブルの解決方法

DVD の再生が途切れる場合

- 埃や汚れが付着するとディスクが正常に読み取られないことがあります。ディスクを柔らかい布などで拭いてください。ディスクにひどい傷が付いた場合は、交換の必要があります。

DVD ムービーが再生途中で止まってしまう場合

- DVD は通常両面記録方式です。DVD トレイを開いて、ディスク中央付近に Side A と記載されている場合は、ディスクを裏返してトレイを閉じ、再生ボタンを押してムービーの再生を続けます。
- DVD ムービーの再生を誤って一時停止した可能性があります。再生ボタンを押すと、再生が再開します。

DVD ムービーの再生中にリージョナル コード エラーが発生した場合

- DVD にはディスク データとしてリージョナル コードが埋め込まれています。これにより、DVD ムービーを再生できるのは販売されている地域に制限されます。リージョナル コード エラー メッセージが表示された場合、別の地域用に作成された DVD を再生しようとしている可能性があります。

CD または DVD を読み取れない場合

- 片面記録方式の CD または DVD の場合、ラベルの付いた面を上にして置いてください。
- ディスクを柔らかい布などで拭いてください。
- コンピュータがディスクを正しく認識するまで、トレイを閉じてから 5～10 秒ほど待ってください。
- コンピュータを再起動します。ドライブからディスクを取り出し、[スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。

DVD ムービーが画面全体に広がらない場合

- 両面記録方式の DVD の場合、各面に別のフォーマット(標準またはワイドスクリーン)を採用しています。ワイドスクリーン フォーマットの場合、画面の上と下に黒い帯状の線が現れます。標準フォーマットで表示するには、ディスクを裏返してもう一方の面を再生します。

CD を挿入後、Wordpad.exe が見つからなくなった場合

- システムが .doc ファイルを WordPad で開こうとしたときに、Wordpad.exe プログラムファイルが見つからないというメッセージが表示される場合、エラー メッセージボックスに C:\Program Files\Accessories と入力してください。

ディスプレイの問題

電源は入っているのに、画面に何も表示されない場合

- マウスまたはポインティング スティックを動かすか、タッチパッドをタップしてみます。ディスプレイオフ モードに移行していた場合は、画面が元に戻ります。
- 内蔵ディスプレイが使用不可に設定されている場合は、[Fn]+[F5]を押します (元の状態に戻るには、この操作を3回繰り返します)。
- 長い間電源を入れていなかったときは、ウォームアップするまでしばらく時間がかかる場合があります。

画面が読みにくい場合

- ディスプレイの解像度をデフォルト設定 (1024×768) に戻します。[スタート]、[設定]、[コントロール パネル]、[画面]、[設定]の順にクリックします。

外部ディスプレイが機能しない場合

- 接続が正しいかどうかを確認します。
- 外部ディスプレイが使用不可に設定されている場合は、[Fn]+[F5]を押します (元の状態に戻るには、この操作を3回繰り返します)。
- 外部モニタが検出されない場合、BIOS Setup ユーティリティで、[Main]メニューの [Video Display Device]を[Both]に設定します。
- DiagTools 診断テストでディスプレイをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。

ドッキングの問題

ドックのポートが機能しない場合

- AC 電源が接続されていることを確認します。
- ドッキングを解除して、本機の対応するポートが正しく機能するかどうか試します。
- 本機がドック内に完全に装着されているかどうかを確認します。
- ドックのマニュアルを参照します。

トラブルシューティング

トラブルの解決方法

ドッキングまたはドッキング解除時にオペレーティング システムがハングする場合

- サスペンド中または復帰中にドッキングまたはドッキング解除しようとする、システムがハングする可能性があります。ドッキングまたはドッキング解除する前に、本機が完全にサスペンドまたは復帰したかどうかを確認してください。

ドッキングするとフロッピー ドライブのドライブ A アイコンが表示されなくなる場合

- Windows 98 の場合、ドッキング後にフロッピー ドライブを装着してもドライブ A アイコンは表示されません。フロッピー ドライブを認識させるには、コンピュータをドッキングまたはブートする前にドライブを装着しておく必要があります。ドライブ A アイコンが表示されない場合は、フロッピー ドライブを装着した状態で再度コンピュータをドッキングするか、コンピュータを再起動してください。

ドックに PC カードを挿入すると本機がハングする場合

- Windows 95 の場合、ドックに PC カードを装着する作業は、コンピュータの稼働中またはシャットダウン後に行ってください。また、カードの取り出しは、タスクバーの PC カードアイコンでカードを停止させた後、またはシャットダウン後に行ってください。サスペンド中にカードを取り出すと、コンピュータが応答しなくなる可能性があります。

ドッキング システムの IDE ドライブが機能しない場合

- ドッキング システムの PC デバイス ベイに IDE ドライブを装着した場合、ドライブの IDE ジャンパを[Single]または[Cable Select]の位置に設定します。8 GB 以上のドライブでパーティションを作成したり、フォーマットする場合は必ず、デバイス マネージャを使って、IDE ドライブ用に[Int 13]設定をオンにしてください。

ハードディスクドライブの問題

ハードディスクドライブが回転しない場合

- 電源が入っているかどうかを確認します。必要に応じて AC アダプタを接続します。ケーブルがコンセントとコンピュータ背面に根元まで確実に差し込まれていることを確認します。
- ハードドライブをいったん取り外し、取り付け直します。88ページの「ハードディスクドライブの交換」を参照してください。

ハードディスク ドライブから異常音がする場合

- ドライブのデータのバックアップをすぐにとります。

- ファンやPC カード ドライブなど、ノイズの発生源を調べます。

ファイルが破損している場合

- Windows 95 または 98 の場合、Scandisk でクラスタ スキャンを実行し、ハードディスクをチェックします。[スタート]メニューで[プログラム]をクリックして、[アクセサリ]、[システムツール]、[スキャンディスク]の順にクリックします。
- Windows 2000 の場合、[マイ コンピュータ]を開き、スキャンしたいディスクを選択し、[ファイル]、[プロパティ]の順にクリックして、[ツール]タブを使用します。
- VirusScan プログラムを実行します。40ページの「VirusScan ユーティリティを使用する」を参照してください。
- DiagTools 診断テストでハードディスク ドライブをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。
- 必要に応じて、ハードディスクをフォーマットし直し、出荷時のソフトウェアを再インストールします。117ページの「ハードディスクを出荷時の状態に復元する」を参照してください。

温度の問題

本機は通常の動作時に多少熱を持ちますが、これは正常な状態です。

過熱した場合

- 本機は必ず平らな面に置き、本体周辺と底部に空気が流れるだけの隙間ができるようしてください。
- 右側面と底面の換気孔が塞がっていないことを確認します。
- CPU 使用率が 100%近くになるゲームやプログラムなどは、コンピュータの温度上昇の原因となりますのでご注意ください。

赤外線通信の問題

赤外線ポートはデフォルトで無効に設定されているため、使用する前に有効に設定する必要があります。

赤外線通信が正しく行われない場合

- 赤外線ポート間に障害物がなく、2つのポートがまっすぐ向き合っていることを確認します(本機の赤外線ポートは右側面のボリューム コントロールの下にあります)。2つのポートは1メートル未満の距離に配置します。
- 次の手順で BIOS Setup ユーティリティを起動して、設定を調べます。
 1. コンピュータを再起動します。[スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
 2. HP ロゴが表示されたら、[F2] を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。
 3. [System Devices] メニューで [Infrared Port] が有効に設定されており、FIR モードが選択されていることを確認します。
 4. [F10] を押し、変更を保存して BIOS Setup を終了します。
- Windows 95 で赤外線通信を行う場合、BIOS Setup ユーティリティで選択されているモードと一致する赤外線ドライバを先にインストールしておく必要があります。詳細は、C:\hp\Drivers にある README ファイルを参照してください。
- 他に赤外線ポートを使用しているアプリケーションがないことを確認します。
- PC カードをすべて取り外します。2つの PC カードを同時に使用している場合、赤外線線の IRQ が競合を起こしている可能性があります。

キーボードとポインティングデバイスの問題

ポインタの制御が難しい場合

- 次の手順でポインタのコントロールを調整します。[スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[マウス]をダブルクリックします。

タッチパッドまたはポインティングスティックが機能しない場合

- 再起動中またはスタンバイ モードからの復帰中はポインタやタッチパッドを動かさないでください。ポインタを動かしてしまったら、次の処置を行ってください。
 - キーボードの任意のキーを押すと、通常の動作に戻ります。
 - スリープ ボタンを使ってサスペンドするかサスペンドを解除します。
 - Windows をシャットダウンし、再起動します。
- 外部マウスが接続されている場合、通常、ポインティングデバイスは使用不可になります。設定の変更は BIOS Setup ユーティリティで行います。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。
- コンピュータを再起動します。[スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。

入力中にタッチパッドでポインタやカーソルが動いてしまう場合

- 次の手順にしたがって、タッチパッドの PalmCheck を高く設定します。
 1. タスク バーのタッチパッドアイコンをダブルクリックします。
—または—
[スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[マウス]をダブルクリックします。
 2. [タッチ]タブをクリックし、タッチパッド デバイスを選択します。
 3. PalmCheck スライダを調節し、[適用]をクリックします。
- タッチパッドを無効にするには、[タッチ]タブをクリックし、タッチパッド デバイスを選択します。続いて[使用不可]を選択し、[適用]をクリックします。

PS/2 スクロール マウスが機能しない場合

- マウスのスクロール機能が正しく動作するためには、内蔵のポインティングデバイスが使用不可になっていなければなりません。BIOS Setup ユーティリティで、[System Devices] メニューの [PS/2 Pointing Devices]オプションが [Auto] に設定されていることを確認します。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。
- スクロール マウスは、コンピュータをサスペンドまたはシャットダウンしてから取り付けます。これによりマウスが正しく検出されます。

タッチパッドをもう一度使用する場合は、コンピュータをサスペンドまたはシャットダウンしてから、スクロール マウスを取り外します。
- 診断テストでキーボードとポインティング デバイスをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。

トラブルシューティング

トラブルの解決方法

埋め込みテンキーが機能しない場合

- 数字を入力して、Num Lock がオンになっていることを確認します。
- 埋め込みテンキーの Lock ([Fn] + [F8]) がオンになっていることを確認します。埋め込みテンキーに一時的にアクセスする場合は、[Fn]キーを押したままテンキーを押してください。
- ブート中または復帰中はタッチパッドやポインティング スティックに触れないでください。

外部キーボードで左[CTRL] + 左[ALT]操作が機能しない場合

- 外部キーボードでは、左[CTRL]+左[ALT]は[Fn]キーと同じ働きをします。外部キーボードでは、[Fn]+[F5]、[Fn]+[F7]、[Fn]+[F12]のみサポートされています。
- BIOS Setup ユーティリティの[System Devices]メニューで、[External Fn Key] (外部 Fn キー)が有効になっていることを確認します。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。

ユーロ記号を入力できない場合

- 埋め込みテンキー([Fn]+[F8])と Num Lock がオンになっていることを確認し、[ALT]を押しながらテンキーで 0128 と入力します。
- ユーロ記号を使用するには Microsoft が提供している専用ソフトウェアが必要です。このソフトウェアはメーカー用ソフトウェアとしてインストールされるため、通常の Windows 製品には含まれていない場合があります。

メモリの問題

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合

- Windows 95 または Windows 98 をご使用の場合、Windows ヘルプの「メモリに関するトラブルシューティング」をご覧ください。[スタート]、[ヘルプ]、[目次]、[トラブルシューティング]の順にクリックします。
- MS-DOS プログラムを実行中にメモリの問題が発生する場合は、Windows ヘルプの「MS-DOS プログラムに関するトラブルシューティング」を参照してください。[スタート]、[ヘルプ]、[目次]、[トラブルシューティング]の順にクリックします。
- サードパーティのメモリカードには本機での動作確認テストが済んでいないものがあります。動作確認済みメモリ カード一覧については、HP Notebook Web サイト (www.hp.com/notebooks)をご覧ください。

- DiagTools 診断テストでメモリをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。

RAMを追加してもメモリが増えない場合

- PC-100 メモリ(RAM)モジュールを使用していることを確認します。

モデムの問題

通信速度が遅い場合

- 過剰な静電気やノイズが通信速度を低下させていないかどうかチェックします。必要に応じて、電話会社に解決方法を問い合わせます。
- 海外にダイヤルする場合、回線ノイズが原因となる場合があります。この場合、問題を解決することは困難です。
- コールウェイティング機能を解除します。解除方法については、電話会社までお問い合わせください。この機能を使用していると静電気に似た症状が発生する場合があります。
- 回線上に不要な接続があれば切断します。可能ならば、電話コンセントに直接接続します。
- ファックスまたはモデム通信を正常に行っている他の電話回線を使用してみます。

正しくダイヤルできない、またはダイヤル トーンが検出されない場合

- すべてのケーブルと接続をチェックします。
- 一般の電話を電話回線につないで、回線が正しくつながるかどうかを確認します。
- 電話回線が他で使用されていないかどうかを確認します。
- ファックスまたはモデム通信を正常に行っている他の電話回線を使用してみます。
- 国外で使用している場合は、ダイヤルトーンがモデムによって認識されない場合があります。コントロール パネルの[モデム] (Windows 95 または 98 の場合)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000 の場合)を開きます。[トーンを待ってからダイヤルする]オプションを無効にします。

モデムが間違った電話番号にダイヤルする場合

- 実際にダイヤルした電話番号を確認します。外線発信や長距離通話に必要な番号などがあれば確認します。

トラブルシューティング

トラブルの解決方法

- コントロール パネルの[モデム] (Windows 95 または 98 の場合)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000 の場合)を開きます。ダイヤル方法の設定が正しいかどうかを確認します。外線発信番号や長距離通話用の番号が重複していないか調べます。
- ダイヤル先が話し中でないかどうかを確認します。
- 国外では、ダイヤルトーンがモデムによって認識されない場合があります。コントロール パネルの[モデム] (Windows 95 または 98 の場合)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000 の場合)を開き、[トーンを待ってからダイヤルする]オプションを無効にしてください。
- コールウェーティング機能を解除します。解除方法については、電話会社までお問い合わせください。

正しくダイヤルするが接続できない場合

- アナログ電話回線(2、3、または 4 線式)を使用していることを確認します(PBX またはデジタル回線は使用できません)。ホテルで使用する場合は、データ回線がないかどうかたずねてください。
- ファックスまたはモデム通信を正常に行っている他の電話回線を使用してみます。
- 通信先のモデムに問題がある可能性があります。別のモデムにダイヤルしてみてください。
- エラー訂正とデータ圧縮を無効に設定します。

モデムが検出されない場合

- モデムの設定が正しいかどうかをチェックします。コントロール パネルの[モデム] (Windows 95 または 98 の場合)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000 の場合)を開き、COM ポートをチェックします。
- [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]、[システム]の順にクリックし、ハードウェアの[デバイス マネージャ]をダブルクリックします。モデムが無効に設定されている場合は、有効に設定にします。モデムが他のデバイスと競合している場合、そのデバイスを無効にします。
- ファックス ソフトウェアで Class 2 を使用している場合は、Class 1 を使用します。

正しくダイヤルするがモデムの接続音が聞こえない場合

- オーディオオフ ランプが消えているかどうかを確認します。点灯している場合は、オーディオオフ ボタンを押します。
- スピーカの音量設定をチェックします。

- コントロールパネルの[モデム] (Windows 95 または 98 の場合)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000 の場合)を開きます。使用しているモデムを選択し、[プロパティ]をクリックして、[全般]タブで音量設定をチェックします。

モデムは接続されたが、データを送信できない場合

- コントロールパネルの[モデム] (Windows 95 または 98 の場合)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000 の場合)を開きます。パリティ、通信速度、ワード長、ストップ ビットなどが送受信を行うモデムと同じであることを確認します。
- エラー訂正とデータ圧縮を無効に設定します。

エラー メッセージが表示される場合

- AT コマンドの文字列に間違ったコマンドが含まれている可能性があります。コントロールパネルまたは通信用ソフトウェアでモデムの設定を別に行ったときにコマンドを入力した場合、そのコマンドが正しかったかどうかをチェックします。

ファックスできない場合

- ファックスソフトウェアで Class 2 を使用している場合は、Class 1 を使用します。
- その他の通信プログラムをすべて閉じます。
- アプリケーションからファックスまたは印刷を行う場合、プリンタとしてファックスを選択していることを確認します。
- 一時的に省電力機能をオフにします。

回線で過電流が検出された場合

- アナログ電話回線(2, 3, または 4 線式)を使用していることを確認します(PBX またはデジタル回線は使用できません)。ホテルで使用する場合は、データ回線がないかどうかたずねてください。

カチッという音が繰り返し聞こえるが、接続できない場合

- アナログ電話回線(2, 3, または 4 線式)を使用していることを確認します(PBX またはデジタル回線は使用できません)。ホテルで使用する場合は、データ回線がないかどうかたずねてください。
- すべてのケーブルと接続をチェックします。

ネットワークの問題

内蔵のネットワーク アダプタで LAN に接続できない場合

- すべてのケーブルと接続をチェックします。別のネットワーク ステーションでもう一度接続を試みます。
- LAN ポート横の緑色のランプが点灯していない場合、LAN ケーブルがネットワークに接続されていないか、ネットワーク自体がダウンしている可能性があります。ケーブルを別のコンピュータに接続して正しく動作するかどうかチェックしてください。
- Windows 95 または 98 の場合、コントロールパネルの[ネットワーク]を開きます。インストールされているクライアントとプロトコルが正しいことを確認します。
- 10Base-T の場合、LAN ケーブルがカテゴリ 3、4 または 5、100Base-TX の場合、カテゴリ 5 であることを確認します。ケーブルの最大長は 100 メートルです。
- [スタート]、[ヘルプ]、[目次]、[トラブルシューティング]の順にクリックして、[ネットワークに関するトラブルシューティング]を参照します。
- [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]、[システム]の順にクリックし、ハードウェアの[デバイス マネージャ]をダブルクリックします。ネットワーク インタフェースが無効に設定されている場合、有効に設定にします。他のデバイスと競合している場合、そのデバイスを無効に設定します。
- LAN 診断ソフトウェアを実行します。[スタート]、[プログラム]、[3Com NIC Diags]、[Setup]の順にクリックし、ソフトウェアをインストールします。

ネットワーク コンピュータが見つからない場合

- ネットワークネットワーク管理者に問い合わせ、ネットワークで NetBEUI プロトコルがサポートされていることを確認します。
- [スタート]、[検索]、[ほかのコンピュータ]の順にクリックし、目的のコンピュータを検索します。

Netware サーバにログインできない場合

- Netware サーバが IPX/SPX プロトコルを使用している場合、使用しているフレーム タイプとサーバのフレーム タイプを同じにする必要があります。ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ブート後にコンピュータが応答しなくなる場合

- TCP/IP ネットワークで DHCP サーバが使用されていないことを確認します。DHCP が使用可能であると、起動時に長く待たされることがあります。ネットワーク管理者に問い合わせて TCP/IP 構成が適切かどうかを確認してください。

10/100 ネットワーク スイッチまたはハブを使用時に接続に時間がかかったり、接続が途中で切れてしまう場合

- スイッチの通信速度が 10 Mbps に制限されている可能性があります。Windows 95 または 98 の場合、コントロール パネルの[ネットワーク]で、ネットワーク アダプタの [Auto Polarity]を無効に設定してください。

PC カード(PCMCIA)の問題

PC カードを認識しない場合

- PC カードを取り出し、もう一度挿入します。
- PC カードを別のスロットに挿入します。
- 青色のスリープ ボタンを押すと本機がサスペンドします。次にもう一度押すと復帰します。
- コンピュータを再起動します。[スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
- カードに IRQ が必要な場合、空きがないかどうかチェックします。必要に応じて、次の手順で IRQ に未使用の値を割り当てます (Windows 95 または 98 のみ)。[スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[システム]をダブルクリックして [デバイス マネージャ]タブを使用します。
- 特定の PC カードの取り付け方法については、HP Customer Care Web サイト www.jpn.hp.com/go/driverをご覧ください。
- 次の手順で、問題の PC カードが本機で使用可能であることを確認します。動作確認済み PC カード一覧については、HP Notebook Web サイト www.hp.com/notebooksをご覧ください。
- 問題のカードを他のコンピュータで使ってみて正しく動作するかどうかを調べます。
- Zoomed Video は下段カードスロットのみで使用できます。

トラブルシューティング

トラブルの解決方法

- Windows 2000 の場合、一部の Xircom CE2 (Ips) LAN カードはゲーム ポート デバイスと競合を起こします。ご使用のカードがこれに該当するかどうかは Xircom 社までお問い合わせください。
- ドッキングシステムで PC カードを使用するときは、電源が入った状態でカードを挿入するか取り外してください。
- DiagTools 診断テストで PC カードをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。

I/O カードが正常に通信しなくなった場合

- 本機をサスペンドまたは電源オフにしたときに、カードがリセットされた可能性があります。アプリケーションをすべて終了し、カードを取り出しもう一度挿入してください。

PC カード モデムが機能しない場合

- 次の手順にしたがって、内蔵モデムを無効にします。
 1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[システム]をダブルクリックします。
 2. ハードウェアの[デバイス マネージャ]を開きます。
 3. [モデム]をダブルクリックし、モデムを一覧表示します。
 4. 使用している内蔵モデムをダブルクリックし、モデムを無効にするオプションを選択します。

I/O カードが正常に通信しなくなった場合

- 起動中のアプリケーションをすべて閉じ、再起動します。本機をサスペンドまたは電源オフにしたときに、カードがリセットされた可能性があります。
- コントロール パネルで設定をチェックします。

パフォーマンスの問題

Windows 2000 で最高のパフォーマンスを得るには、最低でも 96～128 MB のメモリ (RAM) が必要です。

本機が停止したり、実行速度が遅くなったりする場合

- Windows の正常な動作である可能性があります。バックグラウンド処理により応答時間が遅くなることがあります。

- VirusScan などがバックグラウンドで動作中の場合、パフォーマンスに影響を与えることがあります。
- [CTRL] + [ALT] + [DEL] キーを押して、アプリケーションが応答しているかどうかを確認します。
- コンピュータを再起動します。[スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
- 一部のアプリケーションでは画像処理中、または切断されたネットワークがタイムアウトになるまで応答しなくなる場合があります。
- 動作を停止しているか、動作が遅いように見えるのにハードディスク ドライブに頻繁にアクセスしている場合は(本機前面のハードディスク ドライブ ランプで動作状態がわかります)、ハードディスクのスワップ ファイルへの書き込みに時間がかかっている可能性があります。このような状態が頻繁に発生する場合は、メモリを増設してみてください。
- 空きディスク容量を調べます。テンポラリ ファイルと不要なファイルを削除します。
- 次の手順で BIOS Setup ユーティリティを起動して、設定を調べます。
 1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
 2. HP ロゴが表示されたら、[F2] を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。
 3. [Power] メニューで、[Power Management Mode] を[Max. Performance] に設定します。
 4. [F10] を押し、変更を保存して BIOS Setup を終了します。

本機が応答しなくなった場合

- [CTRL] + [ALT] + [DEL] キーを押して、応答しなくなったアプリケーションを終了します。
- コンピュータの電源を切ってリセットします。電源を切るには、電源ボタンをスライドし 4 秒以上押し続けてください。続いて、青色のスリープ ボタンを押して電源を入れます。
- それでも何も応答がない場合は、本機右側面のシステムオフ ボタンをクリップなど先の細いもので押します。青色のスリープ ボタンを押して電源を入れます。

電源とバッテリーの問題

電源を入れてもすぐに切れてしまう場合

- バッテリーの残量が非常に低下していると考えられます。AC アダプタを接続するか、充電済みのバッテリーに取り換えてください。

ビープ音が鳴り続ける場合

- バッテリー残量が少なくなると、本機は 15 秒間ビープ音を鳴らします。作業中のファイルを保存して直ちに Windows をシャットダウンし、充電済みのバッテリーを挿入するか、AC アダプタを接続してください。

バッテリーが充電しない場合

- AC アダプタのプラグが電源とコンピュータに根元までしっかりと差し込まれているか、またアダプタのランプが点灯しているか確認します。
- 延長コードを使用している場合は、AC アダプタをコードから抜き取り、直接コンセントに差し込みます。
- バッテリーが完全にロックされるまで挿入されていることを確認します。
- 本機を発熱性のものから遠ざけます。AC アダプタを抜き取り、バッテリーが冷却するのを待ちます。バッテリーが過熱してしまうと正しく充電されません。
- 可能な場合は、別のバッテリーと AC アダプタで試してみます。

拡張バッテリーが充電されない場合

- 拡張バッテリーは、メインバッテリーが完全に充電されるまで充電されません。
- AC アダプタのプラグが電源とコンピュータに根元までしっかりと差し込まれているか、またアダプタのランプが点灯しているか確認します。
- 拡張バッテリーが完全にロックされるまで挿入されていることを確認します。

バッテリー持続時間が短い場合

- 36 ページの「バッテリーを長持ちさせる」のアドバイスにしたがって電力を節約してください。
- 自動保存機能を備えたアプリケーション(MS Word など)を実行している場合、この機能を無効にするか、ハードディスクへのアクセスを減らすために保存間隔を長く設定します。

- 持続時間が徐々に短くなってきて、バッテリーを使用後 1 年、2 年以上経っている場合は、バッテリーを交換する必要があります。
- モデムを頻繁に使用するとバッテリーの持続時間に影響を与えます。
- PC カードの使用もバッテリーの持続時間に影響します。

バッテリーの残り時間が実際と異なる場合

- 残り時間とはあくまでも推定時間であり、正確な値ではありません。また、現時点で使用している電力レートに基づくものです。したがって、この数値は現時点で行っている作業の消費電力によって異なり、バッテリー残量がなくなるまで同じレートで作業を続けることを前提として算出されます。つまり、大量の電力を消費するタスク(CD や DVD などの読み取り)を実行中にバッテリーの残り時間をチェックしたとすると、あとであまり電力を消費しない作業に移った場合、数値は実際の残り時間より少なく表示されることになります。

設定どおりにスタンバイ モードに移行しない場合

- 他のコンピュータと接続中の場合、接続がアクティブの間はサスペンドできません。
- 何らかの処理を実行しているときは、通常その処理が終了するまで待ち状態になります。
- Windows 95 の場合、CD-ROM ドライブが接続されていれば、自動挿入通知機能が無効になっていることを確認します(デフォルト設定)。Windows 98 または 2000 の場合、この作業は不要です。

Windows 95 または 98 の場合、[デバイス マネージャ]で CD-ROM ドライブのプロパティを調べます。

本機が設定どおりにハイバネート(休止)モードに自動移行しない場合

- Windows 2000 の場合、休止モードをサポートするように設定されていることを確認します。コントロール パネルの[電源]を開き、[休止状態]タブをクリックします。

[電源設定]タブも合わせて確認します。AC 電源とバッテリーの休止状態のタイムアウトが、両方とも[設定しない]になっていないことを確認します。

- Windows 95 または 98 の場合は、BIOS Setup ユーティリティでハイバネートのタイムアウト値を変更します。78 ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。

印刷の問題

ヒント

たいていの印刷に関する問題は、Windows ヘルプの「印刷に関するトラブルシューティング」で解決することができます。[スタート]、[ヘルプ]、[目次]、[トラブルシューティング]の順にクリックします。

シリアルまたはパラレル プリンタで印刷できない場合

- プリンタの電源が入っており、給紙されていることを確認します。
- 適切なプリンタ ケーブルやケーブル アダプタを使用しているか、またケーブルが正しく接続されているかどうかを確認します。
- プリンタ側のエラーかどうかをチェックします。

左端が印刷されない場合

- アプリケーションの中には、600 dpi プリンタが正しく機能しないものがあります。このようなプリンタを使用している場合、300dpi プリンタ互換のプリンタ ドライバを選択します。たとえば、600 dpi の HP LaserJet プリンタの場合、HP LaserJet IIIsi driver (300 dpi)を選択してみます。

赤外線プリンタで印刷できない場合

- 赤外線ポート間に障害物がなく、2つのポートがまっすぐ向き合っていることを確認します(本機の赤外線ポートは右側面のボリューム コントロールの下にあります)。2つのポートは1メートル未満の距離に配置します。
- プリンタの電源が入っており、給紙されていることを確認します。
- プリンタ側のエラーかどうかをチェックします。
- Windows が実行中であることを確認します。実行中でなければ、赤外線印刷機能は利用できません。
- 98ページの「赤外線通信の問題」を参照してください。

シリアル、パラレル、USB の問題

シリアルマウスが機能しない場合

- まず、製造元のインストール指示どおりにマウスをインストールしたことを確認します。インストールが正しくなければ、もう一度インストールし直します。

- ポートが正しく接続されているかどうかを確認します。
- 青の電源ボタンを押して、本機をいったんサスペンドし、復帰します。
- コンピュータを再起動します。[スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
- コントロールパネルでマウスの設定が正しいかどうかをチェックします。[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順にクリックし、[マウス]をダブルクリックします。
- BIOS Setup ユーティリティでシリアルポートが有効になっていることを確認します。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。
- PS/2 ポート接続用のマウスを使用します。PS/2 キーボードが接続されている場合、PS/2 Y アダプタを使用します(HP アクセサリ F1469A)。
- コントロールパネルでポートの設定が正しいかどうかをチェックします。
 1. [スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順にクリックし、[システム]をダブルクリックします。
 2. ハードウェアのデバイス マネージャを開き、[ポート](COM & LPT)をダブルクリックします。

シリアルモデムが正しく機能しない場合

- 101ページの「モデムの問題」を参照してください。
- Windows ヘルプの「モデムに関するトラブルシューティング」を参照します。[スタート]、[ヘルプ]、[目次]、[トラブルシューティング]の順にクリックします。
- ポート接続が正しいことを確認します。
- コントロールパネルでモデムの設定が正しいかどうかをチェックします。[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順にクリックし、[モデム] (Windows 95 または 98 の場合)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000 の場合)をダブルクリックします。
- BIOS Setup ユーティリティでシリアルポートが有効になっていることを確認します。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。
- 次の手順にしたがって、内蔵モデムを無効にします。
 1. [スタート]、[設定]、[コントロールパネル]の順にクリックし、[システム]をダブルクリックします。
 2. ハードウェアの[デバイス マネージャ]を開きます。
 3. [モデム]をダブルクリックし、モデムを一覧表示します。

トラブルシューティング

トラブルの解決方法

4. 使用している内蔵モデムをダブルクリックし、モデムを無効にするオプションを選択します。
- 次の手順にしたがって、コントロール パネルでポートの設定をチェックします。
 1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[システム]をダブルクリックします。
 2. ハードウェアの[デバイス マネージャ]を開き、[ポート](COM & LPT)をダブルクリックします。

シリアルまたはパラレルポートが機能しない場合

- ポートにコネクタが正しく接続されていることを確認します。
- 次の手順にしたがって、コントロール パネルでポートの設定をチェックします。
 1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[システム]をダブルクリックします。
 2. ハードウェアの[デバイス マネージャ]を開き、[ポート](COM & LPT)をダブルクリックします。
- BIOS Setup ユーティリティでシリアル ポートとパラレル ポートが有効になっていることを確認します。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。
- DiagTools 診断テストでポートをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。

USB ポートが機能しない場合

- 最新バージョンの USB ドライバを周辺機器デバイスの販売元から入手します。HP のウェブサイトも合わせてご覧ください。
- コントロール パネルでポートの設定をチェックします。
 1. [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]の順にクリックし、[システム]をダブルクリックします。
 2. ハードウェアの[デバイス マネージャ]を開き、[Universal Serial Bus Controller]をダブルクリックします。
- デバイス用の最新ドライバを周辺機器の製造元から入手します。HP Notebook Web サイト www.hp.com/notebooks も合わせてご覧ください。
- DiagTools 診断テストで USB ポートをテストします。115ページの「ハードウェアの診断」を参照してください。

起動時の問題

電源を入れても応答しない場合

- AC アダプタを接続します。
- 青色のスリープ ボタンを押して、本機の電源を入れます。
- それでも何も応答がない場合は、本機右側面のシステムオフ ボタンをクリップなど先の細いもので押してリセットします。続いて青色のスリープ ボタンを押して電源を入れます。
- まだ応答しない場合は、バッテリーと AC アダプタを取り外し、PC カードも取り外します。ドックに取り付けていた場合は、ドッキングを解除します。AC アダプタのプラグをもう一度差し込み、システムオフ スイッチを押して本機をリセットします。

バッテリーで起動しない場合

- バッテリーが正しく装着され、充電されていることを確認します。バッテリーを取り外し、バッテリー後部のパッドを押して、充電レベルを調べます。ランプの状態で充電レベルがわかります。
- 拡張バッテリーがあれば、それを装着し本機を再起動します。
- 可能ならば、別のバッテリーを装着します。

フロッピーディスクドライブから起動しない場合

- ドライブの取り付けと接続が正しいかどうかを確認します。
- 次の手順で BIOS Setup ユーティリティを起動して、ブート順を調べます。
 1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
 2. HP ログが表示されたら、[F2] を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。
 3. [Boot] メニューを開きます。デフォルトのブート順は(1) リムーバブル デバイス、(2) ハードディスク、(3) CD-ROM/DVD ドライブの順になっています。
 4. リムーバブル デバイスが優先順位の 1 番でない場合は、矢印キーを使ってリムーバブルデバイスを選択し、最初の位置に移動します。
 5. LS-120 ドライブも設置されている場合、[Removable Device]をすべて表示し、フロッピードライブを最初の位置に移動します。
 6. [Security] メニューで、[Removable Device Boot]の設定が[Enabled]になっていることを確認します。

トラブルシューティング

トラブルの解決方法

7. [F10] を押し、変更を保存して BIOS Setup を終了します。

サスペンド後の復帰に時間がかかる場合

- ネットワーク カードが取り付けられている場合、復帰に1分以上かかることがあります。オペレーティング システムがドライバをロードし、ハードウェアやネットワーク接続をチェックしている間は、画面上のカーソルが点滅して見えます。ハードウェアが初期化されると直ちに Windows デスクトップが表示されます。

ハードウェアの診断

本機に付属の DiagTools ハードウェア診断プログラムには、次の 2 種類のレベル別テストが用意されています。

- 基本的なハードウェア部分を自動的にテストするベーシック テスト
- ハードウェアを個別にテストするアドバンスドテスト

本テストは、システムの再起動直後に実行するように設計されています。これにより、コンピュータの動作を完全に制御できる状態になり、診断プログラムがハードウェアコンポーネントを正しくテストできます。これらのテストはコンピュータの状態を保持するためのものであり、性能にまったく影響を与えません。プログラムが終了すると本機はリブートし、ドライバがロードされます。

DiagTools 診断テストを実行する

1. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
2. HP ロゴが表示されたら、[F10]を押して 診断テストを起動します。
3. 画面が表示されたら、次へと進みます。
4. ハードウェアの検出が終了したら、検出されたハードウェア一覧をチェックします。

ヒント

デバイスが検出されなかったり、テストに失敗したりした場合は、BIOS Setup ユーティリティでそのデバイスが正しく設定されていない可能性があります。BIOS Setup を実行し、設定内容をチェックすることにより、設定が正しいかどうかを確認できます。78ページの「BIOS Setup ユーティリティを実行」を参照してください。

5. **ベーシック テストを実行します。** [F2]を押してベーシック ハードウェア テストを開始します。

ベーシック テストで合格しなかった場合、[F6]を押して問題のコンポーネントに対するウィザード形式のアドバンスドテストを開始することができます。
6. アドバンスドテストを実行せずに終了する場合は、[F4]キーを押してシステムおよびテスト情報をサポート チケット ログ ファイルに保存します。[F3]を押して終了します。
7. **オプション:アドバンスドテストを実行します。** [F2]を押してアドバンスドテストの画面を開きます。

トラブルシューティング ハードウェアの診断

8. 必要なテストを選択し、実行します。検出されなかったハードウェアに対するテスト項目は表示されません。次のキーを押してテストを実行します。

ENTER	強調表示されているテストを実行します。
F5 または SPACE	強調表示されているテストにマークを付けるか、 マークを外します。
F6	現在のメニューのテストすべてにマークを付けるか、 マークを外します。
F7	全メニューのテストすべてにマークを付けるか、 マークを外します。
F10	マーク付きのテストをすべて実行します。

9. テストが終了したら、[ESC] を押してアドバンスドテストを終了します。
10. **オプション: サポート チケットを保存します。** [F4] を押してシステムおよびテスト情報をサポート チケット ログファイルに保存します。
11. **終了:** [F3] を押してテストを終了しリブートします。
12. **オプション: ログの内容を確認します。** ログ ファイルには、テスト結果とエラーのリストが記録されています。C:\Dmi\Hpdiags\Hpsuppt.exe を実行して、ログファイルをディレクトリ内に取り込み「メモ帳」などで開きます(Hpsuppt.exe がハードディスクに見つからない場合は、HP Customer Care Web サイト(www.jpn.hp.com/go/driver)からダウンロードできます)。

ソフトウェアの復元と再インストール

Recovery CD を使って、本機にプリインストールされていたソフトウェアを出荷時の状態に戻すことができます。

Recovery CD に収録されている本機専用の Windows ドライバを使用して、システムをカスタマイズできます。これらのドライバは以下の場所に収録されています

- ハードディスク ドライブの C:\hp\drivers
- Recovery CD の \hp\drivers
- On the HP Customer Care Web サイト (www.jpn.hp.com/go/driver). Web サイトには、各オペレーティング システム用ソフトウェア ドライバのアップデート ファイルも収録されています。

ハードディスクを出荷時の状態に復元する

Recovery CD を使って、ハードディスクに出荷時にプリインストールされたソフトウェアを再インストールすることができます。より大きなハイバネート/診断ツール用パーティションを既存のハードディスク上に作成したり (Windows 95 または 98 のみ)、新規のハードディスク上に新しく作成したりする場合も、同じ手順を使用します。

注意

この作業を行うとハードディスクドライブをフォーマットするため、ディスク上のデータはすべて消去されます。ハードディスクドライブのフォーマットが終了したら、アプリケーションを再インストールしてください。

以下に示す作業がすべて終了するまで、作業を途中で止めたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。

1. **重要** :ハードディスク内のデータのバックアップをとってください。次のステップを実行すると、ディスク内のデータはすべて消去されます。
2. AC アダプタを接続します。
3. Recovery CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
4. [スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
5. HP ロゴが表示されたら、[ESC]を 2 度押します。
6. CD または DVD ドライブを起動デバイスとして選択します。

トラブルシューティング ソフトウェアの復元と再インストール

7. Recovery CD ダイアログボックスが表示されたら、画面に表示される手順に従ってください。パーティション サイズをたずねるメッセージが表示されたら、推奨サイズを指定してください。出荷時のソフトウェアを再インストールするには、約 10 分かかります。

ハイバネート/診断ツール用パーティションを作成するだけで、出荷時のソフトウェアをインストールしない場合は、[Advanced]をクリックして、オペレーティング システムのインストールを行わないオプションを選択します。

8. 再起動のメッセージが表示されたら、[CTRL]+[ALT]+[DEL] を押して、画面に表示される指示に従います。

BIOS のアップデート

HP では、本機の機能向上のため、最新の BIOS アップデート ファイルを提供しています。アップデート ファイルは HP Customer Care Web サイト(www.jpn.hp.com/go/driver)から入手できます。BIOS アップデート ファイルをダウンロードしたら、Readme.txt ファイルに記載された手順にしたがって BIOS アップデート 用フロッピー ディスクを作成してください。

注意

BIOS のアップデートを行うと前のバージョンを置き換えるため、手順どおりに正しく行うことが重要です。手順を誤ると障害が発生する原因となります。BIOS のアップデート中に、PC 識別名と BIOS パスワード以外の、BIOS Setup ユーティリティの設定内容がリセットされます。

1. PC カードを取り出します。
2. ドックに取り付けていた場合、ドッキングを解除します。
3. AC アダプタを本機に接続します。
4. BIOS アップデート 用ディスクをフロッピーディスク ドライブに挿入します。
5. コンピュータを再起動します。[スタート]、[シャットダウン]、[再起動]の順にクリックします。
6. 画面の指示に従います。アップデートが終了するまで約 1 分かかります。いったんアップデート作業が開始したら、途中で中断しないでください。
7. 作業が完了したら、本機右側面のシステムオフ ボタンをクリップなど先の細いもので押して本機をリセットします。

サポートとサービスのご案内

サポートを受けるには

Web から情報を入手するには

HP では、HP ノートブック コンピュータ ユーザへの情報を提供する、専用の Web サイトを運営しています。次のサイトでは、お使いのコンピュータに対するサポート情報を提供しています。

- **HP Customer Care Web サイト**：技術情報やソフトウェア アップデート ファイルの提供を行っています。

www.jpn.hp.com/go/driver

- **HP ノートブック コンピュータ Web サイト**：テクニカル サポートから、保証やサポート プログラムに関する情報まで、様々な最新情報を入手できます。

www.jpn.hp.com/go/omnibook

www.hp.com/notebooks

HP カスタマケア センター

HP カスタマ ケア センターでは保障期間に限り、無償でサポートを行っています(通話代のみ有料)。

無償サポート期間中、次のようなご質問を受け付けます。

- 同梱のアプリケーションとオペレーティング システムに関するお問い合わせ
- HP 指定の動作環境および使用条件に関するお問い合わせ
- HP 製アクセサリ、アップグレード、基本操作とトラブルシューティングに関するお問い合わせ

次のようなお問い合わせはご遠慮ください。

- 他社製ハードウェア、ソフトウェア、およびオペレーティング システム、または本製品に適さないご使用に関するお問い合わせ
- お客様ご自身が修理するためのお問い合わせ
- 製品の開発、カスタムインストールに関するお問い合わせ
- コンサルティング

HP カスタマイズインフォメーション連絡先

北米 米国:カナダ (英語):カナダ (フランス語):(800) 387-3867 メキシコ: 326 4600, グアテマラ 669 9500, モントレー 378 4240 中央/南アメリカ アルゼンチン: 541781 4061 69 ブラジル: 5511 709 1444 ベネズエラ: 58 2 239 5664 ヨーロッパ オーストラリア: (+43) 0711 420 10 80 ベルギー (フランス語): (+32) 02 626 88 07 ベルギー (ドイツ語): (+32) 02 626 88 06 チェコ共和国: (+420) 2 61307 310 デンマーク: (+45) 39 29 40 99 フィンランド: (+358) 0203 472 88 フランス: (+33) 01 43 62 34 34 ドイツ: (+49) 0180 525 81 43 ギリシャ: (+30) 1-619-6411 ハンガリー: (+36) 1-382-1111 イスラエル: (+972) 9-9524848 イタリア (+39) 02-26410350 オランダ (+31) 020 606 87 51 ノルウェー (+47) 22 11 62 99 ポーランド: (+48) 22-519-0600 ポルトガル: (+351) 21 317 6333 アイルランド: (+353) 01 662 55 25 ロシア:モスクワ (+7) 095 797 3520, サンクト ペテル スブルグ (+7) 812 346 7997 南アフリカ:RSA 086 000 1030, その他の地域 (+27) 11 258 9301 スペイン: (+34) 902 32 11 23 スウェーデン: (+46) 08 619 21 70 スイス: (+41) 084 880 11 11 トルコ: (+90) 212-221-6969 イギリス: (+44) 0207 512 5202	アジア/オーストラリア オーストラリア: (61-3) 8877-8000 中国: (800) 810-5959 香港: (852) 800-96-7729 インド: (91-11) 682-6035 インドネシア: (62-21) 350-3408 韓国: (82-2) 3270-0700 マレーシア: (60-3) 295-2566 ニュージーランド: (64-9) 356-6640 フィリピン: (63-2) 867-3551 シンガポール: (65) 272-5300 台湾: (886-2) 2717-0055 タイ: (66-2) 661-4000 ベトナム: (84-8) 823-4530 アフリカ/中近東 41 22 780 71 11 日本国内 東京 (03) 3335-8333 大阪 (06) 6838-1155 札幌 (011) 251-3801 仙台 (022) 225-5851 名古屋 (052) 222-7371 広島 (082) 240-2901 福岡 (092) 472-5325 FAX (03) 3335-8338
---	---

サポートとサービスのご案内

サポートを受けるには

修理を依頼される場合は

保障期間内の場合：修理サービスを受ける際は、HP 正規代理店または HP カスタマケア センターまでご連絡ください。詳細は、120ページの「HP カスタマケア センター」を参照してください。ご連絡をいただき次第、お客様の製品、ご購入日に合わせた保証条件に基づいた保証内容をご案内し、お客様の最寄りのサポート窓口より修理サービスを実施させていただきます。保証サービスには、製品の梱包費用、税金、お客様の製品指定場所とサービス実施場所間の運賃などが含まれます。

保障期間が過ぎている場合：HP 正規代理店または HP カスタマケア センターまでご連絡ください。詳細は、120ページの「HP カスタマケア センター」を参照してください。修理費と修理手順については、サポート プロバイダよりお知らせいたします。

返送される場合の準備

返送修理が必要かどうかについては、上記の「修理を依頼される場合は」をご覧ください。返送修理を依頼される場合は、次の手順にしたがって、返送する準備をしてください。．

重要: ハードディスク ドライブ内のデータをバックアップしてください。コンピュータの修理実施時に、ハードディスクの交換または初期化が行われる場合があります。

1. リムーバブル コンポーネントはすべて取り外しておいてください。万一、装着されていても返送の保証はいたしません。修理に出す前に次のコンポーネントは必ず取り外してください。
 - PC カード
 - AC アダプタと電源コード
 - CD、DVD、フロッピーディスクなどのリムーバブル メディア
 - 発生している問題との関係がなく、修理対象ではないプラグイン モジュール
3. 本機を HP まで返送する際は、搬送中の損傷を避けるため、出荷時に使用されていた梱包ケースなどの梱包材をご利用ください。

注記

ハードディスクドライブに障害がある場合、代替りのドライブが提供されます。このドライブはフォーマットが済んでいないもの、または検証用のソフトウェアがロードされているもののどちらかになります。出荷時のソフトウェアは同梱の Recovery CD(117ページの「ハードディスクを出荷時の状態に復元する」を参照)、またはその他の復元方法を使って復元してください。

HP 限定保証条件

1. 当社は、エンドユーザであるお客様に HP ハードウェア、アクセサリ、サプライ品の材質もしくは品質上の不具合について、購入日から、HP ノートブック コンピュータに同梱の保証期間表に記載された保証期間に限り、保証いたします。ハードウェア製品の保証期間中にこのような不具合の報告を受けた場合は、当社の判断に基づいて、不具合が確認された部品の修理または交換を実施いたします。交換部品は、新品またはそれと同等の性能を持つものが使用されます。
2. 当社は、HP 製ソフトウェアが正しくインストールおよび使用されている場合、ソフトウェア製品がプログラミング命令を実行することを、その製品の購入日から本機に同梱の保証期間表に記載された保証期間に限り、保証いたします。本ソフトウェア製品が保証期間中にこのような不具合の報告を受けた場合は、当社は、不具合によりプログラミング命令を正しく実行できない当該ソフトウェアを交換いたします。
3. 当社は、HP 製品の操作中に中断やエラーがまったく発生しないという保証はいたしません。当社が、保証内容に基づく製品の修理または交換を適切な期間内で実施できない場合、当該製品をご返却いただいた時点で購入代金の全額をお返しいたします。
4. 当社の製品は性能上、新品と同等の再生部品を含んでいる場合があります。また、当社の製品は付帯的使用に供されてきたものがある場合もあります。
5. 本保証は、a)不適切なメンテナンスや校正、b)他社提供のソフトウェア、インタフェース、部品、供給品、c)無許可の改造および誤使用、d)環境仕様の範囲外での使用、または e)不適切なサイト準備やメンテナンス、が原因で発生した不具合については適用されません。
6. 国、地域の法律で認められる範囲内において、当社は書面または口頭に関わらず、上記以外の明示的保証も黙示的保証も一切いたしません。又、当社は市場商品力、品質および特定用途に対する適合性についての黙示的保証は一切いたしません。また、黙示的保証については、その期間を限定していない国、地域もあるため、上記制限事項が適用されない場合があります。本保証により、お客様は特定の法的権利を付与されますが、国、地域によって独自の法的権利が認められる場合があります。
7. 国、地域の法律で認められる範囲内において、本保証条項に規定する責任が、当社のお客様に対する唯一の責任です。上記の保証を除き、当社またはその供給元は、データの滅失または直接的、特殊、偶発的、結果的（利益またはデータの損失を含む）若しくはその他の損害につき、契約、不法行為その他いかなる理由によってでも、責任を負いません。また、国、地域によっては、偶発的、または結果的損害に対する除外や制限を認めないところもあります。従って、上記の制限または除外がお客様に適用されない場合があります。

サポートとサービスのご案内

HP 限定保証条件

ここに記載された保証条件は、法律が許容する場合を除き、本製品のお客様への販売に適用される強制力をもった法規上の権利を排除し、制限し、変更し、追加するものではありません。

仕様と規制情報

ハードウェア仕様

以下に記載された仕様は、製品改良のために予告なく変更が加えられる場合があります。最新の仕様については、HP Notebook Web サイト(www.hp.com/notebooks)をご覧ください。日本国内で未発売モデルの仕様も含まれます。

外形寸法と重量	寸法 (14 インチ型ディスプレイ): 316 × 261 × 33 mm 寸法 (15 インチ型ディスプレイ): 325 × 261 × 35 mm 重量: 2.3~2.9 kg, 構成内容によって異なります。 マグネシウム ディスプレイ カバー。
プロセッサおよびバス アーキテクチャ	550-MHz Celeron プロセッサ 128-KB four-way set-associative L2 キャッシュ –または– 600、650 または 700 MHz の Intel Mobile Pentium III プロセッサ (256 KB four-way set-associative L2 キャッシュ付き Speed Step テクノロジー搭載 コア電圧 1.6 V、外部電圧 2.5 V の省電力プロセッサ 32 KB (16 KB インストラクション、16 KB データ) L1 キャッシュ 32 ビット PCI バス
グラフィックス	14.1 または 15.0 インチ XGA アクティブマトリックス (TFT) ディスプレイ (1024 × 768: 1600 万色) PC カード下段でズームビデオ対応 3D および OpenGL グラフィックスをサポート Celeron モデル: ATI Mobility-M グラフィック アクセラレータ 4MB ビデオ RAM 付き、2x AGP グラフィック機能 Pentium III モデル: ATI Mobility-M1 グラフィック アクセラレータ 8MB ビデオ RAM 付き、2x AGP グラフィック機能
電源	リチウムイオン蓄電池 LED 充電レベルゲージ付き (DC11.1 または 14.8 V) バッテリーの持続時間 (バッテリー 1 個の場合): 最大 3 時間 (使用状況、機種により異なる) 高速充電: 1 時間半で 80%、2 時間で 100% バッテリー残量警告機能 サスペンド/レジューム機能 汎用 60 W AC アダプタ: 入力 AC100–240V (50/60 Hz) 出力 DC19 V モジュール ベイ用拡張バッテリー(オプション)
記憶装置	6 GB、12 GB、または 18 GB の取り外し可能ハードディスクドライブ 1.44 MB フロッピーディスクドライブ モジュール 24 倍速 CD-ROM または 6 倍速 DVD ドライブ モジュール(またはそれ以上) ドライブ モジュール(オプション)

RAM	RAM スロット x2 最大 512 MB まで拡張可能 最初の RAM スロットに 64 または 128 MB RAM 搭載済み 100-MHz RAM バス
オーディオ システム	16 ビット Sound Blaster Pro 互換ステレオ サウンド 2 つの内蔵スピーカによるステレオ サウンド(500 Hz ~10 KHz レンジ) Zoomed Video 対応 3D-エンハンスド PCI バス オーディオ 内蔵マイク インディケーター ランプ付きオーディオ オフ ボタン ヘッドホン出力、マイク入力、ライン入力、
キーボードとポインティングデバイス	106/107 キーエミュレーション使用 91 キー タッチ タイプ 日本語 キーボード 埋め込みテンキー ファンクション(Fn)キー x 12 ポインティングデバイス (2):ポインティングスティック(TrackPoint テクノロジー、IBM よりライセンス) およびタッチパッド
通信	LAN/モデム搭載モデル (3Com): LAN - Ethernet 10Base-T (10 Mbps) および 100Base-TX (100 Mbps)をサポート - Wake-on-LAN、remote-Wake-up 機能 (Windows 98)、fast IP、DMI、dRMON をサポート - PXE/BINL、BOOTP、NCP/IPX、DHCP 対応 MBA (Managed Boot Agent) モデム - データ速度:最大 56 Kbps (V.90) - FAX 速度:14.4 Kbps, Class1 および 2 - 変調方式:V.21, V.22, V.22bis, V.23, V.32, V.32bis, V.34, V.90, X2, ,Bell 103, Bell 212A. - 同期転送: V.80 - 圧縮: V.42bis, MNP5 - エラー訂正: V.42, MNP2-4 - FAX: Group 3 ファックス, Class 1. V.17, V.27ter, V.29, V.21 チャンネル 2 モデムのみ搭載モデル (Ambit): データ速度:最大 56 Kbps (V.90) FAX 速度:14.4 Kbps, クラス 1 および 2 変調方式:V.21, V.22, V.22bis, V.23, V.32, V.32bis, V.34, V.90, X2, ,Bell 03, Bell 212A 同期転送:V.80 圧縮: V.42bis, MNP5 エラー訂正: V.42, MNP2-4 FAX: Group 3 ファックス、Class 1. V.17, V.27ter, V.29, V.21

仕様と規制情報
ハードウェア仕様

入力/出力	ユニバーサル シリアル バス(USB) 9 ピン, 115,200-bps シリアル (16550 UART) 25 ピン双方向 ECP/EPP パラレル 15 ピン VGA ビデオ出力 DDC サポート(解像度最大 1600 × 1200 × 64000 または 1600 万色)リフレッシュ レート最大 60~100 Hz、解像度による) デュアル ディスプレイ PS/2 キーボード/マウス 4 Mbps IrDA 準拠の赤外線ポート
拡張性	Type III × 1 または Type II 16/32 ビット PC カード スロット × 2(3.3 および 5V 対応) CardBus 対応 アクセサリ モジュール用のプラグイン モジュールベイ ポートリプリケータ、ミニドック、ドッキング システム(オプション)
ソフトウェア	Microsoft Windows 95、98、または 2000 Windows 95/98/2000 プラグ & プレイ互換 Advanced Power Management (APM) (Windows 95 および 98 のみ) DMI with HP TopTools Adobe Acrobat Reader Agaté Tioman for HP (Hot Swap) (Windows 95 および 98 のみ) DiagTools VirusScan リファレンス ガイド(オンライン) Recovery CD (付属) BIOS とドライバの Web による一元的アップデートサービス
セキュリティ機能	ユーザおよび管理者パスワード システム、ハードドライブ、ドッキング用のパスワード 起動時に PC 識別名 を表示 DMI でアクセス可能な電子シリアル番号 Kensington MicroSaver ロック スロット
環境仕様	動作時温度:5 ~35 °C 動作時湿度:20~90 % RH (5 ~35 °C) 動作時高度:最大 3000 m 保管時温度:-20 ~50 °C
主要 IC	CPU: Intel Mobile Pentium III または Celeron プロセッサ サウス ブリッジ:PIIX4M ビデオ コントローラ:ATI Mobility-M または M1 オーディオ コントローラ:ESS Maestro-3E および ESS ES1921 CardBus コントローラ:TI PCI 1420 キーボード/内蔵コントローラ:National PC87570 BIOS フラッシュ: SST28SF040 Super I/O: National NS97338

モデム コード一覧

本機にモデム ポートがある場合、AT コマンドと S レジスタを使って、モデムの動作をカスタマイズできます。この設定は、コントロール パネルの[モデム](Windows 95 または 98)、または[電話とモデムのオプション](Windows 2000)、一般の通信用ソフトウェア、およびソフトウェアのターミナル モードを使用して行います。62ページの「

仕様と規制情報 モデム コード一覧

「モデムの設定を変更する」を参照してください。 .

注記

デフォルト設定を変更する前に、モデムの機能と動作方法をよく理解してください。

ここでは、AT コマンド、S レジスタ、ならびに内蔵モデム用の特定の応答コードについてその概要を説明します。

- **3Com モデム**：LAN ポートとモデムポート搭載モデルの場合、3Com モデムが取り付けられています。
- **Ambit モデム**：モデムポートはあっても LAN ポートがないモデルの場合、Ambit モデムが取り付けられています。

モデムコード一覧(3Com)

次の AT コマンドテーブルでは、デフォルト設定は太字で表示されています。+++、/、および A/を除く以下の AT コマンドは、先頭に“AT”をつけて入力します。

AT コマンド(3Com)

コマンド	機能(3Com)
+++	オンライン コマンド モードに移行する (AT は不要)
/	一時停止(AT は不要), デフォルトは 125 ms
A	手動着信実行
A/	直前に入力したコマンドの再実行 (AT は不要)
D...	電話番号をダイヤルし、その他のオプションのコマンドを発行する:0-9=ダイヤル番号, T=トーンダイヤル, P=パルス ダイヤル, R=オリジネート モード対応モデムを呼び出し, W=次のダイヤルトーン待ち (X2, X4), @=応答待ち(X3, X4), (カンマ)=ダイヤル中に一時休止, !=フックスイッチをフラッシュ, #=サブトーン ダイヤル番号, *=サブトーン ダイヤル番号, ;=ダイヤル後コマンドモードで継続, \$=コーリング カード ボン待機, &=コーリング カード ボン待機, “=後ろに続く文字をダイヤルする
D\$	ダイヤル コマンド一覧を表示する
DL	直前の番号をダイヤルする
DL?	直前にダイヤルした番号を表示する
DSn	登録した番号にダイヤルする (n=0,1,2,3)
E0	コマンド エコー禁止
E1	コマンド エコー有効
F0	オンライン エコー有効

コマンド	機能(3Com)
F1	オンライン エコー 禁止
H0	切断する(オンフック)
H1	応答する(オフフック)
I0	4 桁の製品コードを表示する
I1	チェックサムを表示する
I2	RAM テストの結果を表示する
I3	ファームウェア バージョンを表示する
I4	現在のモデムの設定を表示する
I5	ユーザ プロファイルを表示する
I7	製品の設定情報を表示する
I8	ブラックリスト画面を表示する
I10	VXD 設定画面を表示する
I11	V.34 リンク画面を表示する
L0	モデムスピーカの音量をオフにする
L1	モデムスピーカの音量を小にする
L2	モデムスピーカの音量を中にする
L3	モデムスピーカの音量を大にする
M0	モデム スピーカを常にオフにする
M1	接続が確立するまでモデム スピーカをオンにする
M2	モデム スピーカを常にオンにする
M3	ダイヤル中はモデム スピーカをオフにし、ダイヤル後、接続が確立するまでオンにする
O0	オンライン モードに復帰する
O1	オンライン モードに戻り、リトレーニングする(自動的に最も速いモードに戻る)。
S\$	S レジスタ設定一覧を表示する
Sr=n	S レジスタ “r” のとき、“n”の値を設定する
Sr?	S レジスタ“r”の値を表示する
V0	応答コードを数字で表示する
V1	応答コードを文字で表示する

仕様と規制情報
モデム コード一覧

コマンド	機能(3Com)
X0	発信状況基本応答コードを報告 例:OK, CONNECT, RING, NO CARRIER(可能な場合はビジー、ダイヤルトーンの検出なし)NO ANSWER および ERROR 等
X1	基本発信状況応答コードと接続レートを報告 OK, CONNECT, RING, NO CARRIER (可能な場合はビジー、ダイヤルトーンの検出なし)NO ANSWER、CONNECT XXXX および ERROR 等
X2	基本発信状況応答コードと接続レートを報告 OK, CONNECT, RING, NO CARRIER (可能な場合はビジー)NO DIAL TONE, NO ANSWER, CONNECT XXXX および ERROR 等
X3	発信状況基本応答コードと接続レートを報告 OK, CONNECT, RING, NO CARRIER, NO ANSWER, CONNECT XXXX, BUSY および ERROR
X4	基本発信状況応答コードと接続レートを報告 OK, CONNECT, RING, NO CARRIER, NO ANSWER, CONNECT XXXX, BUSY, NO DIAL TONE および ERROR 等
Y0	次のリセットで&W0 設定を使う
Y1	次のリセットで&W1 設定を使う
Y2	次のリセットで&F0 設定を使う
Y3	次のリセットで&F1 設定を使う
Y4	次のリセットで&F2 設定を使う
Z0	ATY 設定にしたがってモデムをリセットする
Z1	モデムをリセットし、&W0 設定を使う
Z2	モデムをリセットし、&W1 設定を使う
Z3	&F0 設定でモデムをリセットし、デフォルトのプロファイル 1 をロードする
Z4	&F1 設定でモデムをリセットし、デフォルトのプロファイル 0 をロードする
Z5	&F2 設定でモデムをリセットし、デフォルトのプロファイル 2 をロードする
\$	AT コマンド一覧を表示する
&\$	%コマンド一覧を表示する
&A0	データ圧縮応答コードを無効にする
&A1	データ圧縮応答コードを有効にする
&A2	変調応答コードを有効にする
&A3	データ圧縮応答コードを有効にし、V.42bis と MNP 5 プロトコル インジケータを追加する
&B0	可変 DTE 速度を使用する
&B1	固定 DTE 速度を使用する
&B2	データ圧縮使用時に固定 DTE 速度を使用する

コマンド	機能(3Com)
&C0	キャリア検出を常時オンにする
&C1	キャリア検出をモデムで制御する
&D0	DTR を無視する
&D1	オンライン コマンド モードを使用する
&D2	DTE で DTR を制御する
&D3	DTE で DTR を制御しリセットする
&F0	ハードウェア(RTS/CTS)フロー制御を使用する工場設定のプロファイル(モデム出荷時のデフォルト設定)を読み込む
&F1	ハードウェア(RTS/CTS) フロー制御を使用する工場設定のプロファイルを読み込む
&F2	ソフトウェア(XON/XOFF)フロー制御を使用する工場設定のプロファイルを読み込む
&G0	ガードトーンなし
&G1	550 Hz のガードトーンを使用する
&G2	1800 Hz のガードトーンを使用する
&H0	伝送データフロー制御 – フロー制御を無効にする
&H1	伝送データフロー制御 – ハードウェア フロー制御(RTS/CTS)を有効にする
&H2	伝送データフロー制御 – ソフトウェア フロー制御(XON/XOFF)を有効にする
&H3	伝送データフロー制御 – ソフトウェアとハードウェア フロー制御を有効にする
&I0	受信データフロー制御 – フロー制御を無効にする
&I1	受信データフロー制御 – XON/XOFF 信号を自分と相手のモデムに送信する
&I2	受信データフロー制御 – XON/XOFF 信号を自分のモデムにのみ送信する
&I3	HP Eng/Ack(ホスト モード)
&I4	HP Eng/Ack(ターミナル モード)
&I5	受信データフロー制御 – エラー訂正を使用する場合、XON/XOFF 信号を自分のモデムにのみ送信する。データ圧縮を使用しない場合、入ってくる XON/XOFF のみ検出する
&K0	データ圧縮を無効にする
&K1	データ圧縮を有効にする(V.42bis, MNP 5, NONE)
&K2	データ圧縮を有効にする(V.42bis に制限)
&K3	選択可能なデータ圧縮を使用する
&M0	1200 bps 以上の転送時のエラー訂正を無効にする

仕様と規制情報
モデム コード一覧

コマンド	機能(3Com)
&M4	1200 bps 以上の転送時に、V.42 または MNP エラー訂正を許可する
&M5	1200 bps 以上の転送時に、V.42 または MNP エラー訂正を許可する
&Nn	接続速度を設定する(bps): 0=最高速度, 1=300, 2=1200, 3=2400, 4=4800, 5=7200, 6=9600, 7=12000, 8=14400, 9=16800, 10=19200, 11=21600, 12=24000, 13=26400, 14=28800, 15=31200, 16=33600, 17=28000, 18=29333, 19=30666, 20=32000, 21=33333, 22=34666, 23=36000, 24=37333, 25=38666, 26=40000, 27=41333, 28=42666, 29=44000, 30=45333, 31=46666, 32=48000, 33=49333, 34=50666, 35=52000, 36=53333, 37=54666, 38=56000, 39=57333
&R1	RTS を無視する
&R2	RTS 検出時のみ受信データを送信
&S0	データ セット レディ(DSR)は常にオン
&S1	データ セット レディ(DSR)でモデムがデータ送信準備完了を知らせる
&Un	最小リンク レートを設定する(bps): 0=変数, 1=300, 2=1200, 3=2400, 4=4800, 5=7200, 6=9600, 7=12000, 8=14400, 9=16800, 10=19200, 11=21600, 12=24000, 13=26400, 14=28800, 15=31200, 16=33600, 17=28000, 18=29333, 19=30666, 20=32000, 21=33333, 22=34666, 23=36000, 24=37333, 25=38666, 26=40000, 27=41333, 28=42666, 29=44000, 30=45333, 31=46666, 32=48000, 33=49333, 34=50666, 35=52000, 36=53333, 37=54666, 38=56000, 39=57333
&W0	ユーザ プロファイル 0 をメモリに書き込む
&W1	ユーザ プロファイル 1 をメモリに書き込む
&Zn=s	電話番号を書き込む (n= 0,1,2,3)
&Zn?	電話番号を表示する

S レジスタ (3Com)

レジスタ	機能(3Com)	範囲	出荷時の設定
S0	モデムの自動応答までの呼び出し回数を設定する(0 に設定すると自動応答が無効、手動応答が有効になる)	0-255	0 リング
S1	呼び出し回数をカウントし記録する	0-255	0 リング
S2	エスケープ文字に使用する ASCII コードを指定する	0-127	43
S3	CR(復改)に使う ASCII コードを指定する	0-127	13
S4	LF(改行)に使う ASCII コードを指定する	0-127	10
S5	BS(後退)に使う ASCII コードを指定する	0-127	8

レジスタ	機能(3Com)	範囲	出荷時の設定
S6	ダイヤル開始までの待ち時間; AT コマンド X が X2 または X4 に設定された場合、モデムはこのレジスタを無視し、発信音を検出するとただちにダイヤルする (秒)	2-255	3
S7	キャリア検出までの待ち時間(秒)	1-255	60
S8	ダイヤル中のポーズ時間(ダイヤル文字列内にカンマを入れる) (秒)	0-255	2
S9	キャリア信号認識までの時間(1/10 秒)	1-255	6
S10	キャリア喪失から回線切断までの時間; S10=255 の値にすると、キャリアを喪失してもモデムは切断されない;DTRがないとモデムを切断する(1/10 秒)	1-255	7
S11	タッチトーン ダイヤルの時間と間隔(ミリ秒)	50-255	70
S12	エスケープ コードの実行後の遅延時間(1/50 秒)	0-255	1
S13	ビットマップ レジスタ 1=DTR 喪失でリセット 2=非 ARQ 時にバッファを縮小 4=DEL を後退として設定 8=DTR 検出時に DS0 を行う 16=リセット時に DS0 を行う 128=エスケープ コードで回線切断	0-255	0
S15	ビットマップ レジスタ 1=V.22 接続時に MNP/V.42 を無効にする 2=V.22bis 接続時に MNP/V.42 を無効にする 4=V.32, V.34 接続時に MNP/V.42 を無効にする 8=MNP ハンドシェイクを無効にする 16=MNP レベル 4 を無効にする 32=MNP レベル 3 を無効にする 64= MNP と完全互換でないモデムに接続するときに使用 128=V.42 を無効にする 136=V.42 検出フェーズを無効にする	0-255	0
S16	ビットマップ レジスタ.2=ダイヤル テスト	2	0
S18	A コマンド &T 用テスト タイマ - AT&T=0 の時、タイマは無効(秒)	0-255	0
S19	タイマ非活動時間; S19=0 でタイマを無効に設定 (分)	0-255	0
S21	エラー訂正ブレイクの長さを設定 (1/100 秒)	0-255	1
S22	XON 用 ASCII コードを指定する	0-127	17
S23	XOFF 用 ASCII コードを指定する	0-127	19

仕様と規制情報
モデム コード一覧

レジスタ	機能(3Com)	範囲	出荷時の設定
S25	DTR 遅延タイム インジケータ (1/100 秒)	0-255	0
S27	ビットマップ レジスタ 1=V.21 モード 2=TCM 無効 4=V.32 無効 8=2100Hz 無効 16=V.23 フォールバック有効 32=V.32bis 無効 128=ソフトウェア互換モード		0
S28	V.32 ハンドシェーク時間 (1/10 秒)	0-255	8
S29	V.21 アンサー モード フォールバック タイマ(1/10 秒)	0-255	20
S32	ビットマップ レジスタ(接続と動作) 1=V.8 でコール インジケータ有効 2=V.8 モード有効 8=V.34 変調方式無効 16=V.34+ 変調方式無効 32=X2 変調方式無効 64=V.90 変調方式無効		2
S33	ビットマップ レジスタ(V.34 と V.34+ における接続セットアップと制御フラグ) 1=2400 シンボル レート無効 2=2743 シンボル レート無効 4=2800 シンボル レート無効 8=3000 シンボル レート無効 16=3200 シンボル レート無効 32=3429 シンボル レート無効 128=シェーピング無効		0
S34	ビットマップ レジスタ(V.34 および V.34+ 接続セットアップと制御フラグ) 16=ノンリニア コーディング無効 32=送信レベル偏移無効 64=プリエンファシス無効 128=プリコーディング無効		0
S38	強制切断までの遅延時間 (オプション) (秒)	0-255	0

応答コード抜粋 (3Com)

コード	意味
0	OK
1	CONNECT(コネクト)
2	RING(リング)
3	NO CARRIER(キャリア検出失敗)
4	ERROR(エラー)
5	CONNECT 1200(1200 でコネクト)
6	NO DIAL TONE(ダイヤルトーンが検出されない)
7	BUSY(話中)
8	NO ANSWER(応答無し)

モデム コード一覧(Ambit)

次の AT コマンド テーブルでは、デフォルト設定は太字で表示されます。A/を除く、以下の AT コマンドは、先頭に“AT”をつけて入力します。

AT コマンド(Ambit)

コマンド	機能 (Ambit)
A/	コマンドの再実行 (AT は不要)
A	オフフックに移り、応答を試みる
B0	V.22 接続 @1200 bps を選択
B1	Bell 212A 接続 @1200 bps を選択
C1	OK メッセージを戻す
Dn	ダイヤルの各パラメータ
E0	コマンド エコー禁止
E1	コマンド エコー有効
H0	ハングアップ シーケンスを実行する
H1	オンフックならば、オフフックしコマンド モードに入る
I0	製品コードを報告する
I1	算出前チェックサムを報告する

仕様と規制情報
モデム コード一覧

コマンド	機能 (Ambit)
I2	算出されたチェックサムが以前書き込まれたチェックサムと同じか、そのチェックサム値が FFh の場合、"OK"を報告する
I3	ファームウェア リビジョンとインタフェース タイプを報告する
I4	OEM でプログラムされたレスポンスを報告する
I5	国別コード パラメータを報告する
I6	モデム データのパンプ モデルとコード リビジョンを報告する
I7	DAA コードをレポートする
L0	スピーカの音量を小に設定する
L1	スピーカの音量を小に設定する
L2	スピーカの音量を中に設定する
L3	スピーカの音量を大に設定する
M0	スピーカをオフにする
M1	スピーカをハンドシェーク中はオフ、キャリア受信中はオフにする
M2	スピーカをハンドシェーク中、キャリア受信中心オンにする
M3	スピーカをダイヤル中、キャリア検出中はオフ、応答中はオンにする
N0	自動モード検出をオフにする
N1	自動モード検出をオンにする
O0	オンラインにする
O1	オンラインに移行し、リトレーニング シーケンスを実行する
P	パルス ダイヤルを強制実行する
Q0	応答コードを DTE に許可する
Q1	応答コードを DTE に禁止する
Sn	S レジスタ "n"をデフォルトとして選択
Sn?	S レジスタ "n"の値を戻す
Sn=v	デフォルトの S レジスタ "n" を"v" に設定する
T	DTMF ダイヤルを強制実行する
V0	短い形式の応答コードを報告する
V1	長い形式の応答コードを報告する
W0	DTE 速度のみを報告する

コマンド	機能 (Ambit)
W1	回線速度、EC プロトコル、DTE 速度を報告する
W2	DCE 速度のみを報告する
X0	基本発信状況応答コードを報告 例:OK, CONNECT, RING, NO CARRIER(可能な場合はビジー、ダイヤルトーンの検出なし)NO ANSWER および ERROR 等
X1	基本発信状況応答コードを報告 例:OK, CONNECT, RING, NO CARRIER(可能な場合はビジー、ダイヤルトーンの検出なし)NO ANSWER および ERROR 等
X2	基本発信状況応答コードを報告 例:OK, CONNECT, RING, NO CARRIER(可能な場合はビジー、ダイヤルトーンの検出なし)NO ANSWER, Connect XXXX, および ERROR 等
X3	基本発信状況応答コードと接続レートを報告 例:OK, CONNECT, RING, NO CARRIER, NO ANSWER, Connect XXXX, Busy, および ERROR 等
X4	基本発信状況応答コードと接続レートを報告 例:OK, CONNECT, RING, NO CARRIER, NO ANSWER, Connect XXXX, Busy, No Dial Tone および ERROR 等
Y0	オンフック前の長スペース切断を無効にする
Y1	オンフック前の長スペース切断を有効にする
Z0	ウォーム リセット後保存しておいたプロファイル 0 を復元する
Z1	ウォーム リセット後ソフトリセットを行い、保存しておいたプロファイル 1 を復元する
&C0	ソフトリセットを行い、キャリアの状態に関係なく RLSD をアクティブにする
&C1	RLSD はキャリアの状態にしたがう
&D0	&Qn ごとに DTR オン/オフ制御 &Q0, &Q5, &Q6:モデムは DTR を無視する &Q1, &Q4:回線切断 &Q2, &Q3:回線切断
&D1	&Qn ごとに DTR オン/オフ制御 &Q0, &Q1, &Q4, &Q5, &Q6:非同期エスケープ &Q2, &Q3:回線切断
&D2	&Qn ごとに DTR オン/オフ制御 &Q0 ~ &Q6 まで解釈する:回線切断
&D3	&Qn ごとに DTR オン/オフ制御 &Q0, &Q1, &Q4, &Q5, &Q6:ソフトリセット &Q2, &Q3:回線切断
&F0	工場出荷時の設定 0 を復元する
&F1	工場出荷時の設定 1 を復元する

仕様と規制情報
モデム コード一覧

コマンド	機能 (Ambit)
&G0	ガード トーン無効
&G1	ガード トーン無効
&G2	1800 Hz のガード トーン有効
&J0	S レジスタは互換があるときのみ応答する
&J1	S レジスタは互換があるときのみ応答する
&K0	DTE/DCE フロー制御無効
&K3	RTS/CTS DTE/DCE フロー制御有効
&K4	XON/XOFF DTE/DCE フロー制御有効
&K5	透過 XON/ XOFF フロー制御有効
&K6	RTS/CTS および XON/XOFF フロー制御有効
&L0	ダイヤルアップ回線操作を選択する
&M0	直接非同期モードを選択する
&M1	非同期オフラインコマンドモードで同期接続を選択する
&M2	非同期オフラインコマンドモードでの同期接続を選択し、ディレクトリ 0 の DTR ダイアルを有効にする
&M3	非同期オフラインコマンドモードで同期接続を選択し、DTR を Talk/Data スイッチとして機能するようにする
&P0	39%/61% メーク/ブレイクで 10 pps パルス ダイアルを設定する
&P1	33%/67% メーク/ブレイクで 10 pps パルス ダイアルを設定する
&P2	39%/61% メーク/ブレイクで 20 pps パルス ダイアルを設定する
&P3	33%/67% メーク/ブレイクで 20 pps パルス ダイアルを設定する
&Q0	直接非同期モードを選択する
&Q1	非同期オフラインコマンドモードで同期接続を選択する
&Q2	非同期オフラインコマンドモードでの同期接続を選択し、ディレクトリ 0 の DTR ダイアルを有効にする
&Q3	非同期オフラインコマンドモードで同期接続を選択し、DTR を Talk/Data スイッチとして機能するようにする
&Q4	Hayes AutoSync モードを選択する
&Q5	モデムがエラー訂正済みリンクをネゴシエートする
&Q6	ノーマル モードでの非同期操作を選択する
&R0	CTS で RTS(同期)をトラッキングする、または CTS は通常 ON で、フロー制御の要求があったときだけ OFF になる (非同期)

コマンド	機能 (Ambit)
&R1	CTS は常にアクティブ(同期)である、または CTS は通常 ON で、フロー制御の要求があったときだけ OFF になる (非同期)
&S0	DSR は常にアクティブ
&S1	DSR はアンサー トーンが検出された後オンになり、キャリアがなくなった後オフになる
&T0	実行中のテストをすべて終了する
&T1	ローカル アナログ ループバックを開始する
&T2	ERROR 応答コードを戻す
&T3	ローカル デジタル ループバックを開始する
&T4	リモート デジタル ループバックを許可する (RDL)
&T5	リモート デジタル ループバック要求を禁止する
&T6	セルフテストなしの RDL を要求する
&T7	セルフテスト付きの RDL を要求する
&T6	セルフテストなしの RDL を要求する
&T7	セルフテスト付きの RDL を要求する
&T8	セルフテスト付きのローカル アナログ ループを開始する
&V	現在の設定内容と保存されているプロファイルを表示する
&V1	最新の接続統計を表示する
&W0	現在の設定をプロファイル 0 として書き込む
&W1	現在の設定をプロファイル 1 として書き込む
&X0	送信クロック用内部タイミングを選択する
&X1	送信クロック用外部タイミングを選択する
&X2	送信クロック用スレーブ受信タイミングを選択する
&Y0	電源投入と同時に保存されたプロファイル 0 を呼び出す
&Y1	電源投入と同時に保存されたプロファイル 1 を呼び出す
&Zn=x	デジタル文字列 x (34 文字まで) を n に記憶する(0~3)
%E0	回線品質モニタと自動リトレーニングを無効にする
%E1	回線品質モニタと自動リトレーニングを有効にする
%E2	回線品質モニタとフォールバック/フォール フォワードを有効にする
%L	受信した回線信号レベルを戻す

仕様と規制情報
モデム コード一覧

コマンド	機能 (Ambit)
%Q	回線信号の質を報告する
%TTn	信号レベルの PTT テスト:00-09=DTMF ダイヤル 0-9, 0A=DTMF *, 0B=DTMF #, 0C=DTMF A, 0D=DTMF B, 0E=DTMF C, 0F=DTMF D, 10=V.21 チャネル 1 マーク記号, 11=V.21 チャネル 2 マーク記号, 15=V.22 1200bps で信号発信, 16=V.22bis 2400bps で信号発信, 17=V.22 アンサー シグナリング, 18=V.22bis アンサー シグナリング 19=V.21 チャネル 1 スペース記号, 1A=V.21 チャネル 2 スペース記号, 20=V.32 9600bps, 21=V.32bis 14400bps, 30=サイレンス, 31=V.25 アンサー トーン, 32=1800Hz ガート トーン, 33=V.25 コーリング トーン(1300Hz), 34=Fax コーリング トーン(1100Hz), 40=V.21 チャネル 2, 41=V.27ter 2400bps, 42=V.27ter 4800bps, 43=V.29 7200bps, 44=V.29 9600bps, 45=V.17 7200bps 長, 46=V.17 7200bps 短, 47=V.17 9600bps 長, 48=V.17 9600bps 短, 49=V.17 12000bps 長, 4A=V.17 12000bps 短, 4B=V.17 14400bps 長, 4C=V.17 14400bps 短, 60=2400bps (V.34 のみ), 61=4800bps (V.34 のみ), 62=7200bps (V.34 のみ), 63=9600bps (V.34 のみ), 64=12000bps (V.34 のみ), 65=14400bps, 66=16800bps, 67=19200bps, 68=21600bps, 69=24000bps, 6A=26400bps, 6B=28800bps, 6C=31200bps, 6D=33600bps
	モデムが DTE からブレイク信号を受信したとき:
¥K0,2,4	オンライン コマンド モードに入る。相手モデムにブレイク信号を送信しない
¥K1	バッファをクリアし、相手モデムにブレイク信号を送信する
¥K3	相手モデムに直ちにブレイク信号を送信する
¥K5	送信データ シーケンス中に相手モデムにブレイク信号を送信する
	オンライン コマンド状態のときに ¥B コマンドを受信したとき:
¥K0,1	バッファをクリアし、相手モデムにブレイク信号を送信する
¥K2,3	相手モデムに直ちにブレイク信号を送信する
¥K4,5	送信データ シーケンス中に相手モデムにブレイク信号を送信する
	モデムが相手モデムからブレイク信号を受信したとき:
¥K0,1	バッファをクリアし、DTE にブレイク信号を送信する
¥K2,3	ブレイク信号を直ちに DTE に送信する
¥K4,5	受信データとともにブレイク信号を DTE に送信する
¥N0	通常速度バッファ モードを選択する
¥N1	直接モードを選択する
¥N2	相手モデムのモードに依存した接続モードを選択する
¥N3	相手モデムのモードを自動選択する
¥N4	LAPM モードになる
¥N5	MNP モードになる

コマンド	機能 (Ambit)
¥V0	接続メッセージをコマンド設定値 X, W, および S95 で制御する
¥V1	接続メッセージを一行で表示する
+MS=a,b,c,d	変調方式を選択する (b, c, および d はオプション) a はモードを示す (bps): 0=V.21 (300), 1=V.22 (1200), 2=V.22bis (2400, 1200), 3=V.23 (1200, 300), 9=V.32 (9600, 4800), 10=V.32bis (14400, 12000, 9600, 7200, 4800), 11=V.34 (33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400), 17=X2, V.90 (57333-33333), 64=Bell 103 (300) b は全自動モード 0=無効, 1=有効 c は最低通信速度 (bps): 300-33600 d は最大通信速度 (bps): 300-33600
+H0	Rockwell Protocol Interface (RPI)/Video レディ モードを無効にする
+H1	RPI を有効にし、DTE 速度を 19200 bps に設定する
+H2	RPI を有効にし、DTE 速度を 38400 bps に設定する
+H3	RPI を有効にし、DTE 速度を 57600 bps に設定する
+H11	RPI+ モードを有効にする
+H16	Video Ready モードを有効にする
**0	直前に検出された速度で不揮発性メモリにダウンロードする
**1	38.4 kbps で不揮発性メモリにダウンロードする
**2	57,6 kbps で不揮発性メモリにダウンロードする
-SDR=0	ディスティンクティブ リングを無効にする
-SDR=1	ディスティンクティブ リングのタイプ 1 を有効にする
-SDR=2	ディスティンクティブ リングのタイプ 2 を有効にする
-SDR=3	ディスティンクティブ リングのタイプ 1 と 2 を有効にする
-SDR=4	ディスティンクティブ リングのタイプ 3 を有効にする
-SDR=5	ディスティンクティブ リングのタイプ 1 と 3 を有効にする
-SDR=6	ディスティンクティブ リングのタイプ 2 と 3 を有効にする
-SDR=7	ディスティンクティブ リングのタイプ 1、2 と 3 を有効にする
ECC コマンド	
%C0	データ圧縮を無効にする
%C1	MNP 5 データ圧縮を有効にする
%C2	V.42 bis データ圧縮を有効にする

仕様と規制情報
モデム コード一覧

コマンド	機能 (Ambit)
%C3	V.42 bis と MNP 5 圧縮の両方を有効にする
¥A0	MNP の最大ブロック サイズを 64 字に設定する
¥A1	MNP の最大ブロック サイズを 128 字に設定する
¥A2	MNP の最大ブロック サイズを 192 字に設定する
¥A3	MNP の最大ブロック サイズを 256 字に設定する
¥Bn	n の長さのブレイク信号を送信する(単位:100 ミリ秒)
MNP 10 コマンド	
-K0	MNP 10 拡張サービスを無効にする
-K1	MNP 10 拡張サービスを有効にする
-K2	MNP 10 拡張サービスの検出のみを無効にする
-SEC=0	MNP 10-EC を無効にする
-SEC=1, [<tx level>]	MNP 10-EC を有効にし、送信レベル <tx level> 0 を 30 に設定する (0 dBm ~ -30 dBm)
FAX Class 1	
+Fclass=1	サービス クラス
+FAE=0	データ/ファックス自動着信を無効にする
+FAE=1	データ/ファックス自動着信を有効にする
+FRH=n	HDLC フレーミングとともにデータを受信する
+FRM=n	データを受信する
+FRS=n	受信サイレンス、n×10 ミリ秒
+FTH=n	HDLC フレーミングとともにデータを受信する
+FTM=n	データを送信する
+FTS=n	送信を停止し、待機する n×10 ミリ秒
AT* コマンド	
*B	ブラックリスト番号を表示する
*Cn	データ コーリング トーンの選択
*NCn	国別パラメータを選択する:0=米国, 1=日本, 2=ドイツ, 3=UK, 4=フランス, 5=オランダ, 6=イタリア, 7=オーストラリア, 8=スウェーデン, 9=デンマーク, 10=ニュージーランド, 11=韓国, 12=中国, 13=シンガポール, 14=マレーシア, 15=南アフリカ, 16=ポーランド, 17=チェコ共和国, 18=ハンガリー, 19=香港, 20=トルコ, 21=スペイン

S レジスタ (Ambit)

レジスタ	機能 (Ambit)	範囲/単位	出荷時の設定
S0	自動応答までの呼び出し回数	0-255/リング	0
S1	リング カウンタ	0-255/リング	0
S2	エスケープ キャラクタ	0-255/ASCII	43
S3	複改キャラクタ	0-127/ASCII	13
S4	改行キャラクタ	0-127/ASCII	10
S5	後退キャラクタ	0-255/ASCII	8
S6	発信音の待機時間	2-255/秒	2
S7	キャリアを検出してから応答するまでの待ち時間	1-255/秒	50
S8	ダイヤル遅延コマンドによる停止時間	0-255/秒	2
S9	キャリアをモデムが認識するまでの時間	1-255/.1 秒	6
S10	キャリアを喪失してから回線を切断するまでの時間	1-255/.1 秒	14
S11	DTMF トーン時間	50-255/.001 秒	95
S12	エスケープ コード実行後の遅延時間	0-255/.02 秒	50
S14	一般のビットマップ オプション ステータス		138 (8Ah)
S16	テスト モード時のビットマップ オプション ステータス(&T)		0
S18	テスト タイマ	0-255/秒	0
S19	AutoSync オプション		0
S20	AutoSync HDLC アドレスまたは BSC Sync キャラクタ	0-255	0
S21	V.24/一般のビットマップ オプション ステータス		52 (34h)
S22	スピーカ/結果 ビットマップ オプション ステータス		117 (75h)
S23	一般のビットマップ オプション ステータス		62 (3Dh)
S24	スリープ不活動タイマ	0-255/秒	0
S25	DTR オフ状態保持時間	0-255/秒または.01 秒	5
S26	RTS-CTS 遅延時間	0-255/.01 秒	1
S27	一般のビットマップ オプション ステータス		73 (49h)
S28	一般のビットマップ オプション ステータス		0
S29	各ダイヤル パラメータの時間をフラッシュ	0-255/10 ミリ秒	70

仕様と規制情報
モデム コード一覧

レジスタ	機能 (Ambit)	範囲/単位	出荷時の設定
S30	切断不活動タイマ	0-255/10 秒	0
S31	一般のビットマップ オプション ステータス		194 (C2h)
S32	XON キャラクタ	0-255/ASCII	17 (11h)
S33	XOFF キャラクタ	0-255/ASCII	19 (13h)
S36	LAPM エラー制御		7
S37	回線接続速度		0
S38	強制切断までの待ち時間	0-255/秒	20
S39	フロー制御 ビットマップ オプション ステータス		3
S40	一般のビットマップ オプション ステータス		104 (68h)
S41	一般のビットマップ オプション ステータス		195(C3h)
S46	データ圧縮制御		138
S48	V.42 ネゴシエーション制御		7
S82	LAPM ブレーク制御		128 (40h)
S86	コール エラー理由コード		0-255
S91	PSTN 送信減衰レベル	0-15/dBm	10 (国によつて異なる)
S92	ファックス送信減衰レベル	0-15/dBm	10 (国によつて異なる)
S95	応答コード メッセージ制御		0

応答コード抜粋(Ambit)

コード	意味
0	OK
1	CONNECT(コネクト)
2	RING(リング)
3	NO CARRIER(キャリア検出失敗)
4	ERROR(エラー)
5	CONNECT 1200(1200 でコネクト)
6	NO DIAL TONE(ダイヤル トーンが検出されない)

仕様と規制情報
モデム コード一覧

コード	意味
7	BUSY(話中)
8	NO ANSWER(応答無し)

仕様と規制情報
安全のために

安全のために

電源コード

AC アダプタに付属している電源コードは、使用する電源コンセントおよび電圧の条件に合っていないかもしれません。この AC アダプタは、使用する電源に合った電源コードを使用することを前提として認定されています。ただし、旅行先で異なる電源や電圧に接続する必要がある場合は、以下に明記されている電源コードのいずれかをご利用ください。電源コード(下記にリストされた国用の電源コードを含む)または別の AC アダプタのご購入については、HP の販売代理店または最寄りの営業所までお問い合わせください。

国名	定格電圧と電流	HP 部品番号
カナダ メキシコ フィリッピン 台湾 米国	125 Vac (3 A)	8120-6313
東西ヨーロッパ エジプト サウジアラビア	250 Vac (2.5 A)	8120-6314
香港 シンガポール 英国	250 Vac (2.5 A)	8120-8699
オーストラリア ニュージーランド	250 Vac (2.5 A)	8120-6312
日本	125 Vac (3 A)	8120-6316
インド 南アフリカ	250 Vac (2.5 A)	8120-6317
アルゼンチン	250 Vac (2.5 A)	8120-8367
チリ	250 Vac (2.5 A)	8120-8452
中華人民共和国	250 Vac (2.5 A)	8120-8373

快適な作業を行うために

警告

キーボードやその他の入力デバイスを不適切な方法で使用すると、身体の障害を引き起こす可能性があることが報告されています。これを避けるための情報は、オンラインの HP Library にある『快適な操作環境』、または、人間工学専門ウェブサイト www.hp.com/ergo を参照してください。

バッテリー取り扱い上のご注意

- 火災、やけど、バッテリーパックの損傷などの危険を避けるには、バッテリーの接触部に金属製のものを触れないようにしてください。
- バッテリーパックは、HP ノートブックと互換性のあるものだけを使用してください。詳細は最寄りの HP 窓口にお問い合わせください。120ページの「HP カスタマケア センター」を参照してください。
- バッテリーパックを分解しないでください。内部に修理可能な部品はありません。バッテリーパックを火や水の中に捨てないでください。
- 損傷したり、液漏れしているバッテリーの取り扱いには特別な注意を払ってください。誤って電解液に触れた場合は、触れた部分を石鹼と水で洗ってください。目に入った場合は、15 分間流水で目を洗い、医師の診断を受けてください。
- バッテリーパックを高温の場所 (60 °C 以上) に保管しないでください。
- バッテリーを使用しないときは、付属のバッテリー用の袋に格納してください。
- バッテリーパックを破棄する場合は、バッテリーの破棄あるいは再生に関する規制について、管轄部署にお問い合わせください。
- 新規バッテリーの購入に関しては、お近くの HP 販売店かセールスオフィスにお問い合わせください。
- 環境温度が 45 °C を超える場合は、バッテリーパックを充電しないでください。

仕様と規制情報 安全のために

レーザーの安全性について

本機で使用する CD-ROM および DVD ドライブは、U.S. Department of Health and Human Services (DHHS) Radiation Performance Standard および International Standards IEC 825 / IEC 825-1 (EN60825 / EN60825-1) による Class 1 レーザーデバイスの認可を受けています。これらのデバイスは有害とはみなされていませんが、ご使用に際しては以下の注意事項を守って使用ください。

- 使用手順にしたがって正しくお使いください。
- 修理サービスが必要な場合は、正規 HP サービス センターまでご連絡ください。120 ページの「HP カスタマケア センター」を参照してください。
- ユニットの調整は決して行わないでください。
- レーザー光線が直接目に入らないようにしてください。ドライブ本体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT

クラス 1 レーザー製品

LED の安全性について

本機右側面の赤外線ポートは、International Standard IEC 825-1 (EN60825-1) に適合した Class 1 LED (light emitting diode) デバイスの認可を受けています。このデバイスは有害とはみなされていませんが、以下の注意事項を守って使用ください。

- 修理サービスが必要な場合は、正規 HP サービス センターまでご連絡ください。120 ページの「HP カスタマケア センター」を参照してください。
- ユニットの調整は決して行わないでください。
- 赤外線 LED ビームが直接目に入らないようにしてください。LED ビームは不可視の光線で、肉眼では見えないのでご注意ください。
- 光学機器などを使用して、赤外線 LED ビームを見ようとししないでください。

CLASS 1 LED PRODUCT

クラス 1 LED 製品

規制に関する情報

このセクションには、特定地域で本機が準拠している規制に関する情報が収められています。Hewlett Packard の許可なく 本機に改ざんを加えると、該当地域で本機を操作する許可が無効になります。

Japan

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境でを使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると受信障害を引き起こすことがあります。

取り扱い説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

仕様と規制情報
規制に関する情報

International

Products sold internationally by Hewlett-Packard and its authorized dealers meet the specifications listed below.

Declaration of Conformity (according to ISO/IEC Guide 22 and EN 45014)

Address:	Hewlett-Packard Company Mobile Computing Division 19310 Pruneridge Ave. Cupertino, CA 95014
Product name:	HP OmniBook 6000
Options:	All
	declares that the following product
	conforms to the following product specifications
Safety:	IEC 950:1991+A1,A2,A3,A4 / EN 60950 (1992)+A1,A2,A3,A4,A11 GB4943-1995 IEC 825-1:1993 / EN 60825-1:1994, Class 1
EMC:	CISPR 22:1993+A1,A2 / EN 55022 (1994)+A1,A2: Class B [1] GB9254-1988 EN 50082-1:1992 IEC 801-2:1991 / prEN 55024-2 (1992): 4kV CD, 8kV AD IEC 801-3:1984 / prEN 55024-3 (1991): 3V/m IEC 801-4:1988 / prEN 55024-4 (1992): 0.5 kV signal lines, 1.0kV power lines FCC Title 47 CFR, Part 15 Class B Ansi C63.4:1992 AS/NZS 3548:1995 Rules and Regulations of Class B
Supplementary Information:	The product herewith complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and EMC Directive 89/336/EEC and carries the CE mark accordingly. This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation. The HP ac adapter used with this product is designed to operate on all power systems, other than IT power systems. [1] The product was tested in a typical configuration with Hewlett-Packard personal computer peripherals.
Quality Department, Hewlett-Packard Company Mobile Computing Division	

索引

A

AC(タイムアウト), 82
AC アダプタ, 11
 ジャック, 15
 接続, 20
Agaté Tioman ホットスワップ
 使用方法, 55
 取り付け, 54
AT コマンド, 62, 129

B

BIOS
 アップデート, 118
 パスワード, 37
BIOS Setup ユーティリティ
 Boot メニュー, 83
 Exit メニュー, 83
 Main メニュー, 79
 Power メニュー, 82
 Security メニュー, 81
 System Devices メニュー, 80
 外部ディスプレイの設定, 79
 使用方法, 78
Boot メニュー(BIOS), 83

C

Caps Lock, 17
Cardbus カード, 65
CD-ROMドライブ
 CD の取り外し, 57
 CD の挿入, 57
 取り付け, 55
CD の取り外し, 57

CD の挿入, 57
COM1 ポート, 14, 15
Corporate Evaluator's Guide, 12
Customer Care Web サイト, 12

D

DiagTools, 115
DVDドライブ
 トラブルシューティング, 93
 取り付け, 55
 ムービーの再生, 58

E

Exit メニュー(BIOS), 83

F

F10 (診断テスト), 115
Fn キー
 + F1 (輝度を下げる), 30
 + F12 (ハイバネート), 28
 + F2 (輝度を下げる), 28
 + F2 (輝度を上げる), 30
 + F5 (ディスプレイ), 28
 + F7 (ミュート), 28
 + F8 (キーパッド), 29
 + NumLock (スクロール ロック), 28
 + 下矢印 (音量), 28
 + 上矢印 (音量), 28
 一時的にオン, 29

H

HP Customer Care Web サイト, 12
HP Library, 12
HP Notes, 12
HP サポート, 92

I

Internet Explorer, 60
ISP, 60

K

Kensington lock, 39
Keypad Lock, 13, 17

L

LAN
 接続, 64
 トラブルシューティング, 104
LAN ポート
 インジケータ ランプ, 64
Library (HP), 12
LPT1 ポート, 14

M

Main メニュー(BIOS), 79
Mini-PCI, 14
MiniTel, 60

N

Notebook

Web サイト, 12
Num Lock, 13, 17, 29

O

Outlook Express, 63

P

PC-100 RAM, 101
PCMCIA cards, 65
PC カード
 節電, 51
 装着, 65
 停止, 66
 動作確認済み, 66
 トラブルシューティング, 105
PC カード スロット, 13
PC の識別, 40
Power メニュー(BIOS), 82
PS/2 デバイス
 接続, 70

R

RAM
 PC-100, 101
 追加, 85
 取り外し, 86
Recovery CD
 使用方法, 117

S

Scroll Lock, 13, 17
Security メニュー(BIOS), 81
Smart CPU, 82
SpeedStep テクノロジー, 82
System Devices メニュー(BIOS), 80

T

tattooing, 40
TimTel, 60
TopTools, 84

U

URL, 12
USB
 接続, 70
 トラブルシューティング ポート, 110

V

VGA 出力, 14
VirusScan, 40

W

Web サイト, 12
Web ブラウザ, 61
Windows
 再インストール, 117
 セットアップ, 22
 パスワード, 37
Windows キー, 29

Y

Y2K, 22

Z

zoomed video, 65

あ

アクセサリ
 ドッキング製品, 73
 プラグイン モジュール, 55
アプリケーション キー, 29
安全性について
 赤外線ポート, 149
 レーザー, 149
安全な電源コード, 147

い

印刷
 互換プリンタ, 69
 トラブルシューティング, 110
 パラレル接続, 69

インスタントオン, 24
インストール
 TopTools, 84
 VirusScan, 40
 出荷時のソフトウェア, 117
 ホットスワップ ソフトウェア, 54
インターネット
 接続, 60, 61
 ブラウザ, 61
インターネット サービス プロバイダ, 59, 60

お

オーディオ
 音量の調整, 92
 接続, 71
 トラブルシューティング, 92
オーディオ ジャック, 13
オーディオオフ ボタン, 13
オーディオオフ ランプ, 31
オフ
 電源オフ, 24
温度
 過熱, 97
 制限, 128
音量
 トラブルシューティング, 92

か

カーソル(ポインタ), 26
カーソル(ポインタ), 27
カード (PCMCIA), 65
外部モニタ, 68
開閉スイッチ, 48
拡張メモリ, 79
過熱, 97
換気, 34, 97

き

キーパッド
 埋め込みテンキー, 29
キーボード
 Num Lock, 29
 埋め込みテンキー, 29
 外部 Fn キー, 80

ステータス ランプ, 17
トラブルシューティング, 98
人間工学に合った使用, 18
キーボード ステータス ランプ, 13
規制情報, 150
輝度
調整, 28, 30
起動, 24
起動時
トラブルシューティング, 113

け

ケーブル接続ソフトウェア
赤外線通信, 72

こ

コンピュータ
BIOS 設定の変更, 78
Windows の再インストール,
117
お手入れ, 34
過熱, 97
換気, 97
起動と停止, 24
清掃, 36
テスト, 115
電源を入れる, 21
取扱い, 34
リセット, 25
コンピュータのテスト, 115
梱包内容の確認, 10

さ

サービス (修理), 92
サスペンド
タイムアウト, 82
トラブルシューティング, 114
レジューム, 114
サスペンド
節電, 50
ディスプレイの寿命, 35
サポート チケット, 115

し

システム エラー: ドライブ メッセージを読み取れない, 94
システム スタンバイ, 47
システム リソース
BIOS 設定, 80
システムオフ スイッチ
リセット, 25
シャットダウン, 47
修理, 92
依頼, 122
返送, 122
修理サービス, 122
出荷時の設定
BIOS, 79
仕様, 126
ハードウェア, 126
使用上の注意
バッテリーの使用, 148
シリアル ポート
位置, 14, 15
接続, 70
トラブルシューティング, 110
診断テスト
実行, 115

す

スキャンディスク, 35
スタンバイ
タイムアウト, 82
ディスプレイの寿命, 35
モード, 24
スタンバイ モード
ステータス ランプ, 17
ふたを閉じる, 48
スタンバイ モード ステータス ラン
プ, 16
ステータス ランプ
位置, 13
キーボード, 13, 17
説明, 16, 17
スピーカ
位置, 13
スリープ ボタン
位置, 13

使用法, 21

せ

清掃, 36
静電気に関する注意, 85, 86
赤外線対応プリンタ
印刷, 72
赤外線通信
トラブルシューティング, 98
赤外線デバイス
トラブルシューティング, 98
赤外線ポート
安全性について, 149
位置, 14, 15
接続, 71
トラブルシューティング, 98
モード, 80
セキュリティ
Kensington ロック, 39
PC の識別, 40
VirusScan, 40
ハードドライブのロック, 41
接続
LAN, 64
インターネット, 60
オーディオ デバイス, 71
外部モニタ, 68
シリアル デバイス, 70
赤外線デバイス, 71
パラレル デバイス, 69
プラグイン モジュール, 55
フロッピーのパラレルポートへ
の接続, 57
モデム, 60
設定
BIOS 設定, 78
タッチパッド, 27
ポインティング スティック, 27
モデム, 62
節電
バッテリー, 50
節電機能, 44
セットアップ, 18

そ

装着

PC カード, 65
外付け
キーボード, 70
マウス, 70
ソフトウェア, 10, 11
ライセンス, 3

た

タイムアウト, 82
ダイヤルアップ ネットワーク
接続, 61
タスクバー
PC カード, 66
タッチパッド, 35
トラブルシューティング, 98
タッチパッド
位置, 13
使用方法, 26
設定, 27
無効にする, 27

ち

調整
輝度, 28, 30
ディスプレイの色, 30
デスクトップ領域, 30

つ

追加
RAM, 85

て

停止, 24
ディスプレイ
BIOS 設定, 79
色, 30
外部への切り替え, 29
外部モニタ, 68
輝度, 28, 30, 35, 50
設定, 30
デュアル ディスプレイ, 69
デュアル モニタ, 69
電源を切る, 48

閉じる, 48
トラブルシューティング, 95
長く使用するには, 35
ポート, 15
ディスプレイ ポート, 14
ディスプレイオフ モード, 24
データ
保護, 35
デスクトップ領域
調整, 30
デスクトップ管理, 84
デバイス
一時的なブート順序, 25
シリアル, 70
ドッキング, 73
ブート順, 83
ポート, 67
デバイス(外部)
パラレル, 69
電圧要件, 147
電源
節約, 50
トラブルシューティング, 108
プロセッサ速度, 46, 82
モード, 24
電源オフ
コンピュータ, 24
ステータス ランプ, 17
電源オフ ステータス ランプ, 16
電源オフ ボタン
位置, 13
電源オン, 24
電源オン ボタン
位置, 13
電源コード, 147
電源の管理
自動設定, 44
電源スキーム, 45
電源ボタン
位置, 13
オンとオフ, 24
リセット, 25
電源を入れる, 21
電源を切る
ディスプレイ, 48
電子メール, 63

と

ドッキング, 74
ドッキング システム
ドッキング, 74
ドッキング解除, 75
トラブルシューティング, 95
トレイの取り付け, 73
ドッキングトレイ, 73
ドッキング ポート, 14
ドッキング ポート
位置, 15
ドッキング解除, 75
ドライブ
タイムアウト, 82
ハードドライブのロック, 41
ハードドライブ ホルダ, 89
ハードディスクの取り付け, 88
ハイバネート用パーティションの
作成, 118
プラグイン モジュール, 55
ドライブのロック, 41
トラブルシューティング
DVD ドライブ, 93
PC カード, 105
USB ポート, 110
印刷, 110
オーディオ, 92
キーボード, 98
起動時, 113
サスペンド, 114
シリアルポート, 110
赤外線通信, 98
赤外線デバイス, 98
ディスプレイ, 95
電源, 108
ドッキング システム, 95
ネットワーク, 104
ハードディスクドライブ, 96
バッテリー, 108
パラレル ポート, 110
ポインティング デバイス, 98
メモリ, 100
モデム, 101
レジャー, 114
取り付け
拡張バッテリー, 50

ドッキングトレイ, 73
ハードドライブ ホルダ, 89
ハードディスクドライブ, 88
プラグイン モジュール, 55
取り外し
PC カード, 66
RAM, 86
拡張バッテリー, 50
ハードドライブ ホルダ, 89
ハードディスクドライブ, 88

に

人間工学的アドバイス, 18

ね

ネットワーク
接続, 64
ダイヤル接続, 61
トラブルシューティング, 104

は

ハードウェア
仕様, 126
ハードディスクドライブ
タイムアウト, 82
トラブルシューティング, 96
ハイバネート用パーティション,
88
ロック, 41
ハードディスクドライブ
使用前の準備, 90
取扱い, 34
取り付け, 88
ハードドライブ ホルダ, 89
ホルダ, 89
ハードディスクの交換, 90
ハイバネート用パーティション,
118
保護, 34
ハードディスクドライブの設定, 90
ハイバネート, 47
タイムアウト, 82
ハイバネート
パーティションの作成, 118
モード, 24

ハイバネート モード
ステータス ランプ, 17
スタンバイ モード ステータス ラン
プ, 16
ハイバネート用パーティション, 88
パスワード, 37
バッテリー
拡張バッテリーの取り付け, 50
最適な使用方法, 36
残量警告, 50
持続時間, 50, 108
使用上の注意, 148
節電, 50
トラブルシューティング, 108
取り付け, 18
バッテリーの節約, 50
パラレル デバイス
接続, 69
パラレル ポート
位置, 15
トラブルシューティング, 110
フロッピーの接続, 57

ふ

ファイル
赤外線通信, 72
復元, 117
ブートデバイス順, 25, 83
復元
出荷時のソフトウェア, 117
ベイ(モジュール)
交換, 55
プラグインモジュール
交換, 55
プラグの要件, 147
プリンタ
赤外線対応, 72
プロセッサ速度, 46, 82
フロッピードライブ
接続, 55
パラレル接続, 57

ほ

ポインティング スティック
位置, 13

機能, 27
使用方法, 26
トラブルシューティング, 98
無効にする, 27
ポインティング デバイス
位置, 13
ポート
位置, 15
ポートレプリケータ, 73
ポートの位置, 14
保護, 41
Kensington ロック, 39
PC の識別, 40
VirusScan, 40
ハードディスクドライブのロック,
41
ファイル, 41
保証
修理, 122
ホットキー, 28
ホットスワップ機能
ソフトウェアのインストール, 54
ボリューム
調整, 30
ボリューム コントロール
位置, 13
ホルダ(HDD), 89

ま

マイク
位置, 13
マウス
トラブルシューティング, 98

み

ミニドック, 73
ミュート, 13

む

ムービー (DVD), 58

め

メッセージ

システム エラー: ドライブ メッセージを読み取れない, 94
メモリ
PC-100, 101
トラブルシューティング, 100
拡張, 79
追加, 85
取り外し, 86

も

モード
Smart CPU, 82
電源, 24
モジュール ベイ, 55
モジュール(プラグイン), 55
モデム
AT コマンド, 62, 129
インターネットへの接続, 60
接続, 60

設定, 62
ソフトウェア, 59
ダイヤルアップ接続, 61
電子メールの送信, 63
トラブルシューティング, 101
モニタ
BIOS 設定, 79
位置, 15
解像度, 68, 69
外部モニタ, 68
切り替え, 29
ポート, 14
モニタの位置, 15

ら

ライセンス契約, 3
ランプ
LAN ポート, 64
ランプ(ステータス), 13, 17

り

リセット, 25
リブート
一時的なブートデバイス, 25
シャットダウン後, 24
ブート デバイス, 83

れ

レーザー
安全性について, 149

ろ

ロック機能 (ケーブル), 39

わ

ワイヤレス通信, 71